

成田山五事業昭和參年報

昭和參年八月發行



始



目次

成田中學校一覽……………一

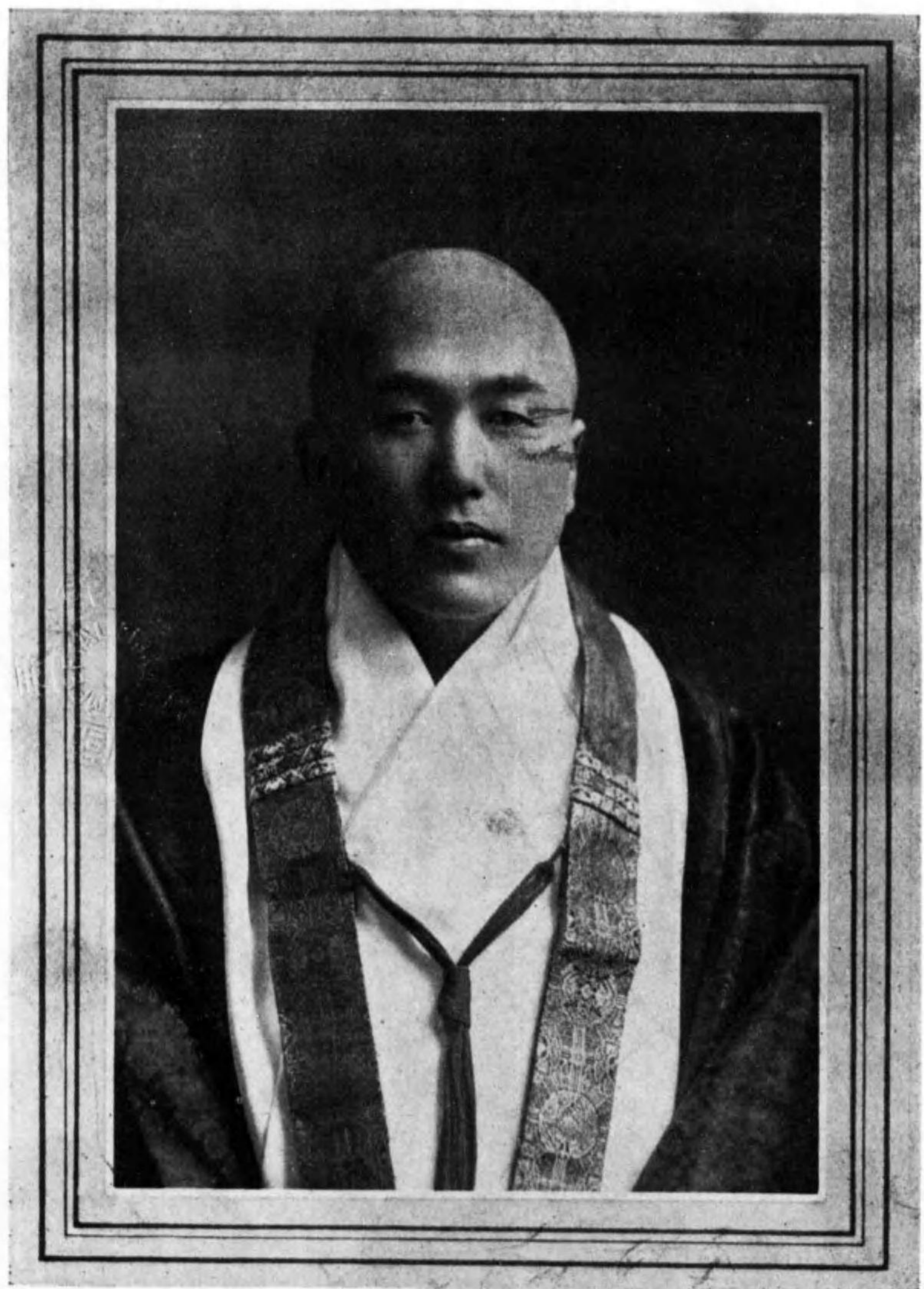
成田高等女學校一覽……………四一

成田幼稚園一覽……………六四

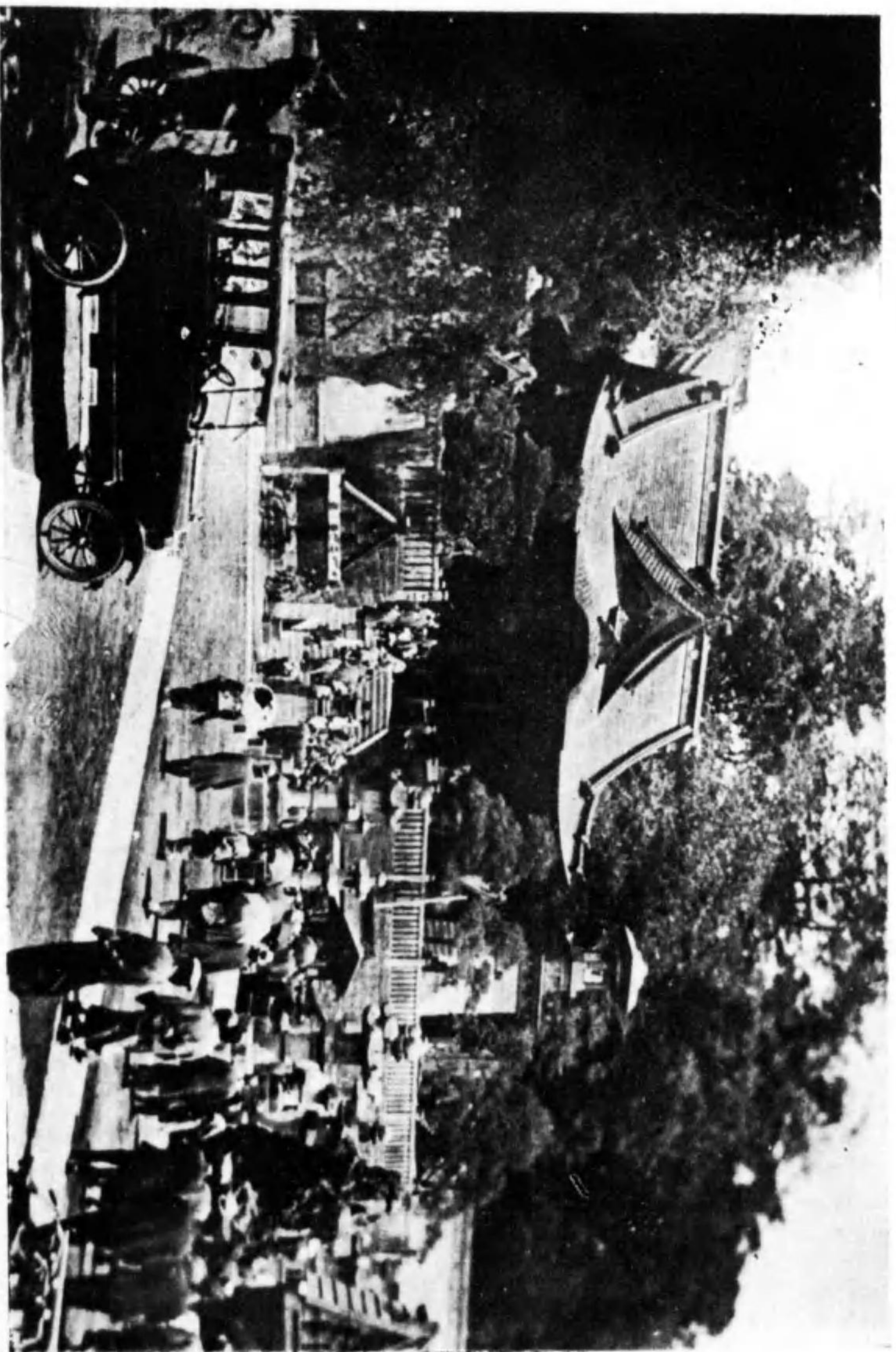
成田學園一覽……………七二

成田圖書館一覽……………八九

以上



主 山 木 荒



成 田 山 仁 至 門

新更會を組織して

成田布ま館蔵本

258.2-101

近時外來思想の浸潤漸く著しく、社會相には種々の波紋を畫き、人心は極度の動搖と不安を感じずるに至れり。此動搖と不安とに對し、世の識者先覺者は、極めて眞面目に、邦家の前途を憂慮し、これが對策として、「宗教の必要」を叫ぶもの、是れ亦漸く多きを加ふるに至れり。

「宗教の必要」は敢て今日に限れるにあらず。人生と宗教、絶対に不可分の關係にあるものなるが、只現時は異常なる思想的刺激を受け、その之を憇ふるもの特に甚だ急なるのみ。曾て我國には、或は政治的に、或は武力を以て、或は法權に依りて外來思想を防壓せんと試みたる、尊き幾多の經驗を有せり。然も今日の情勢は、何の威力を以てするも、到底其不可なるの結論に到達し、遂に「思想は思想を以て抗する」外なしと、識者間の輿論殆んど一致して、茲に「宗教の必要」を高唱さる、に至つた。

明治維新以後に於ける我國は、特に歐米文物の移入に専らにして、深く内容の適否を顧みるの暇なく、新を逐ひ奇に走り、國情の如何を省みず、一掃的に舊文明を破壊して、徒らに外來文明の摹倣にのみ急なりとの感ありき。其流弊は今日に至りて、事新らしく「建國精神の顯揚」、及び「宗教の必要」を絶叫せざるを得ざる立場

に至りしを悲む。然れども先覺者の既に此に氣附きたるは、恰も山巔に達したるもの、先づ旭光を拜するが如く、一道の光明地上を照すも、蓋し甚だ遐きにあらざるべし。然も此等の叫びは、聲尙微にして、一部の有識階級に限られたるの感あり。此に於て吾等は自ら其力の甚だ弱少なるを知るも、一片の丹心自ら禁する能はず、此叫びを滿天下に徹底せしめ、以て人心の不安を、社會の動搖を除去し、轉一步更に創造の世界へ、其心境を進まめんと希ふに外ならず。

今回吾等の「新更會」を組織せる本旨は、實に此に在り。而して世に思想善導を目的せざる團體は、其數甚だ多し。今吾等の「新更會」も蓋し其一ならんのみ。只本會は、單に講話講演、若しくは宣傳雜誌發刊等を專旨とする機關にあらず。又新たに所謂社會事業を創設せんとするものにあらず。要は會員各自靜思反正、實踐躬行以て現代社會の純化淨化に資せんを欲するのみ、特に記して本會々員諸氏に諭ぐ。

昭和三年五月中浣

荒木照定

新更會は荒木山主の發意を體し、我等同人は特別發起人となり、去三月以來組織準備に着手し、既に三百餘名の入會申込者を得たるを以て、今六月五日之れが創立總會を開き、規約を承認し、而して成田山主荒木僧正を總裁に推戴し、理事以下の役員を選擧して、茲に本會の成立を告げたり。

(編者附記)

成田中學校一覽

沿革大略	一
學 層	二
成田中學校々則	三
職員表	八
生徒表	九
英漢發熱卒業生人名	一六
卒業生人名及現況表	一七
卒業生及生徒郡別表	三九
經費	三九

に至りしを悲む。然れども先覺者の既に此に氣附きたるは、恰も山巔に達したるもの、先づ旭光を拜するが如く、一道の光明地上を照すも、蓋し甚だ遐きにあらざるべし。然も此等の叫びは、聲尙微にして、一部の有識階級に限られたるの感あり。此に於て吾等は自ら其力の甚だ弱少なるを知るに雖も、一片の丹心自ら禁ずる能はず、此叫びを滿天下に徹底せしめ、以て人心の不安を、社會の動搖を除去し、轉一步更に創造の世界へ、其心境を進まめんと希ふに外ならず。

今回吾等の「新更會」を組織せる本旨は、實に此に在り。而して世に思想善導を目的とせる團體は、其數甚だ多し。今吾等の「新更會」も蓋し其一ならんのみ。只本會は、單に講話講演、若しくは宣傳雜誌發刊等を專旨とする機關にあらず。又新たに所謂社會事業を創設せんとするものにあらず。要は會員各自靜思反正、實踐躬行以て現代社會の純化淨化に資せんと欲するのみ、特に記して本會々員諸氏に諭ぐ。

昭和三年五月中浣

荒木照定

新更會は荒木山主の發意を體し、我等同人は特別發起人となり、去三月以來組織準備に着手し、既に三百餘名の入會申込者を得たるを以て、今六月五日之れが創立總會を開き、規約を承認し、而して成田山主荒木僧正を總裁に推戴し、理事以下の役員を選擧して、茲に本會の成立を告げたり。

(編者附記)

成田中學校一覽

沿革大略	一
學 層	二
成田中學校々則	三
職員表	八
生徒表	九
英漢義塾卒業生人名	一六
卒業生人名及現況表	一七
卒業生及生徒郡別表	三九
經 費	三九

校 歌

東京女子高等師範學校教授
文學博士 柴 尾上八郎氏作歌

學習院 教官

玉 小松耕輔氏作曲

(一) 東の海の夜あけて

うねりよる思想の怒濤

大八洲岸をとよもす

さめよさめよ成邱の健兒

(二) 靈域は不落のとりで

御すがたは降魔の守まもり

葉牡丹の校旗のもとに

つどへつどへ成邱の健兒

(三) 勤勉と克己と慈悲と

忠勇と剛毅と素朴

楯となし劍つるぎとなして

立てよ立てよ成邱の健兒

(四) すさまじき主義のたたかひ

おそろしき智識のいくさ

國のため勝利の冠

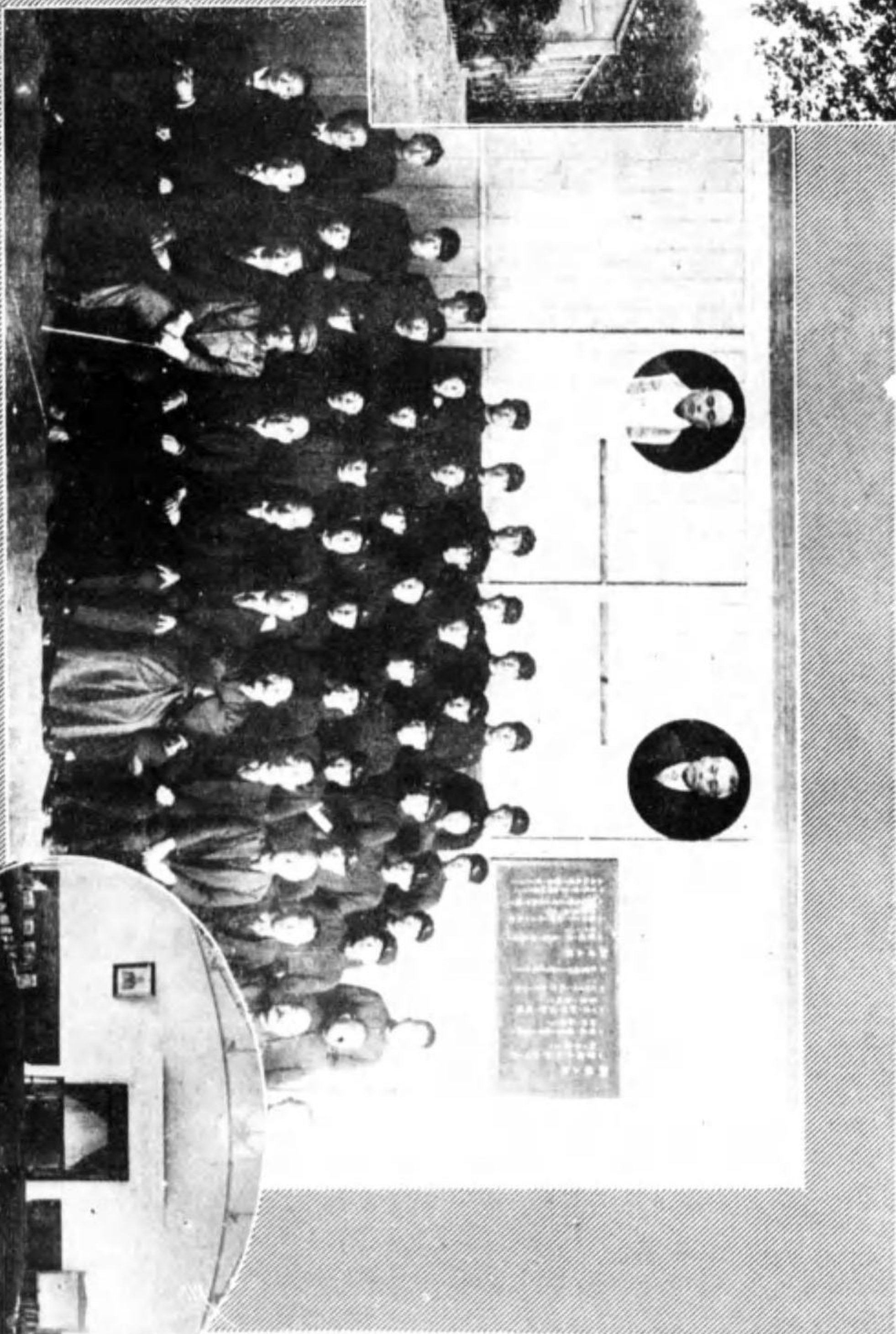
とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

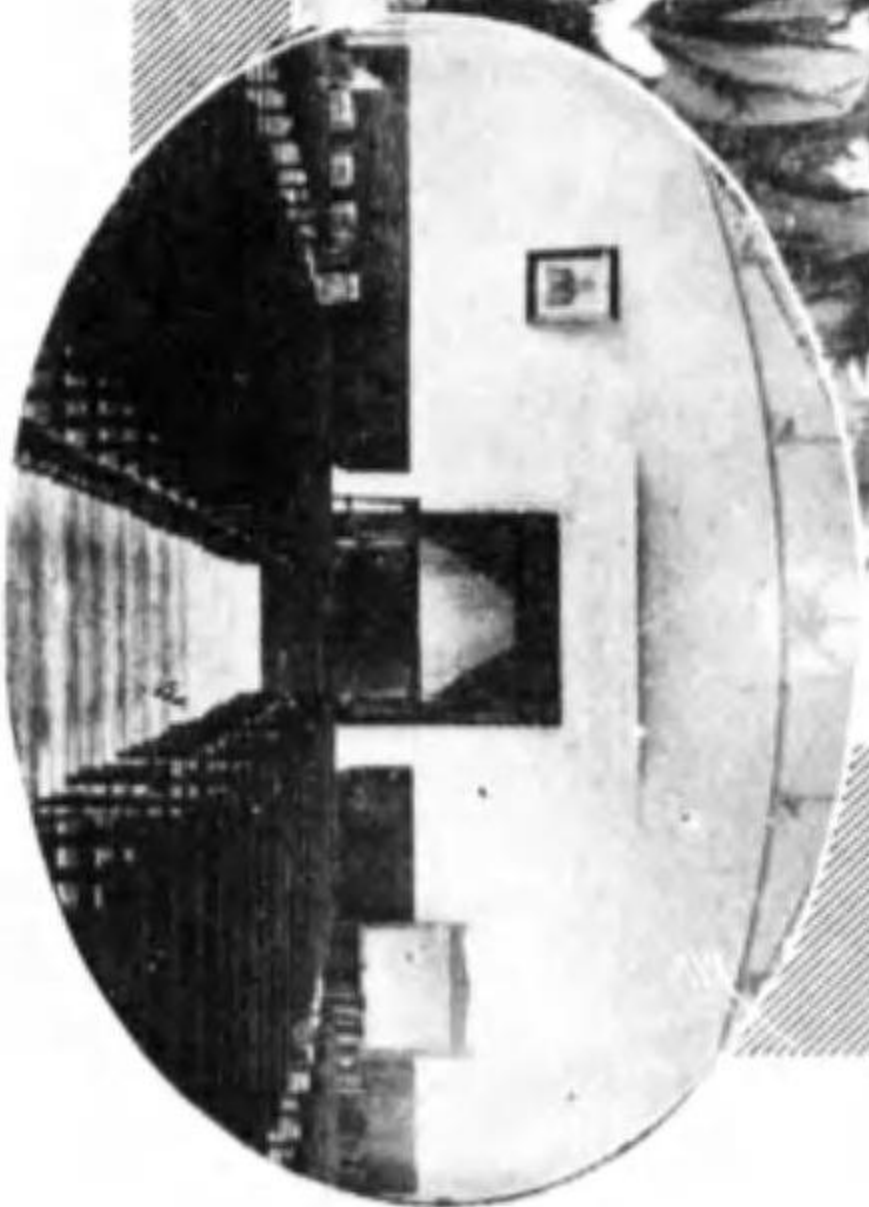
(備 音域高き時はへ調にて歌ふも可なり)
考 メトロノーム T. 84



校 學 中 三 成



生 業 卒 回 七 十 二 第 及 員 職 教



部 内 堂 講

校 歌

東京女子高等師範学校教授
文學博士 柴 尾上八郎氏作歌

學習院 教官

殿 王 小松耕輔氏作曲

(一) 東の海の夜あけて

うねりよる思想の怒濤

大八洲岸をとよもす

さめよさめよ成邱の健兒

(二) 靈域は不落のとりで

御すがたは降魔の守

葉牡丹の校旗のもとに

つどへつどへ成邱の健兒

(三) 勳勉と克己と慈悲と

忠勇と剛毅と素朴

楯となし劍となして

立てよ立てよ成邱の健兒

(四) すさまじき主義のたたかひ

おそろしき智識のいくさ

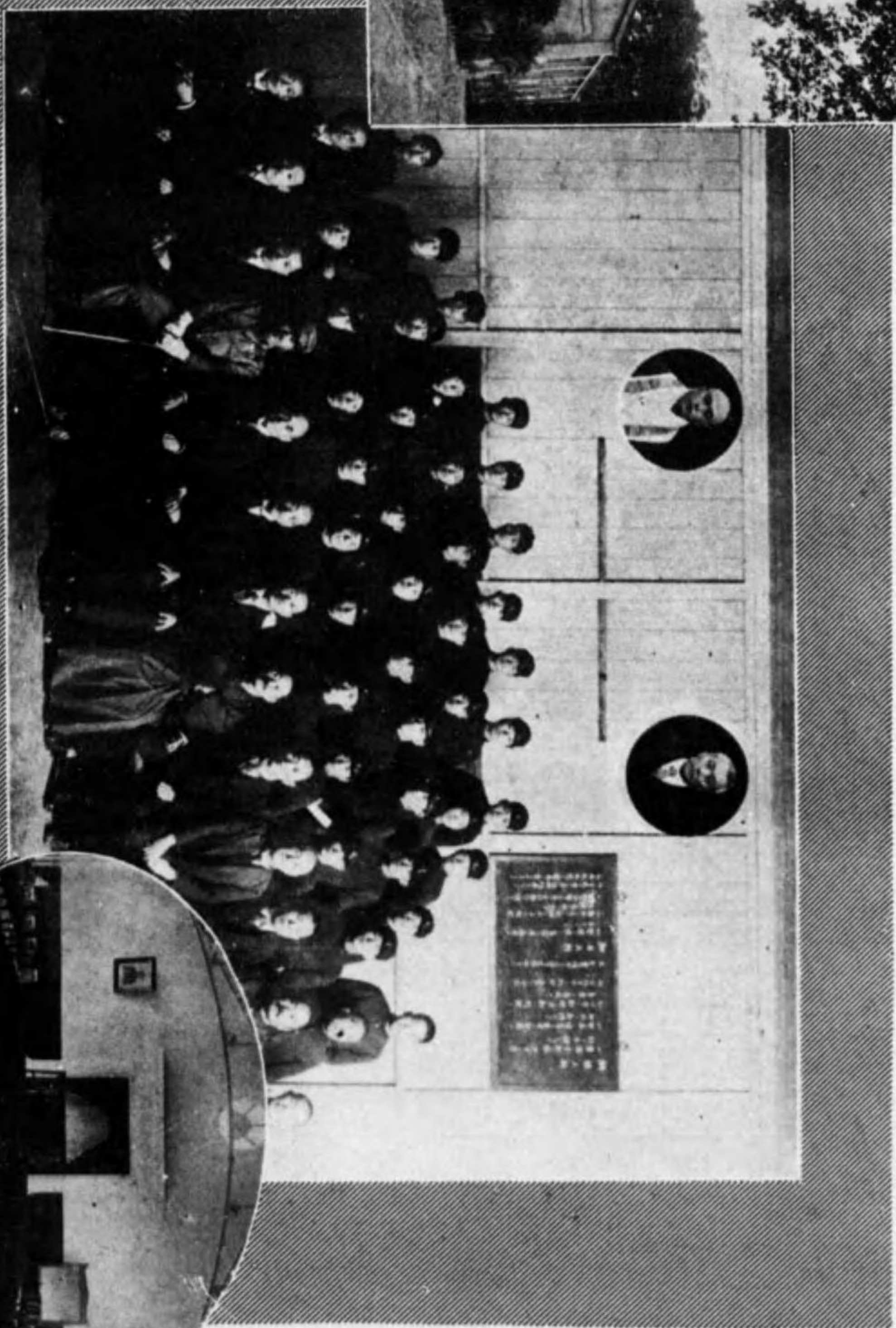
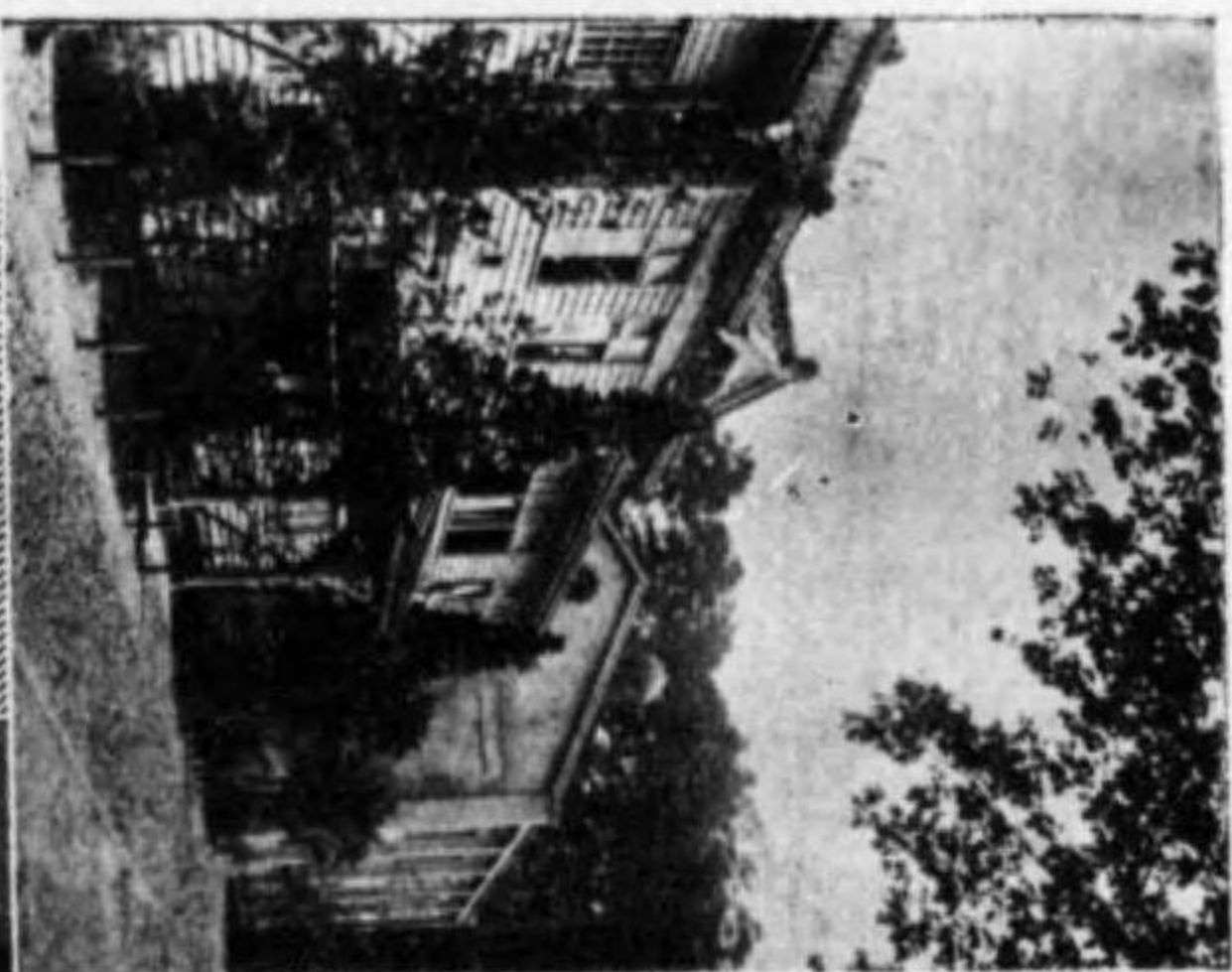
國のため勝利の冠

とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

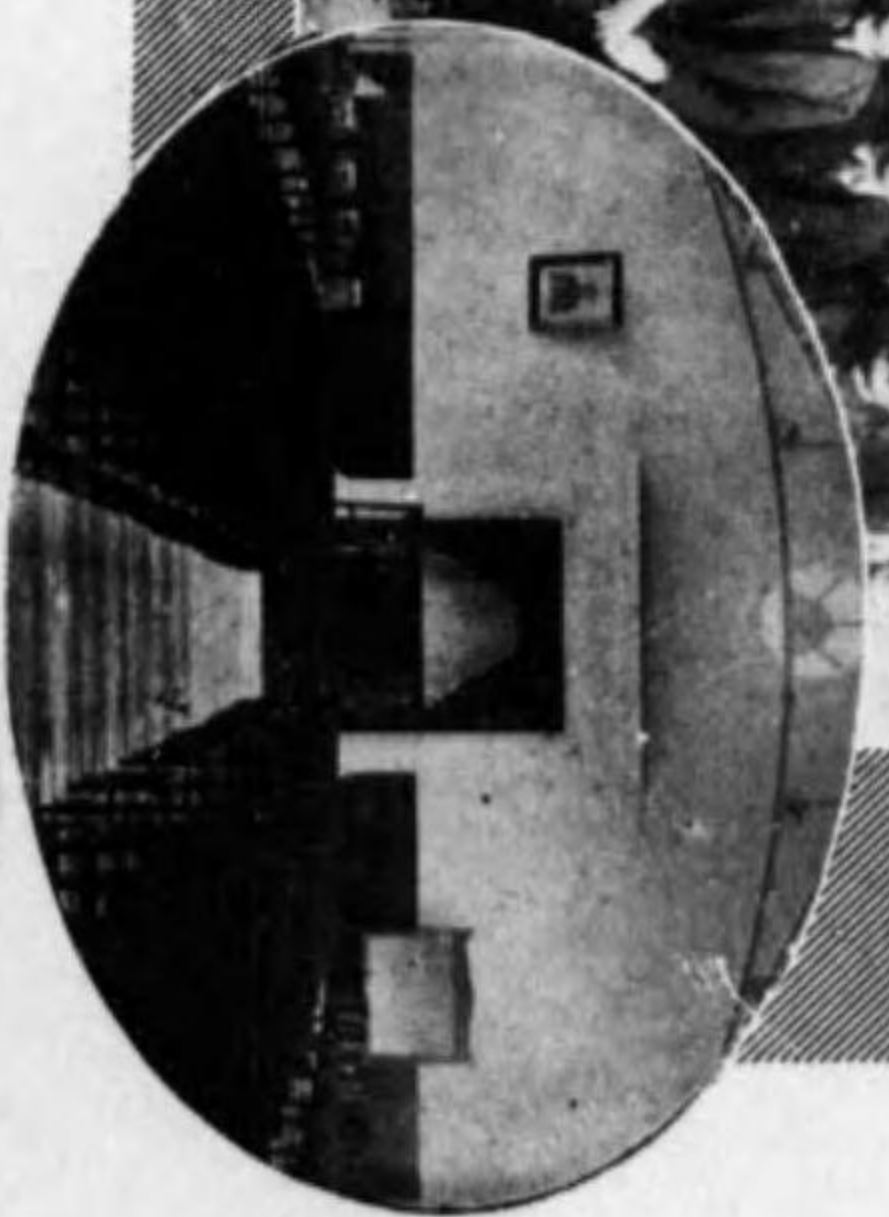
(備音城高き時はへ調にて歌ふも可なり)
メトロノオム 一ノ部

校 中田成



生業卒回七十二第及員職教

部 内 堂 講



私立成田中學校一覽

(昭和三年四月現在)

沿革大略

私立成田中學校は、明治三十一年十月七日文部大臣の認可を得て、舊成田英漢義塾を改稱せるものにして、圖書館、高等女學校、幼稚園、及び感化院と共に成田山新勝寺の施設せる社會奉仕五事業の一に屬す。

(一)英漢義塾時代 明治二十一年八月新勝寺住職正七位大僧正三池照風師が、地方中等教育機關の缺乏を歎し、有志石川甚兵衛(先代)諸岡勝太郎(先代)其他の諸氏と謀りて設立せる、中學程度の學塾にして、修業年限を三ヶ年とし、高等小學校卒業以上及び夫れと同等以上の學力ある者を收容することとせり。全く三池大僧正の篤志に由りしものなり。宮村三多氏最初の塾長に任命せられ、二十三年第一回の卒業生を出せり。斯くて年々卒業生を送りて第九回に及び、其間別に選科履修生を卒業せしむること貳回あり。三十一年七月新勝寺院代少僧正服部照和氏は當時在歐中なりし塾主前貫首石川大僧正の命を受けて、中學校認可を文部大臣に稟請す。乃ち千葉縣知事安部浩氏の實地視察となり。遂に其年十月七日成田中學校と改稱の件認可せらる。英漢義塾として存立せしこと實に十年五ヶ月。此間塾長の交迭

は宮村三多以下濱田義雄、福田龜太郎、和田玉一の四氏に及びり。當時塾舎は成田町宇東谷なる現圖書館の位置にありき。

(二)現中學校時代 明治三十一年十月成田中學校と改稱の件認可せらるゝや、直ちに現校舎の新築土工を起し、淺井造、宮田半左衛門(先代)、諸岡市郎左衛門(先代)、飯倉郁太郎諸氏及び評議員三橋金太郎氏建築委員となり。多大の努力の下に三十三年六月竣功す。是より先き同年三月には徴兵猶豫の特典を附與せられ。又校主前貫首石川大僧正の歸朝せらるゝあり。遂に六月二十七日をトして落成式を舉行す。文部大臣樺山資紀氏以下、朝野の名士多數の參列あり。斯くて三十一年創立以來本年三月に至るまで、二十七回卒業生を送り。其數八百十四名に及びり此間文部次官奥田義人、商工局長木内重四郎、板垣退助伯文部省普通學務局長田所美治、文部省參政官大津淳一郎、陸軍大將福島安正、文科大學長上田萬年、千葉縣知事石原健三、同折原巳一郎等の諸名士或は卒業式に、或は實況視察に臨校せられ、本山社會奉仕の努力に深甚の同情且つは贊辭を寄せらる。回顧すれば二十一年英漢義塾創立以來年を閲すること實に四十一其中學と改稱せしより、三十一ヶ年に及びり。

英漢義塾第一回の卒業なる三橋金太郎氏が本校創立以前より

今尚ほ引續き評議員、理事として勤務せらるゝは多とすべし。石川甚兵衛氏亦本校理事とし、常に本校の爲めに盡瘁せらるる今次の校舎増築校庭擴張の爲めには兩氏の盡力に負ふこと多大なり。校長及び教務主任の去就に左の如き記録を有す。

- 喜田 貞吉 明治三十一年十一月校長就任
- 竹内 楠三 明治三十二年八月喜田氏に代はる
- 校主 石川 照勤 明治三十四年七月竹内氏辭任に付校長兼任
- 栗根 鐵藏 明治三十五年七月校長事務代理を命ぜらる
- 白鳥 庫吉 明治四十一年九月本校顧問を囑托す
- 葛原運次郎 明治四十一年九月栗根氏に代り校務主監として就任
- 佐竹 元二 大正三年七月葛原氏に代りて主監に任ぜらる
- 佐藤 禮云 大正五年三月佐竹氏に代りて主監に任ぜらる
- 濱田丑之助 大正八年七月佐藤氏に代りて主監に任ぜらる
- 名川 彦作 大正九年九月濱田氏に代りて主監に任ぜらる
- 笹川 種郎 大正十三年二月校長に任ぜらる
- 小林 力彌 大正十四年三月校長に任ぜらる
- 増田 榮 昭和三年五月小林氏に代りて校長に任ぜらる

◎學 曆

四 月

- 一日 第一學期開始、始業式、入學式、午前八時始業、
- 下旬 身體検査
- 廿九日 天長節
- 五 月
- 中旬 修學旅行
- 六 月
- 一日 夏服着用、服裝検査、
- 初旬 野球小會、庭球小會、文藝會、武道小會
- 七 月
- 中旬 第一學期考査、第一學期終業式
- 廿一日 夏季休業始
- 八 月
- 卅一日 第一學期終
- 九 月
- 一日 第二學期開始、始業式
- 十 月
- 一日 冬服着用、服裝検査
- 七日 創立記念日
- 中旬 武道小會、野球大會、庭球大會、文藝會
- 十一月
- 三日 明治節

- 上 旬 遠足又は長距離競走
- 中 旬 發火演習
- 十二 月

- 中 旬 第二學期考査
- 下 旬 第二學期終業式
- 二十五日 大正天皇祭
- 廿六日 冬季休業始
- 卅一日 第二學期終
- 一 月

- 一日 第三學期開始、新年拜賀式
- 七日 冬季休業終
- 八日 第三學期始業式
- 中旬 五年級生徒志望調査
- 自中旬 武道寒稽古
- 至下旬 次學年教科書選定
- 二 月

- 十一日 紀元節
- 中旬 武道大會、文藝會
- 下旬 校友會誌發行 五年級卒業考査
- 三 月
- 上 旬 第五年級卒業式

- 中 旬 第四年級以下終業式
- 下 旬 入學考査、入學考査合格者發表
- 卅一日 第三學期終

◎成田中學校々則

第一章 總 則

- 第一條 本校は男子に須要なる高等普通教育をなすを以て目的とし特に國民道德の養成に力む
- 第二條 本校の修業年限を五箇年とし一年を以て一學年とす但學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る
- 第三條 一學年を分ちて三學期とす左の如し
 - 第一學期 四月一日より八月三十一日に至る
 - 第二學期 九月一日より十二月三十一日に至る
 - 第三學期 一月一日より三月三十一日に至る
- 第四條 休業日左の如し
 - 各日曜日、開校記念日(毎年十月七日)大祭日、祝日、夏季休業(七月二十一日より八月卅一日に至る)冬季休業(十二月二十五日より一月七日に至る)
- 第二章 學科課程及授業時間
- 第一條 各學科の配當並に毎週時間數は別紙に依る

學科課程每週教授時數表

科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一 生徒心得、教育ニ關スル勸語、作法	一 道德の要領	一 同上	一 戊申詔書、道德ノ要領、我國道德ノ特質、作法	一 同上
國語及漢文	八 國語講讀、漢文講讀、作文、習字	九 同上	六 國語講讀、漢文講讀、作文、習字	五 國語講讀、漢文講讀、作文、習字	五 國語講讀、漢文講讀、作文
外國語	七 發音、綴字、讀方及譯解、習字	七 讀方及譯解、習字	七 讀方及譯解、習字	六 同上	六 讀方及譯解、習字
歴史	三 日本歴史	三 日本歴史	三 世界歴史	三 同上	三 日本歴史、外國歴史、自然地理概説
地理	三 日本地理	三 滿洲、日本、世界地理	三 世界地理	三 同上	三 同上
數學	四 算術	四 代數	五 代數、幾何	五 同上	五 代數、幾何
博物	二 植物、動物	二 同上	二 動物、生理及衛生	二 植物、博物	三 三角法
物理及化學			二 物理、化學	四 同上	
法制及經濟				二 法制、經濟	
圖畫	一 自在畫	一 同上	一 同上	一 同上	一 用器畫
唱歌					
體操	五 體操教練及遊戲(擊劍及柔術)	五 同上	五 同上	五 同上	五 同上
計	三	三	三	三	三

第三章 考査

- 第一條 考査を分ちて學期考査學年考査の二種とす
 - 第二條 學期考査は其學期間に授業せし科目に付之れを行ふ
 - 第三條 學年考査は學年の終に於て該學年間に授業せし全學科に付之れを行ふものとす
 - 第四條 各學年の課程の修了又は全學年の卒業は平素の學業成績を考査して之を定む
 - 第五條 各教員は其の受持學科に就き平素の學業成績を考査す
- 第四章 入學及退學
- 第一條 生徒の入學は每學年の始とす但缺員あるときは學期の始めに於て募集することあるべし
 - 第二條 本校第一學年に入學を許すべきものは尋常小學校第六學年卒業のものは其卒業證により其他の志願者は入學檢定に合格せるものを取る但尋常小學校第六學年卒業の者と雖も志願者の數募集人員に超過するときは入學考査を執行すべし
 - 第三條 尋常小學校第六學年を卒業せざるもの、第一學年の入學檢定は國語算術國史地理理科に就き尋常小學校卒業程度に依りて之を行ふ
 - 第四條 第二學年以上に入學を許可すべきものは相當年齢に達し其學級に相當する學力檢定に合格したるものに限る
 - 第五條 他の中學校より轉學せんと欲する者ある時は缺員ある

場合に限り入學を許可することあるべし但前學校と學科の配當に差異あるときは其學科に限り檢定を行ひ前學校と同等級或は一級下に編入す

第六條 凡て本校に入學せんと欲するものは體格檢査を施し合格せざるものは入學を許可せず

第七條 入學志願者は左の書式に依り入學願書に履歷書を差出すべし但尋常小學校六學年以上の課程を了へたる入學志願者は更に修業證書又は卒業證書を添へ該書なき者は校長又は首席訓導の證明書を添ふべし

第八條 入學の許可を得たるものは一週間以内に左式の在學證書並に戸籍抄本を差出すべし

第九條 保證人は父兄親戚又は後見人中丁年以上の男子にして一家計を立つる者に限る

第十條 保證人は豫め本校長の承諾を得たるものたるべし

在學證書 (用紙半紙 二ツ折)

印 保證人の印

印 收入紙

私儀今般入學御許可相成候に付ては在學中御規則命令

等堅く遵奉可仕候也

住所

誰子弟

族籍

姓

生年月日

名印

前記之通相違無之候に付拙者保證人に相立ら御規則命令等堅く相守らせ本人に關する事件一切引受可申候也

住所

年月日 族籍職業

成田中學校長 何某

保證人 姓

名印

右保證人は丁年以上の男子にして本町(村)内に於て一家計を立つる者に相違無之候也

何府何縣何郡何市何町村長

年月日

何

某印

第十一條 保證人の資格上不適當と認むるときは之れを變更せしむることあるべし

第十二條 左の場合に於ては退學を命ず

- (一) 性行不良にして改善の見込なしと認めたる者
- (二) 學力劣等にして成業の見込なしと認めたる者
- (三) 引續き一箇年以上缺席したる者
- (四) 正當の事由なくして引續き一ヶ月以上缺席したる者
- (五) 授業料怠納二ヶ月以上に亘るもの
- (六) 疾病事故に因り學業を履修する能はざるものと認むる

もの

(七) 出席常ならざるもの

第十三條 中途退學せんと欲するものは保證人連署を以て其理由を具し願出づべし

第五章 授業料

第一條 授業料は一ヶ月金參圓五拾錢とす

第二條 生徒在學中は出席の有無に拘はらず毎月五日迄に納むべし但毎年八月は納むるを要せず

第三條 授業料納附期日を過ぎ五日以内に尙ほ納めざるものは納入済まで停學を命じ保證人をして之れを納めしむ

第四條 入學志願者は入學考査料金壹圓を納め入學の許可を得たるときは更に入學金壹圓を納むべし

第五條 左の各項に該當するものは授業料を減免す

- 一 學力優等品行方正にして他生の模範たるべきもの
- 一 戦時若しくは事變に際し召集せられたる者の子弟
- 一 貧困にして資力なく學力品行中等以上なるもの但此第三の場合に於ては父兄又は後見人より特に願書を差出さしめ又本人に對しては相當の義務を負はしむ

第六章 賞 罰

第一條 品行方正學術優等の者には一學年間の授業料を免除し又は賞品賞狀を授與することあるべし

年月日 住所番地族籍

保證人

姓

名印

成田中學校長 何誰殿

第四條 保證人に異動あるときは直ちに届出相當の手續をなすべし

第五條 退舍せんと欲するものは事由を記し保證人連署の上願書を差出し許可を受くべし

第八章 服 制

第一條 生徒登校の時は必ず制服制帽を用ふべし

第二條 制帽の地質は黒羅紗にして本校の徽章を附すべし

第三條 制服はジャケット製ホツク止めにして地質は紺色又は黒色のヘル若しくは小倉織を用ふべし

但し夏服は小倉の霜降とす

第四條 制服を未だ調製せざるもの若しくは汚損したるものは許可を得て代用服を着用すべし

第五條 代用服は筒袖にして袴を着用すべし

第六條 制服又は代用服を着用するにあらざれば教場に入るを許さず但新入學生に限り指定の期間中制服調製の間は代用服を許す

保證書 (用紙半紙二ツ折)

參入 收錢 印紙

御校何年生某儀今般寄宿舎へ入舎致し候上は本人入舎中金員物品の辨償は勿論本人身上に關する一切の事件負擔可仕候仍て保證如件

受持學科

劍柔體圖習國數國法國國地地博英英漢國化物數數修
道道操書字語學文濟史文史理物語語文語學理學學身

◎職員

職名	姓名	族籍	就職年月
校長	荒木照吉	千葉縣	大正十三年二月
顧問	白鳥庫	千葉縣	明治四十一年九月
校長兼教諭	增田榮	靜岡縣	昭和三年五月
教諭	相田喜之助	埼玉縣	昭和七年四月
教諭	下瀨幸男	山口縣	昭和三年四月
教諭	瀧澤榮亮	千葉縣	大正十一年二月
教諭	稻葉麟	千葉縣	大正十四年四月
教諭	中山秀作	福島縣	大正十五年四月
教諭	佐谷正	京都府	昭和二年一月
教諭	市川芳	福岡縣	昭和二年四月
教諭	西村健	佐賀縣	昭和三年四月
教諭	寺內保	千葉縣	大正十四年四月
教諭	三門一	千葉縣	大正十五年四月
教諭	木橋義	東京府	昭和二年九月
教諭	石井義	千葉縣	大正十一年四月
教諭	細矢一	千葉縣	昭和三年四月
教諭	細矢末	千葉縣	昭和七年一月
教諭	井田吉	千葉縣	大正七年一月
教師兼書記	南井榮助	千葉縣	明治三十四年四月

理教
化練

校醫
配屬將校
助手

高川直三郎
正七位勳六等藏
步兵大尉
福田重康
廣美

千葉縣
山口縣
千葉縣
明治三十三年十月
大正十四年九月
昭和二年九月

◎生徒表 (昭和三年四月現在) (△印正副校長) (○印特待生) (級長以下身長順)

姓名	印	級長以下身長順
羽入一男	△	第五學年甲組 (參拾一名)
木入勤		
大澤新		
大澤吾		
若海登		
諏訪民		
小川貞		
木內憲		
高橋年		
諸岡新		
土井平		
飯塚金		
大木順		
關川		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		
吉田松		
萩本幸		
鶴澤正		
山田美		
大木夫		
小川利		
菅川一		
石橋孝		
根本誠		
山崎		
川崎		
川崎		
丸盛		主任教諭
丸盛		

△湯淺	齋藤一	土肥健	秋山幸	鬼澤時	武藤勢	加藤和	高橋孝	飯田三	勝又三	△秋葉	鈴木順	鈴木克	笹川一	戸村一	山田惣	篠田芳	石井秀	木村格	小倉司
正印	郎全	忠全	夫全	治全	哉全	和全	孝全	郎全	康全	忠全	吉全	覺全	巳全	作全	保全	壽全	治全	明全	司全
印	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取
久住	多古	安食	滑河	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津
山田	丸原	石原	三枝	土井	神崎	杉田	田谷	武田	鈴木	高塚	小川	三郎	利郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎
映寬	繁清	亮材	一清	雄全	夫全	三全	利全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全
亮全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全
中鄉	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田
△清宮	加瀬	竹村	藤崎	秋葉	鶴澤	三好	石川	伊藤	小川	中山	△大島	出山	岩館	宮内	光本	伊藤	成瀨	成瀨	成瀨
信之	允安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安
助之	雄央	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全
印八	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多
八生	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里

澤田良	佐藤太	藤崎忠	小川源	飯田久	村島久	山田文	久古	三橋	松田	日慕	△秋山	諸岡	小野	堀井	三橋	根本	三橋	石原	石橋	石橋
修印	郎全	一全	衛全	實全	四全	郎全	一全	信全	保全	雄全	雄全	武全	幸全	義全	廣全	寬全	二全	登全	郎全	郎全
久住	多古	安食	滑河	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津	成津
山田	丸原	石原	三枝	土井	神崎	杉田	田谷	武田	鈴木	高塚	小川	三郎	利郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎	三郎
映寬	繁清	亮材	一清	雄全	夫全	三全	利全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全	郎全
亮全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全
中鄉	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田
△清宮	加瀬	竹村	藤崎	秋葉	鶴澤	三好	石川	伊藤	小川	中山	△大島	出山	岩館	宮内	光本	伊藤	成瀨	成瀨	成瀨	
信之	允安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	直安	
助之	雄央	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	全全	
印八	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	取多	
八生	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	古里	

△島田正 第貳學年乙組 (參拾參名)

根本正 雄 印 嶺 豐 住 主任教諭心得

石井義一 印 嶺 富 里

龍崎和 實 全 公 津 山

石井秀次 全 布 錄

青柳文之助 全 公 津

成毛敏 雄 香 取 高 岡

齋藤秋次 全 布 錄

木村厚 全 本 塾

池田五郎 湖 印 嶺 八 生

山出清 印 嶺 本 塾

椎名茂雄 全 成 田

藤倉靜男 全 成 田

荒木武雄 全 印 嶺 安 食

川崎英利 全 印 嶺 小 御 門

石原靜 全 成 田

土肥輝喜 全 印 嶺 母 里

岡野小市 全 印 嶺 公 津

岩井正 夫 全 大 森

萩原輝 全 印 嶺 公 津

清水文康 全 印 嶺 安 食

小川源之 助 全 公 津

山口一貢 全 印 嶺 多 古

青野七衛司 全 印 嶺 金 江 津

山田章 全 八 生

島照功 全 東 京 本 所

△鹽田重雄 全 布 錄

△長谷川秀 第貳學年甲組 (參拾九名)

鈴木正二 印 嶺 豐 住 主任教諭

小出茂雄 印 嶺 根 郷

田中敏 吉 印 嶺 成 田

戶塚元二 印 嶺 東 京 町

小倉祥之助 全 印 嶺 久 住

小川仁 全 富 里

相川昌清 全 印 嶺 富 里

小泉伊之助 全 印 嶺 久 住

飯田宗太 郎 全 久 住

加藤昌美 全 印 嶺 中 郷

山崎昇平 全 印 嶺 富 里

諸岡信吾 全 成 田

三橋太清 全 印 嶺 布 錄

武田雄全 全 印 嶺 八 生

藤崎昌良 全 成 田

郡司兵衛 全 印 嶺 多 古

長谷川武雄 全 印 嶺 久 住

小倉富太郎 全 成 田

矢村文雄 全 印 嶺 公 津

坂田清一 全 印 嶺 富 里

日暮靜全 成 田

石井富明 全 印 嶺 千 代 田

松田正夫 全 印 嶺 高 岡

△湯淺重 第貳學年乙組 (參拾九名)

岩井源助 全 本 塾 主任教諭

△土井義邦 全 成 田

成田敬 二 全 成 田

稻葉宗雄 全 印 嶺 布 錄

長谷川勝司 全 印 嶺 成 田

菅澤忠 孝 全 成 田

石井文雄 全 印 嶺 千 代 田

後藤利夫 全 成 田

大久保喜八郎 全 布 錄

金子文仁 全 印 嶺 中 郷

寺內三郎 全 成 田

小川重平 全 八 生

武倉八郎 全 成 田

高木善明 全 印 嶺 中 郷

伊藤彰 全 富 里

小林光夫 全 成 田

萩原正道 全 印 嶺 多 古

吉祥正 平 全 成 田

小川茂雄 全 成 田

鈴木正雄 全 印 嶺 公 津

石井茂 全 遠 山

大木勝全 全 成 田

△三池正 全 成 田

加藤美夫 全 大 須 賀

長谷川能通 全 成 田

藤本健男 全 成 田

岩館傳 全 中 郷

櫻井芳雄 全 印 嶺 小 御 門

野宮茂毅 全 成 田

篠原文太 郎 全 富 里

大久保芳廣 全 印 嶺 本 塾

藤田知義 全 成 田

△日暮美 治 印 嶺 成 田

三橋健一 全 成 田

三橋健一 全 成 田

鹽田俊 夫 全 布 錄

菅沼仁兵衛 全 印 嶺 富 里

篠原精茂 全 成 田

石井一良 全 武 千 代 田

日暮正市 全 安 食

谷崎滿全 成 田

富澤	吳山武二川	木內武之助	岩澤川
一杉雅德	印旛遠山	伊藤	木澤
佐久間榮一	全成田	石井	七郎
石井勝衛	全成田	小泉啓	新五郎
石井英雄	全成田	三橋	三五郎
林田英雄	全成田	鈴木	新三郎
加藤健	全成田	鈴木	新三郎
藤八郎	全成田	鈴木	新三郎
根本正夫	全成田	鈴木	新三郎
山本喜一	全成田	鈴木	新三郎
五十嵐貫治	全成田	鈴木	新三郎
△河合定次	全成田	鈴木	新三郎
吉岡	全成田	鈴木	新三郎
青柳安	全成田	鈴木	新三郎
川嶋五三郎	全成田	鈴木	新三郎
伊藤市郎	全成田	鈴木	新三郎
荒木武雄	全成田	鈴木	新三郎
萩原徹郎	全成田	鈴木	新三郎
檜垣省郎	全成田	鈴木	新三郎
石川三成	全成田	鈴木	新三郎
豐田正三	全成田	鈴木	新三郎
△河合定次	全成田	鈴木	新三郎
吉岡	全成田	鈴木	新三郎
青柳安	全成田	鈴木	新三郎
川嶋五三郎	全成田	鈴木	新三郎
伊藤市郎	全成田	鈴木	新三郎
荒木武雄	全成田	鈴木	新三郎
萩原徹郎	全成田	鈴木	新三郎
檜垣省郎	全成田	鈴木	新三郎
石川三成	全成田	鈴木	新三郎
豐田正三	全成田	鈴木	新三郎

(四拾壹名)

主任教諭

加藤信之	澤田演	加瀬包男
大見好之	諏訪泰	石井騨郎
佐久間三郎	宮内	小川健司
小川吉一	吉岡	小川健司
加藤信之	澤田演	加瀬包男
大見好之	諏訪泰	石井騨郎
佐久間三郎	宮内	小川健司
小川吉一	吉岡	小川健司

◎成田英漢義塾卒業生人名 (×死亡)

第一回卒業生 (明治二十三年三月)

法學士 北田彦三郎

第五回卒業生 (明治二十八年三月)

伊藤幸次郎

第二回卒業生 (明治二十五年三月)

× 山田兵治

第六回卒業生 (明治二十九年三月)

山崎傳七

第三回卒業生 (明治二十六年三月)

法學士 石井佐次馬

× 高梨盛太郎

第四回卒業生 (明治二十七年三月)

砲兵大佐 林政次郎

× 藤崎欽哉

第七回卒業生 (明治三十年三月)

赤谷由助

藤崎仁三郎

赤谷由助

湯淺真二郎

林田政吉

大野市太郎

篠原友之助

石川英之助

× 藤崎欽哉

岡本幸造

多田喜助

山田要之助

× 山本喜助

林田恒三郎

石井喜一

湯淺暉

小野寺弘

石渡恒

木内啓司

林田恒三郎

× 玉造泰助

郡司喜太郎

細田孝司

× 郡司喜太郎

原久藏

並木弘

山口要太郎

河津金四郎

山口要太郎

岡本保

山口要太郎

× 堀井富五郎

香取友吉

堀井富五郎

唯謹吾

◎中學校卒業生人名及現況表 (×死亡)

第九回卒業生 (明治三十二年三月)

第一回卒業生 (六名) (明治三十五年三月)

千葉縣立安房中學校長 文學士 小野寺精一郎 印旛成田

朝鮮總督府遞信局工務課長 工學士 飯倉文甫 全成田

× 三橋信吉 全成田

× 竹尾丑之助 全成田

秋山篤英 全富里

弘前中學校教諭

選科履修生 (明治三十二年三月)

唯謹吾

選科履修生 (明治三十一年三月)

細田孝司

日本石油會社東京本社(早大商科卒業)

黑田政吉 印旛成田

第二回卒業生 (八名) (明治三十六年三月)

日本興業會社社員(早大卒業)

× 京須幸 印旛成田

日本大學商工學校長

神崎義俱 印旛遠山

山口縣技師(水産講習所卒業)

(藤崎改) 加納金助 全遠山

山口縣技師(水産講習所卒業)

高橋照文 山武南郷

私立成田中學校一覽

東京時事新報社社員(步兵中尉)

小川 克己 印旛八生

(田中改) × 山本 順 印旛成田

實業

吉岡 猛 全酒々井

實業

多田 亨 全公津

大成火災保險株式會社社員(早大商科卒業)

加藤 芳之助 香取大須賀

第四回卒業生(廿二名) (明治三十八年三月)
芝浦製作所技師(東京高工卒業)(加藤改) 伊藤 昇 君津八重原

實業

渡邊 政助 印旛成田

大日本農會在勤 農學士 萩原 義重 山武千代田

海軍中佐 艦政本部出仕技術本部員

飯倉 貞造 印旛成田

工學士 宮野源一郎 全千代田

官 吏(慶大卒業)

寺内 一夫 印旛成田

(椎名改) 野村 竹男 茨城北相馬

實業(步兵少尉)

後藤 七郎 全八生

醫學博士 泉 仙助 香取滑川

實業

瀧澤 德治郎 全成田

醫學 師(千葉醫專卒業) 醫學博士 秋山 三省 印旛中郷

實業(早大商科卒業)

木内 茂助 全成田

(伊藤改) 吉岡 保 全富里

大阪商船紅丸機關士

小川 利太郎 全公津

大木 榮次郎 全中郷

慶大卒業

佐々木 收治 千葉南葛

坪井 節爾 千葉千葉

第一銀行員

加藤 右二 印旛中郷

秋葉 有一郎 山武千代田

日章火災海上再保險株式會社員

神崎 庄助 全成田

小幡 久 石川金澤

渡米實業

那須 文治 香取飯田

安藤 胤治 山武千代田

實業

小川 明 印旛中郷

鈴木 亮 印旛公津

實業

黒川 傳 全成田

辻 英吉 東京荏原

實業(在朝鮮)

石原 泰次郎 全成田

高仲 喜代松 印旛遠山

第五回卒業生(廿二名) (明治三十九年三月)

松本 保 大分宇佐

湯淺 儀三郎 印旛八生

實業

小倉 榮二郎 印旛成田

藤崎 倭一 全富里

公吏

長谷川 治吉 全成田

藤崎 宗平 全遠山

東京高商卒業

土肥 多助 全富里

古矢 誠助 印旛成田

醫師(慈惠醫學士)

三橋 英治 全成田

宮田七右衛門 全八生

日本生命保險株式會社 醫師

土屋 圓 山武瑞穂

清宮 俊平 全八生

(京都醫專卒業)

佐藤 重俊 安房由基

石橋 堯之助 全成田

樺太大泊高等女學校教諭

山野 杢三 印旛成田

松本 頼三 東京京橋

北海道藤田組加比字牧場技師

澤田 信三 全久住

古矢 誠助 印旛成田

(東京農大卒業)

小野寺英二郎 全成田

石井 孝司 全豊住

野田電燈株式會社支配人

鈴木 七郎 印旛八生

石井 孝作 全八生

(日本大學卒業)

山野 隆治 全成田

葛生 孝作 全八生

南滿鐵道本社在勤

萩原 長三 山武千代田

川島 芳夫 市原瀧津

私立成田中學校一覽

實業

丸 良輔 印旛公津

藤崎源一郎 印旛遠山

實業

石原 清泉 全成田

小學校教師

實業

小野寺英二郎 全成田

小學校教師

實業

仁科 一 靜岡靜岡

小學校教師

實業

鈴木 七郎 印旛八生

小學校教師

實業

山野 隆治 全成田

小學校教師

實業

萩原 長三 山武千代田

小學校教師

實業

丸 良輔 印旛公津

小學校教師

實業

石原 清泉 全成田

小學校教師

實業 加藤光太郎 印旛成田
 東京不動銀行在職(慶大卒業) 吉田 新 全 成田
 小學校教師 (廣瀬改) 勝田 海治 印旛木下
 小學校教師 (小川改) 大木 義徳 山武千代田
 實業 (成毛改) 鈴木啓次郎 印旛安食
 實業 丸 善助 全 公津
 小學校教師 (山口改) 鈴木 忠治 全 遠山
 千葉縣農業技師 橋爪 石民 茨城稻敷
 實業 長谷川 利吉 印旛成田
 官吏 藤崎 勇三郎 全 遠山

第七回卒業生(廿二名) (明治四十一年三月)

(長谷川改) ×五木田 康吉 印旛成田
 ×石井 延太郎 全 遠山
 實業 三橋 治平 全 富里
 小學校教師 竹村 克之 全 富里
 ×飯島 貞雄 東京芝
 實業(早大卒業) 土井 彌一 印旛公津
 實業(工兵中尉) 藤崎 翠 全 遠山
 東京鐵道郵便局員 ×稻生 恭平 全 木下
 三浦 照芳 全 佐倉

實業(步兵少尉) 丸 武夫 印旛公津
 水産講習所技師 藤田 正巳 全 八生
 實業 ×三橋 達也 全 富里
 龍崎 源 全 酒々井
 三好 照嘉 山武千代田
 ×香取 實 全 二川
 ×石橋 清 印旛富里
 飯倉 汎三 全 成田
 鈴木 三郎 東京品川
 ×稻垣 保治 印旛成田
 三好 照正 全 酒々井
 (榑原改) ×大島 慎三 全 成田
 (大島改) ×織原 三郎 全 八生
 ×林 正四郎 全 八生
 實業 篠原 昇 全 富里
 高野 照實 全 成田
 木内喜右衛門 全 成田
 ×松本 修一 高知安藝
 山田 逸作 印旛八生
 石原 岩治 全 成田

第八回卒業生(廿二名) (明治四十二年三月)

步兵第二十六聯隊附陸軍一等主計 蛭田 玄美 印旛豊住
 ×金澤 光雄 香取多古
 ×加藤 保 印旛八生
 小學校教師 邊田 金次郎 印旛滑川
 ×櫻井 千太郎 全 佐倉
 東東市區劃整理局在職 (小倉改) 藪崎 久太郎 全 中郷
 實業 土肥 忠衛 全 公津
 官吏 平山 勘一 印旛遠山
 實業 (川崎改) 齋藤 金吾 印旛公津
 實業 (新行寺改) 秋葉 義之 山武二川
 成田山新勝寺貫首(東洋大學文學士) 荒木 照定 山武綠海
 實業 (野平改) 永瀬 謙吉 印旛八生
 實業 鈴木 五兵衛 全 成田
 芝鏡照院住職(東洋大學卒業) 志田 照猛 東京京橋
 小學校教師 (遠藤改) 秋葉 昇 印旛富里
 小學校教師 村島 隆治郎 全 公津
 小學校教師 (大助改) 藤崎 大八 全 富里
 實業 石橋 茂夫 全 久住
 實業 (本多改) 藤崎 靜 全 遠山

明治大學卒業 ×小川 潔 印旛八生
 實業 野平 與 全 豊住
 橋本 修造 全 公津

第九回卒業生(廿二名) (明治四十三年三月)
 (加藤改) ×竹村 健 印旛中郷
 (土肥改) 諏訪原 克己 印旛公津
 大塚 篤三 全 成田
 (加藤改) 竹下 清吉 全 成田
 石井 榮治 山武千代田
 坂宮 浩 印旛八生
 加勢 胖 愛媛宇和島
 高橋 毅一 印旛公津
 椎名 憲三 全 久住
 鈴木 重五郎 全 中郷
 (三橋改) 小川 保 全 富里
 (中村改) 卯之木 照文 全 公津
 (和田改) 平野 清司 市原高瀬
 廣瀬 保 印旛豊住
 日光清瀧製鋼所在職 小倉 甚四郎 全 成田

私立成田中學校一覽

八生農學校教諭(松戸高等園藝學校卒業)
實業 小倉英次 印旛八生
實業 吉岡米吉 全酒々井
商科醫 宮島昇 全成田
東京日々新聞社販賣部次長 下村保 全八生
(渡邊改) × 櫻井昇 全成田
× 黒川幹 全成田
× 澤邊保 全八生

第十回卒業生(廿三名) (明治四十四年三月)

千葉井上病院(千葉醫專卒業) 醫學博士 椎名泰三 印旛久住
法學士 石原貞三 全成田
日本鋼管株式會社在勤(千葉醫專卒業) 山口清 全八生
醫師(千葉醫專卒業) (平三郎改) 藤崎公道 全遠山
海軍機關大尉(三十九潜水艦乘組) 藤田精一 全八生
醫師(千葉醫專卒業) 織田貞 市原菊間
實業 (丸改) 内田省吾 印旛公津
商船學校機關科卒業 小倉壯五郎 全中郷
× 林松之助 全八生
× 鈴木雄一 山武山邊
× 川島勝信 印旛富里
× 三橋衛 全成田

小學校教師 朝鮮銀行浦鹽支店在職
(東洋協會專門學校朝鮮語科卒業)
實業 額賀誠司 茨城白鳥
臺灣臺南大倉組合在職 (岡部改) 小川清 山武二川
實業 河野毅一 長生東郷
(石井改) 吉武秀澄 印旛遠山
× 野平四郎次 全富里
東京市道路橋梁課在職 (右馬之助改) 秋葉昌巳 全富里
(改玉社工學校高等研究科卒業) × 額賀忠孝 茨城白鳥
小學校教師 蛭田眞民 印旛豊住
實業 (衛改) 吉岡七郎兵衛 全中郷
小川新 全成田

第十一回卒業生(卅二名) (明治四十五年三月)

內務事務官警保局在職 法學士 三橋孝一郎 印旛成田
商科醫(日本商科醫專卒業) (秋山改) 鈴木靜 全中郷
成田學園主任(東洋大學文學士) (本宮改) 大友惟誠 宮城志田
實業 (循一改) 梶谷光之助 印旛安食
大阪市技師 工學士(小野寺改) 瀧川俊雄 全成田
實業(步兵少尉) 渡邊和一 全成田
醫師(新潟醫專卒業) 渡邊由松 全成田

實業

河合清 印旛成田
× 蕨曙 全公津

(外國語學校支那語科卒業)

篠田保 茨城稻敷
小山正義 全東茨城

僧侶

織田順 印旛成田

國際汽船株式會社ケーブマウン機關長
仙臺稅務署監督局技師
(大阪高等工業學校卒業)

小池嘉之 千葉高等
池田榮助 山武千代田
× 染谷恒次郎 印旛成田
石橋稔 香取滑川
稻垣恒藏 印旛成田

實業

長谷川桂 印旛成田

實業

新橋旭 全豊住

東京信託所在職

江副節藏 東京京橋

小學校教師

(須田改)

長谷川興仁 安房田原

東京瓦斯會社社員

河野和起 長生東郷

實業

岩館昌美 香取滑川

日本畜産株式會社岩瀬牧場在職

山崎秋平 印旛飯高

× 綿貫新作 全酒々井
× 大塚七郎 全成田
× 青柳公 全公津

實業

東京赤坂區役所在勤

僧侶

實業

第十二回卒業生(廿八名) (大正二年三月)

實業

天龍川電燈會社

(商船學校航海科卒業)

日興證券株式會社在職

實業

實業

小學校教師

成田中學校教諭(大阪高工卒業)

實業

實業

實業

小學校教師

實業

實業

實業

實業

實業

日本棉花株式會社外國課在勤

(東京外國語學校英語科卒業)

(中村改)

山田章吾 全安食
萩原廣 全宗像
栗原照宣 東京八王子
鈴木廣雄 東京品川

齋藤義秀 印旛遠山
澤崎英一郎 全成田
石井鼎 全遠山

鈴木佐太郎 全富里
小川浩平 山武千代田
內田毅 茨城行方

瀧澤榮亮 印旛成田
× 東美義照 東京淺草
鈴木明 印旛富里

× 辻愛吉 全遠山
內海喜男 全八生
葛生清三郎 香取滑川

(塚本改) × 三橋有方 印旛富里
× 小柳秀吉 全成田
岩澤忠二 山武二川

實業 塚本憲一郎 香取滑河
 僧侶(智山大學卒業) 青木榮俊 聖徳八日市場
 早稻田大學專門部在學 新橋榮 印旛豊住
 實業 (並木改) 櫻井和 印旛富里
 池田一介 東京日本橋
 大木喜三郎 匝瑳野田
 竹村和 印旛富里
 飯塚英夫 香取多古
 北海道大學病院助手(東京慈惠醫專卒業) 淺岡惠太郎 印旛成田
 實業 鈴木高治 全 公津
 實業 菅澤忠爲 全 遠山
 實業 三橋仙次 印旛富里
 實業 戶村正夫 印旛川上

第十三回卒業生(廿七名) (大正三年三月)

鹽水港製糖株式會社在職(東京高商卒業) 早川重雄 印旛成田
 實業(東京帝大農科卒業) 藤崎源之助 印旛富里
 警視廳保安部建築課内 (蛭田改) 平松白民 全 豊住
 實業(步兵少尉) 山田要 全 八生
 東京地方裁判所檢事 法學士 丸才司 全 公津
 南滿洲撫順炭礦技師 清水長陽 高知高知
 (東西同文書院工科卒業)

報知新聞社在職
 (東京外國語學校露語科卒業) 竹尾式 印旛八生
 實業 山田進 全 公津
 僧侶(智山大學卒業) (石崎改) 三枝照光 君津中郷
 福島照瑞 神奈川須賀
 千葉縣農事試驗場技師 日暮與一 印旛中郷
 (東京帝大農科卒業) 大木顯一郎 全 中郷
 朝鮮全羅南道光州原靈種試驗所在職 藤崎鎮 全 遠山
 (上田蠶糸專門學校卒業) 稻川義雄 愛媛松山
 齒科醫(東京齒科醫專卒業) 東京不動銀行在職(早大商科卒業) 長竹彦次郎 印旛成田
 實業 大木健 全 成田
 實業 椿利一 香取滑川
 實業 出山博 印旛成田
 貝原塚豊 全 八生
 瀧澤誠 印旛成田
 瓜生勘之丞 香取多古
 佐瀨旭 印旛八生
 田島俊一 埼玉北足立
 平澤道雄 茨城鹿島
 椎名勝美 印旛富里
 多田喜平 全 公津

實業 (宮内改) 清宮忠雄 印旛八生
 實業 石井順 全 成田

第十四回卒業生(卅二名) (大正四年三月)

海軍主計大尉 岡部美磨 印旛遠山
 宇都宮工業學校教諭 工學士 三橋藤太郎 全 成田
 千葉醫科大學生理學教室在職 木川浩逸 香取東條
 (千葉醫專卒業) 藤崎總三郎 印旛遠山
 大阪商船株式會社在勤(拓殖大學卒業) 小倉要 印旛成田
 公吏 石井操 全 遠山
 帝國電燈株式會社員 戶村晋 山武下代田
 商科醫(步兵少尉) 大木嘉平 印旛中郷
 實業 茂手木篤三郎 印旛遠山
 僧侶(智山大學卒業) (齋藤改) 黒羽順教 栃木那須
 丸善一 印旛公津
 實業 (吉岡改) 大須賀清光 全 酒々井
 實業 萩原正雄 香取多古
 東北帝大農科大學卒業 農學士 吉岡博 印旛中郷
 東北帝國大學農學部 農學士 加藤浩 印旛八生
 畜産教室助手 藤崎源一郎 全 遠山
 實業 所晃一 香取多古
 小學校教師 石井與四郎 印旛成田
 小學校教師

實業 (石橋改) 長谷川英一 印旛成田
 實業 加藤暢 全 公津
 齋藤健雄 全 公津
 京須芳雄 全 成田
 高柳榮三郎 全 豊住
 鈴木金候 山武二川
 岩井儀太郎 印旛富里
 片野純三 岐阜大垣
 鈴木秀之輔 印旛成田
 柳澤吉藏 全 成田
 榎田正巳 印旛成田
 高安盈仁 印旛成田
 藤波潔 印旛成田
 若月義宏 安房西條

第十五回卒業生(卅五名) (大正五年三月)

實業 ×伊藤茂 香取飯高
 藤澤武雄 印旛成田
 板倉誠 長生茂原
 木村亮都 印旛遠山
 小川團次 印旛安食
 小學校教師 佐倉中學校教諭(步兵少尉) (大三川改)
 (東洋大學卒業)

實業 (步兵少尉)	湯淺健一	實業	伊藤保次
醫師 (日本醫專卒業)	戶村達郎	實業	紺谷旭
佐原川崎第百銀行支店在職	藤崎穰	實業	小川吉之助
醫師 (千葉醫專卒業)	本多傳	實業	鈴木治郎
實業	內田信一	實業	池田喜一
商船學校機關科卒業	柏原富吉	實業	萩原賢治
富山房編輯部在職 (國學院大學卒業)	石川富士雄	實業	宇賀近治
小學校教師	安達國一	實業	岩井平男
實業	(小川改) 八角彌	實業	平山久一郎
實業	手島徹	實業	飯高多一郎
小學校教師	大竹茂	實業	飯高多一郎
古河電氣工業會社在職	瀧澤榮一	實業	秋山寅雄
(外國語學校支那語科卒業)	河野八郎	實業	堀田彌太郎
留留中學校教諭 (早稻田大學卒業)	秋葉一吉	實業	諸岡照保
實業	熊切儀一	實業	秋葉英世
醫學研究中	片野春吉	實業	齋藤陽一
(京都醫學專門學校卒業)	齋藤七司	實業	深山浩一
千葉縣道路技手兼土木技手	阿部良策	實業	長竹達三
實業	伊藤功	實業	鶴澤邦藏
小學校教師	山內誠	實業	神山雅一
醫學研究中 (日本醫專卒業)	(木内改) 伊藤功	實業	能勢改) 神山雅一

日本電線株式會社在職 (早稻田大學卒業)	竹尾剛	小學校教師	篠田欣吾
匠中學校教諭	內藤達夫	實業	石橋健二
(東京物理學校卒業)	渡邊陸三	實業	土肥卓
小學校教師	池田義夫	實業	方波見仲男
實業	大島文吉	實業	秋葉三省
實業	堀越誠	實業	櫻井斌敏
シヤパンメヂカルワールド社在職	池田伊重郎	實業	櫻井一
(拓殖大學卒業)	永田令藏	實業	字井龍雄
拓殖大學卒業	石橋保	實業	第十七回卒業生 (卅五名)
商科醫 (東京齒科醫專卒業)	小川斌	實業	(大正七年三月)
小學校教師	加藤久次郎	實業	(共倉改) × 木内貫一
小學校教師	大木康	實業	野平忠
三井鐵山株式會社東京本店勤務 (日暮改)	湯淺彦治	實業	西谷謙堂
鐵道省經理局會計課在職 (中央大學卒業)	檜垣達也	實業	× 吉田善四郎
實業	本多義	實業	飯塚忠
實業	土井平重	實業	中野圭
實業	青柳忍	實業	山内卯之助
實業	長谷川祐元	實業	鈴木木
實業	森田元二	實業	清水東四郎
實業 (步兵少尉)	根本東海男	實業	鈴木德治
小學校教師	(多田改) 根本東海男	實業	日色四郎
		實業	神戸隆太郎
		實業	旭農學校教諭
		實業	東神會庫株式會社在職
		實業	(慶應義塾大學卒業)
		實業	櫻組製靴會社在職
		實業	慶應義塾大學卒業
		實業	東京高等師範學校在學
		實業	遞信省遞信技手
		實業	醫師 (千葉醫專卒業)
		實業	旭農學校教諭
		實業	東神會庫株式會社在職
		實業	(慶應義塾大學卒業)

實業(步兵少尉)

(後藤改)

實業(早稻田大學商科卒業)

名古屋鐵道局運輸課在職

總武銀行千葉支店在職

(早稻田大學卒業)

(越川改)

實業

成田中學校教諭

(日本大學卒業)(步兵少尉)

早稻田大學商科卒業

實業(步兵中尉)

實業

耕地整理技手

實業

實業

南滿洲鐵道會社在職

第一生命保險會社在職

(農業大學卒業)

實業

大野浩次 印旛安食

豐田謹悟 全成田

山田好助 全富里

石井勝男 全成田

松岡明 全遠山

伊藤七右衛門 全久住

寺內保 全成田

高橋嚴 全成田

田中藤治 香取小淵門

小川總良 山武千代田

古川廣 山武片貝

土井規矩藏 印旛公津

長谷川藤市 全成田

武士田胖 全成田

實川和男 山武千代田

藤崎英亮 印旛遠山

安藤俊行 全久住

谷口一郎 印旛八生

日暮輝雄 全豐住

伊藤文亮 全遠山

實業

實業

實業

第拾八回卒業生(卅七名)(大正八年三月)

東京三菱銀行在職(慶應義塾大學卒業)

津田沼騎兵第十四聯隊附二等獸醫

(駒場農科大學實科獸醫科卒業)

東京日々新聞外報部在職

(東亞同文書院卒業)

實業

川崎銀行丸ノ内支店在職

實業

野田醬油株式會社勤務

(慶應義塾大學卒業)

洋行中(明治學院卒業)

日本生命保險株式會社會計課在職

(早稻田大學卒業)

小學校教諭

(國學院大學卒業)

(藤崎改)

宮原三郎 印旛久住

神崎忍 全遠山

鈴木茂喜 全久住

湯淺三吾 印旛八生

湯淺武之助 全八生

千脇晟 千葉更科

篠原岩次郎 印旛成田

石川順 全成田

糸川平 全久住

石橋正也 全成田

葛生幸吉 全安食

藤崎信助 全富里

根本新一 茨城稻敷

林正雄 印旛成田

澤田武 全中郷

長坂了介 山武千代田

鈴木光亮 印旛豐住

香取舜治 山武二川

石橋孝三郎 印旛成田

桐生高等工業學校卒業

實業

成田高等女學校教諭

(東京美術學校卒業)

實業

千葉高等女學校教諭

(國學院大學卒業)

小學校教諭

東京鐵道局國府津保線事務所在職

(仙臺高工卒業)

千葉九十八銀行在職(早稻田大學卒業)

鐵道省東部管理局在職

接骨醫

小學校教諭

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業(步兵少尉)

(藤崎改)

(日暮改)

丸善衛 印旛公津

福田直四郎 東京本郷

飯泉隆二郎 印旛遠山

山内貞 全中郷

池田春之助 全富里

伊藤公平 全八生

椎名操 香取本郷

小川太郎 印旛八生

大三川弘之 香取多古

瀧澤德治 印旛成田

小倉仁 全成田

猪瀬堯澄 全布織

武藤行敬 全永治

山崎信男 香取高岡

檜垣省吾 印旛久住

四宮操 全富里

吉川巖 全中郷

神崎俊之助 全遠山

相原理三郎 全公津

石橋進 印旛富里

伊藤源右 全中郷

第十九回卒業生(卅四名)(大正九年三月)

京成電氣會社在職(東京高工卒業)

新潟醫科大學助手(新潟醫專卒業)

東京日本橋郵便局在勤

實業

海軍機關中尉

醫師(新潟醫專卒業)

(千葉醫專卒業)

實業

帝國電燈會社在職

神職(法政大學卒業)

早稻田大學卒業兵役

實業

實業

東京商科醫專卒業

實業

實業

實業

商科醫(東京商科醫專卒業)

實業

(小川改)

(廣瀨改)

福田郁次郎 茨城金江

深山陽 印旛旭

若命富郎 橫濱吉田町

岩立源一郎 香取滑川

高橋勇雄 印旛公津

加藤武夫 全成田

山崎一雄 全永治

鈴木藤吉 全安食

木内芳雄 全成田

大野龜之助 全酒々井

宮崎廣則 全成田

藤崎章 全遠山

伊藤豐 全久住

中臺俊一 全公津

竹村秀壽 全成田

下村好一 全八生

石井權之尉 全遠山

石井庄平 全酒々井

萩原英一 全成田

小倉與市 全遠山

日本大學在學	伊藤 汎	山武松尾	×田中純一郎	茨城龍崎
早稻田大學在學	石川仁二郎	印旛成田	中村賢爾	印旛白井
米澤高等工業學校在學	石川 豊	全 遠山	内海門磨	全 八生
實業	石田 亨	香取高岡	山本 愛	全 安食
東京齒科醫專在學	石井雅衛	印旛富里	山田 彌	全 安食
早稻田高等學院在學	圓城寺次郎	全 公津	武士田 讓	全 成田
東京高等師範學校在學	林田 武雄	全 富里	神戶 剛	全 成田
川崎第百銀行千葉支店在職	林 清風	全 遠山	寺内 一郎	全 成田
大阪高等學校在學	大友 廣高	宮澤仙臺	寺内 秀雄	全 成田
中央大學商科專門部在學	岡野 秋夫	印旛安食	淺井 銳次	全 成田
法政大學在學	大木 丈夫	匝瑾須賀	淺井 隆	全 成田
小學校教師	渡邊市左衛門	印旛成田	相田 重義	埼玉粕壁
第一高等學校在學	金子 忠治	全 中郷	秋山 龍虎一	印旛富里
實業	神崎 勉太郎	茨城金江津	秋山 寬	全 遠山
實業	海保 芳郎	印旛久住	櫻井 泰	全 安食
小學校教師	海保 香苗	茨城金江津	木内 浩	全 成田
實業	神崎 武夫	印旛遠山	湯淺 栽樹	全 安食
東洋大學在學	勝又 勝伊	香取多古	宮内 喜夫	全 八生
成田圖書館職員	海瀨 健爾	安房稻都	清水 文治	山梨安都
(文部省圖書館講習所在學)	高川 俊夫	印旛成田	新橋 重三	全 豊住
明治大學在學	高安愛之助	印旛成田	關川 安世	印旛成田

第二拾五回卒業生(四拾四名) (大正拾五年三月)

實業	清宮 博	印旛八生	田村 義教	安房天津
兵 役	石橋 浩	印旛安食	塚本 克己	香取滑河
(池田改)	丸 芳洋	全 富里	鶴岡 大中	石川輪島
東洋大學在學	磯部 貢	全 久住	根本 菊次	印旛豊住
實業	石橋 與七	全 成田	中村 一	山武睦岡
日本齒科醫專在學	石井 昌治	山武下代田	村山 信次	印旛公津
實業	萩原 章	山武大里	内田 榮	山武下代田
實業	大竹 清	香取本大須賀	黒田 正信	香取多古
實業	大木 普市郎	印旛中郷	久保田 潔	印旛成田
實業	大木 得三	全 八生	山崎 博	香取高岡
實業	大久保 貞治	全 安食	山田 一雄	印旛八生
實業	小川 茂	全 遠山	丸 三郎	全 公津
上田蠶絲專門學校在學	小川 忠雄	全 八生	松本 重雄	君津久留里
小學校教師	小海川 重雄	全 久住	福田 廣	印旛安食
中央大學在學	小川 進	全 豊住	藤崎 廣夫	全 遠山
中央大學商科在學	大須賀 信乃	全 六合	藤崎 傳	全 遠山
東京鐵道局千葉運輸事務所在職	海保 三千三	全 久住	佐久間 誠一	全 豊住
實業	×川島 千秋	香取本大須賀	佐藤 智雄	香取大須賀
小學校教師	金澤 俊亮	茨城金江津	齋藤 仲次	印旛八生
實業	加藤 正則	印旛中郷	吉祥 照芳	東京四谷
			密島 和一	東京神田

早稻田高等學院在學
 京都智山大學在學
 實業
 京都智山大學在學
 青山學院高等學部在學
 四年終了者
 (水戸高等學校在學)

第二拾六回卒業生(四拾八名) (昭和二年三月)

小學校教師
 攻玉社高等工業學校在學
 實業
 實業
 米澤高等工業學校在學
 實業
 鐵道從業員
 成田役場吏員
 實業
 早稻田高等學院在學

平山 岩雄 香取多古
 森谷 義正 山形縣東郷
 諸岡 薫 印旛成田
 鈴木 照澄 全志津
 諏訪原 貞夫 印旛成田
 三橋 誠一 全成田

實業
 山梨高等工業學校在學
 實業
 明治大學在學
 實業
 小學校教師
 鐵道從業員養成所
 千葉師範二部在學
 千葉師範專攻科在學
 法政大學在學
 臺灣高等學校在學
 明治大學在學

(藤崎改)

小川 德英 山武手代田
 大三川 正 印旛中郷
 小川 政巳 全中郷
 渡邊 操 全成田
 渡邊 昇司 香取滑河
 吉岡 一二 印旛中郷
 橫田 四郎 全久住
 吉岡 俊男 全中郷
 多田 實 全公津
 高橋 忠 全成田
 高橋 健吉 全成田
 高橋 重雄 全成田
 武田 利良 全成田
 武田 豊 全八生
 瀧澤 利一 全成田
 村田 榮量 安房豊房
 上野 頼榮 關島刈野
 鶴澤 廣吉 印旛公津
 葛生 幸常 全安食
 郡司 辰二 香取日吉
 山室 勝身 山武手代田

實業
 實業
 實業
 實業

國學院大學在學
 東洋大學在學

日本齒科醫學專門學校在學
 中央大學在學
 東洋大學在學
 實業
 第一高等學校在學

第二拾七回卒業生(參拾九名) (昭和三年三月)

山崎 巖 香取飯高
 福田 茂重郎 香取飯高
 後藤 重司 全安食
 後藤 重司 全安食
 菅田 菊治郎 全成田
 秋山 禎康 全中郷
 秋山 正 全中郷
 南井 重 全成田
 窪川 賢雄 全成田
 清水 定雄 香取多古
 平野 新藏 香取神崎
 泉水 淳 全公津
 清宮 清介 全八生
 鈴木 善照 全中郷
 石井 保 印旛遠山
 石川 薫 全遠山
 飯田 清太郎 香取滑河
 磯山 茂 印旛公津
 岩館 英亮 全遠山
 林 俊吾 全八生

實業
 千葉中學補習科在學
 實業
 實業
 實業
 實業
 實業
 實業
 橫濱高等工業學校在學
 千葉中學補習科在學

小學校教員

堀井 克巳 香取小郷門
 堀川 和 全滑河
 富澤 章治 全滑河
 戸村 正作 印旛遠山
 小川 實 全公津
 小川 英一 全中郷
 小川 晃 全中郷
 小倉 信輔 全成田
 大須賀 仁 全安食
 大竹 久直 香取本大須賀
 大野 政治 印旛成田
 大竹 惠司 全富里
 川村 三郎 全木下
 香取 不二夫 全久住
 根本 甚三 印旛豊住
 中村 三樹 全白井
 武藤 文哉 全永治
 黒川 正雄 全成田
 矢萩 俊一郎 全安食
 山田 勳 全八生
 福田 一太郎 稻敷金津津

小學校教員
實業
千葉師範二部在學
大阪高等學校在學
實業
實業

藤崎光治 印旛遠山
小窪仁全 本楚
寺內賢治 全 成田
秋葉武夫 全 富里
青柳亮全 公津
齋藤吉三 全 成田
佐藤芳雄 全 成田
木川忠 山武二川
日暮真 印旛本楚
平間輝男 宮城槻本
砂山謙一 石川植川
鈴木準一 柳木藤南大向

表別郡徒生及生業卒

(在現月四年三昭和)

卒業計	一學年		二學年		三學年		四學年		五學年		區別郡別
	乙組	甲組	乙組	甲組	乙組	甲組	乙組	甲組	乙組	甲組	
	生										
五五	二六	三〇	三三	三三	二四	二六	一九	三	三	三	印旛
六二	二五	二	二	四	二	四	四	一	一	一	香取
五五	三三	四	六	二	三		一	一	二	二	山武
三	二						一			一	千葉
四	一	一									市原
二	一									一	東葛飾
三	四					一	一			二	匝瑳
一											海上
五	一			一							長生
三											夷隅
三											君津
七											安房
七											他府縣
七	二	四	一	二	一	一	一	二	二	二	計
八一	二	四	一	二	一	一	一	二	二	三	

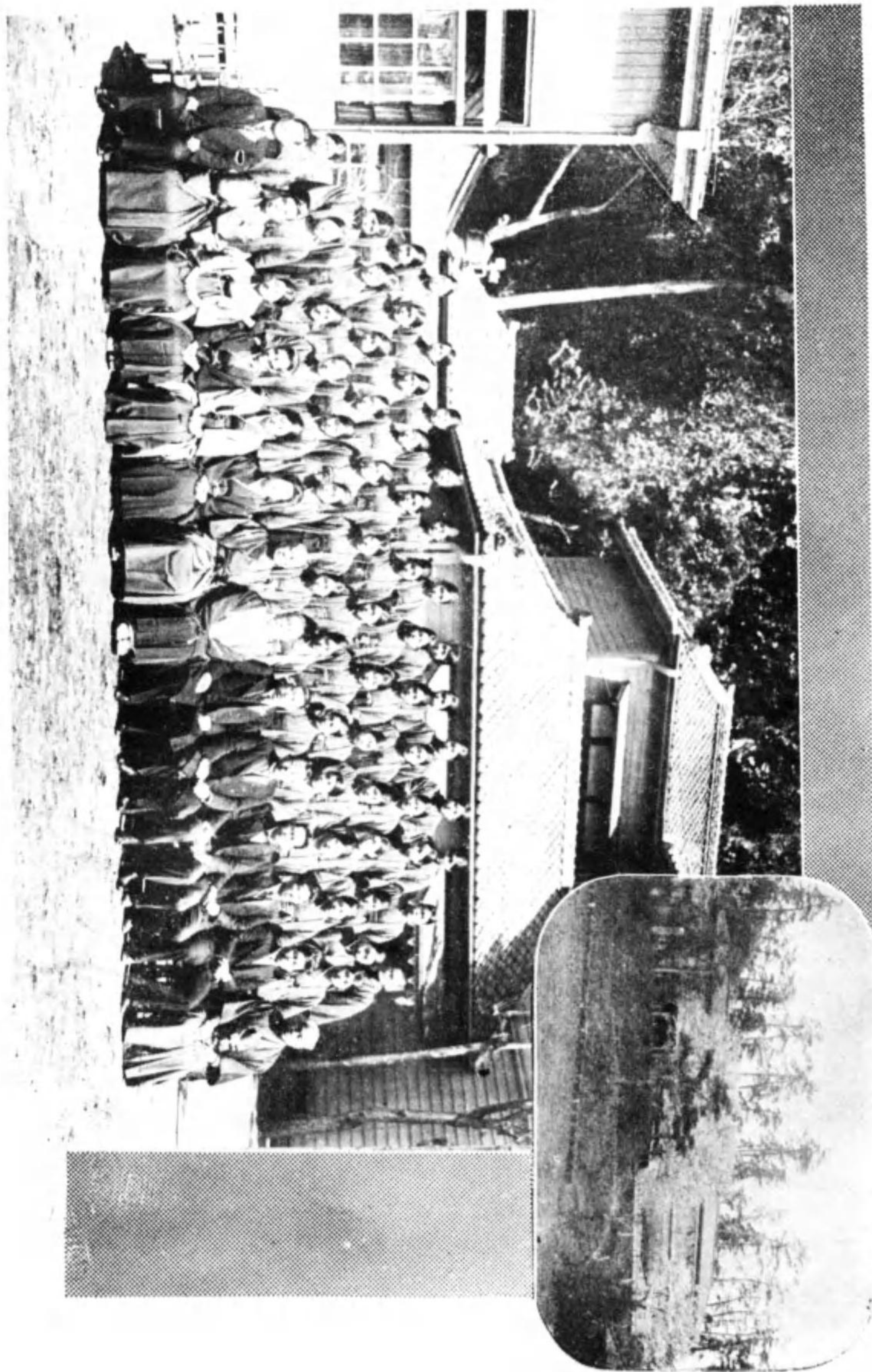
年	經費	
	昭和三年度豫算	昭和三年度決算
俸給	二六八,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
雜給	一〇五,〇〇〇	一〇二,〇〇〇
需用費	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇
雜費	一七三,〇〇〇	一四八,〇〇〇
賞與	四〇,〇〇〇	四三,七六〇
營繕費	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇
手當金	—	—
豫備金	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇
合計	三六三,〇〇〇	三三三,〇〇〇

成田高等女學校一覽

學 曆	四一
教育方針及施設概要	四一
沿革略	四一
昭和二年度重要記事	四二
學 則	四三
職員表	四六
成田山女學校卒業生人名	四七
卒業生人名及現況	四七
經費統計概表	六二

露光量違いの為重複撮影

生業卒回七十第及員職教



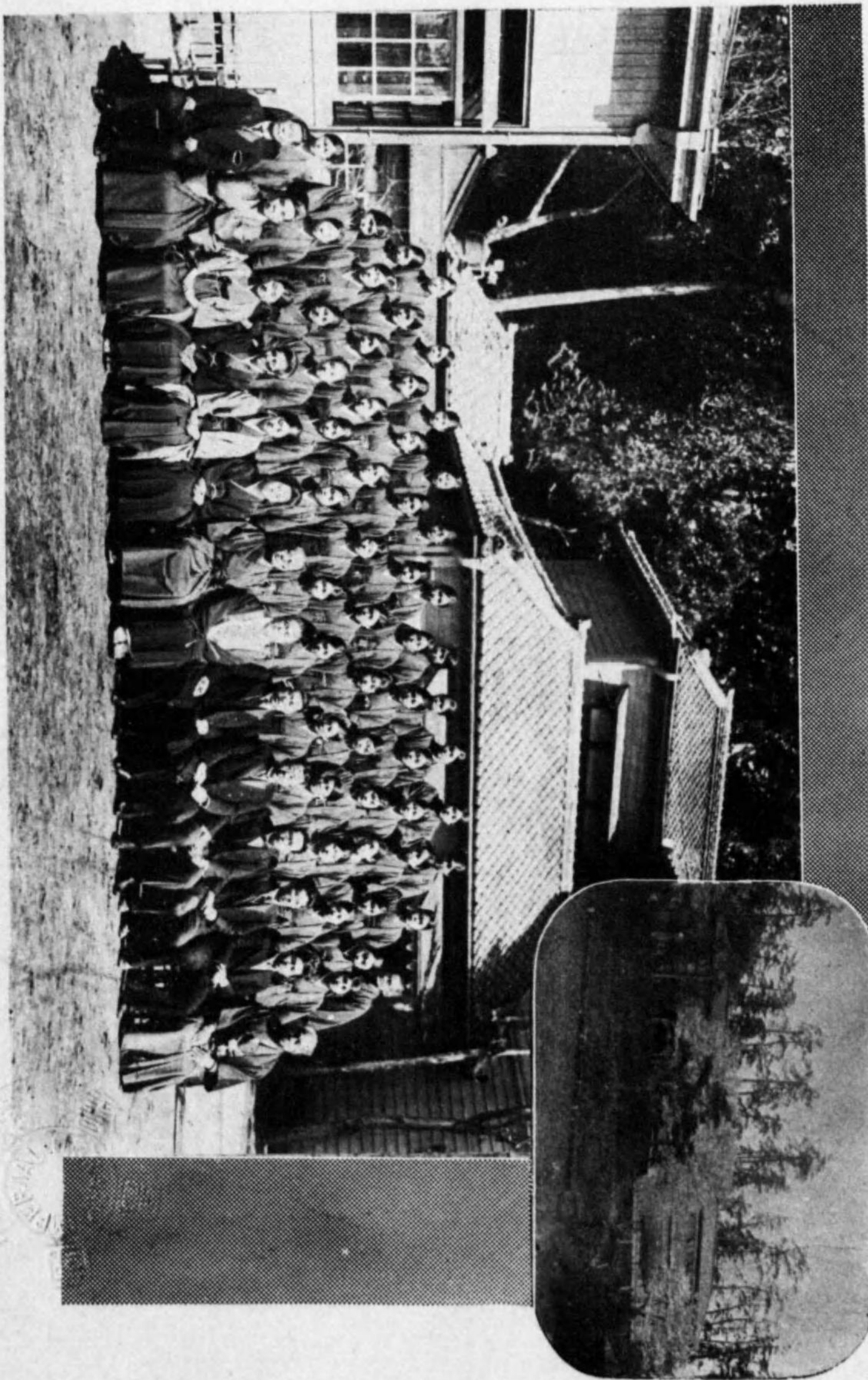
校學女等高三成

昭和三年度
學 曆

第一學期 自四月一日至八月三十一日	十六日 第一學期授業終	一月 一日 新年祝賀式
第二學期 自九月一日至十二月三十一日	廿日 成績發表、終業式	一月 八日 始業式
第三學期 自一月一日至三月三十一日	九月 一日 始業式	一月 中旬 教授豫定記入
每月 第二四土曜日大掃除	九月 下旬 授業豫定記入	一月 中旬 來學年度教科書選定
四月 五日 始業式、入學式、新入生父兄會	十月 下旬 四學年志望調査	二月 十一日 紀元節祝賀式
六月 六日 午前八時十分始業	十月 中旬 校友會學藝部會	二月 十三日 創立記念祝賀式
中旬 教授豫定記入	十一月 三日 遠足	二月 同日 校友會學藝部會
廿九日 天長節祝賀式	十一月 上旬 縣下中等學校女子競技會	三月 六日 地久節祝賀式
下旬 身體檢查	十二月 廿日 第二學期授業終	三月 十日 陸軍記念日
五月 中旬 修學旅行四、三、二學年	十二月 廿四日 成績發表終業式	三月 十二日 第三學期授業終
廿七日 海軍記念日	同 校友會雜誌原稿募集	三月 十五日 成績發表、終業式
六月 上旬 一學年遠足	廿五日 大正天皇祭	三月 十八日 證書授與式
七月		未定 入學考查及成績發表

昭和三年
學 曆

第一學期 自四月一日至八月三十一日	十六日 第一學期授業終	一月 一日 新年祝賀式
第二學期 自九月一日至十二月三十一日	廿日 成績發表、終業式	一月 八日 始業式
第三學期 自一月一日至三月三十一日		一月 中旬 教授豫定記入
每月 第二第四土曜日大掃除		一月 中旬 來學年度教科書選定
四月 五日 始業式、入學式、新入生父兄會	一月 一日 始業式	二月 十一日 紀元節祝賀式
四月 六日 午前八時十分始業	一月 下旬 授業豫定記入	二月 十三日 創立記念祝賀式
四月 中旬 教授豫定記入	二月 中旬 四學年志望調査	二月 同日 校友會學藝部會
四月 廿九日 天長節祝賀式	二月 十月 校友會學藝部會	三月 六日 地久節祝賀式
四月 下旬 身體検査	二月 十一月 縣下中等學校女子競技會	三月 十日 陸軍記念日
五月 中旬 修學旅行四、三、二學年	二月 十二日 第二學期授業終	三月 十二日 第三學期授業終
五月 廿七日 海軍記念日	二月 廿四日 成績發表終業式	三月 十五日 成績發表、終業式
六月 上旬 一學年遠足	二月 同日 校友會雜誌原稿募集	三月 十八日 證書授與式
七月 廿五日 大正天皇祭		三月 未定 入學考查及成績發表



校學女等高田成

生業卒回七十第及員職教

成田高等女學校々歌

笹川臨風作歌
山田耕作作曲

曉の榮ある光

永の夜の闇を破る

眠より覺めし乙女ら

なれの世ぞ今目の前に

美しき望は満てり

學びの窓は樂しき園生

幸ある前途いざことほがん

成田なる岡の邊に咲く

千枝五百枝萬枝の梅

雪霜を凌ぎ堪へつゝ

さきがけし色匂やかに

清き香は四方に漂ふ

學びの窓は……

幸ある前途……

鐘の音は朝な夕なに

御堂より森へと響く

怠るな勤めはけめと

我等をば教へ導く

澄み渡る心耳に冴えて

學びの窓は……

幸ある前途……

私立成田高等女學校一覽

◎教育方針及び施設概要

本校は成田山の經營に屬すと雖も確實に高等女學校令に準據し、絶對に宗教的布教宣傳の機關に供せず。専ら社會奉仕を目的として、國民教育の一部を負擔するものなり。

本校の教育方針は、教育勅語の御聖旨を服膺して、飽くまで其の實行を期し。學業を勵み、淑徳を修め、女子の本分を遵守せしめ、成田山五事業の精神に鑑み質實勤儉を旨とし、他日の社會奉仕を心掛けしむるにあり。

本校の經營たる、素より營利事業にあらざれば、成る可く父兄の負擔を軽減するのみならず、學資支辨に困難なる者の爲には、貸費、若しくは補助制度あり、奨學の爲には特待生、優等賞、精勤賞、等の制を設け學科に於ても正科の外、隨意科として編物插花、茶の湯、按摩を課し。音楽科にもオルガン數基の外、ピアノ二基を備へ、生徒に指導練習せしめ、校歌を制定して、本校の理想を明示し、併せて温雅優美の思想を涵養するに勉む。

大正十四年度よりは更に校服を制定し、尙ほ體操科に薙刀を加へ、第四學年課外に、救急療法を課し千葉醫科大學に講師を

(昭和三年四月現在)

委屬せり。

◎沿革 畧

本校は元私立成田山女學校と稱し明治四十一年四月の創立に係り明治四十四年二月文部大臣の認可を得て成田高等女學校と改稱す所謂成田山五事業の一にして校主兼校長たりし故成田山貫首石川僧止の慈心の下に生々發達しつゝあるものなり。

本校に理事ありて校主校長を補佐す石川甚兵衛、三橋金太郎の二氏は即ち其人にして石川理事現に専務たり。

明治四十四年二月十三日文部大臣より本校設立の認可を受けてより爾後の沿革は大略左の如し

- 一 明治四十四年三月廿一日本校々則を制定す
- 一 同 四月一日成田中學校教諭中島喜一(高等師範)校務主 監兼教諭に任せらる。
- 一 同 四月一日、二日の兩日を以て二、三、四學年の編入 試験を行ふ。
- 一 同 四月五日生徒八十四名に入學を許可し之を本科第四 學年以下の各學年に分編し、同日始業式を行ふ。
- 一 明治四十五年三月第一回卒業生を出し、千葉縣知事臨席

す

- 一明治四十四年十二月増築に着手せし雨中體操場、理科教室及普通教室等工を竣へ大正元年十一月より使用したり
- 一大正二年三月第二回卒業生出づ
- 一大正二年九月校務主監兼教諭中島喜一休職を命ぜらる
- 一同 十月理學士菅野皆可校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一大正三年三月第三回卒業生を出す
- 一大正四年三月第四回卒業生を出せり
- 一大正五年三月第五回卒業生を出す
- 一大正六年三月第六回卒業生を出せり
- 一同 十一月校務主監兼教諭菅野皆可休職を命ぜらる
- 一同 十一月文學士中村安之助校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一大正七年第七回卒業生を出せり
- 一大正八年三月第八回卒業生を出せり
- 一大正八年十月中村校務主監死去
- 一大正八年十二月文學士矢野太郎校務主監に任ぜらる
- 一大正九年三月第九回卒業生を出し
- 一大正十年三月第十回卒業生を出せり
- 一大正十一年三月第十一回卒業生を出せり
- 一大正十二年三月第十二回卒業生を出す
- 一大正十二年十二月校務主監兼教諭矢野太郎依願解職を命

ぜらる

- 一大正十三年一月校主兼校長石川大僧正御遷化
- 一大正十三年二月成田山貫首荒木僧止校長の認可を受く
- 一大正十三年二月文學士笹川種郎校長に任ぜらる
- 一大正十三年三月第十三回卒業生を出す
- 一大正十三年五月神奈川縣立横濱第一中學校教諭佐藤國二校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一大正十四年三月第十四回卒業生を出す
- 一大正十四年三月笹川文學士校長辭任
- 一大正十四年四月笹川文學博士顧問となる
- 一大正十四年四月校務主監佐藤國二校長に任ぜらる
- 一大正十四年七月理事小野寺清三郎死去
- 一大正十五年三月第十五回卒業生を出す
- 一昭和二年三月第十六回卒業生を出す
- 一昭和二年三月校主荒木僧正を名譽校長に推戴す
- 一昭和二年四月理事三橋重郎兵衛病氣の爲隱退す
- 一昭和三年三月第十七回卒業生を出す

昭和二年度重要記事

- 四月五日 入學式、始業式、舉行
- 四月廿三日 大橋教諭の告別式舉行

- 四月廿五日 大木教諭の新任披露式
- 五月八日 四學年關西方面に修學旅行の爲め出發
- 五月十二日 一學年は筑波に、二學年は日光に、三學年は箱根に修學旅行
- 五月廿三日 古川教師辭任
- 六月二日 縣下中等學校長會議に佐藤校長松戸高等女學校に出張
- 六月十六日 全校一同明治大正名畫展覽會觀覽の爲東京行
- 六月二十日 高野教師新任披露式
- 九月一日 震災記念講話
- 十月十日 千葉高等女學校に開催の縣下女子競技大會に一同參列
- 十月廿七日 東京に開催の全國高等女學校長會議に佐藤校長出席
- 十一月三日 庭球、籠球、對級試合舉行、同窓會開催、
- 一月一日 祝賀式舉行
- 一月廿日 中山視學來校
- 一月廿六日 本縣渡邊体育主事來校

- 二月二日 三村教諭の告別式
- 二月六日 山内教諭の新任披露式
- 二月十三日 創立記念式及學藝部大會開催
- 二月十六日 日暮教諭心得の新任披露式
- 三月六日 地久節祝賀式舉行
- 三月十八日 第十七回卒業式舉行
- 三月廿二日 入學考査の結果五十五名に入學を許可す
- 三月廿三日

◎學 則

第一章 總 則

- 第一條 本校の修業年限は本科四箇年とす
- 第二條 生徒定員は二百人とす
- 第三條 休業日左の如し
 - 一、祝日、大祭日
 - 二、日曜日
 - 三、皇后陛下御誕辰
- 四、記念日、二月十三日

五、夏季休業七月廿一日より八月卅一日に至る
 六、冬季休業十二月廿六日より翌一月七日に至る

第一章 學科課程教授時數

第四條 本校の學科目に編物袋物挿花按摩茶の湯を加へ隨意科目とす

第五條 學科課程及び教授時數は左の如し

學科	年級			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	人倫道德ノ要旨、作法	同上	同上	法制大意
國語	六講讀、習字	同上	同上	漢文
英語	三讀方、譯解	同上	同上	同上
歴史	三本邦、三外國	同上	同上	同上
地理	三本邦、三外國	同上	同上	同上
數學	二整數、小數、諸等數、珠算	二約數、倍數、分數、比例、代數初步	三數初步、珠算、代數初步、珠算	三開平、幾何初步、珠算
理科	二植物、動物	二前學年ノ續、生理衛生、續物	三化學、物理	三物
圖畫	一自在畫	同上	同上	同上
家事			二衣食住	四家政、看病育兒等
裁縫	四縫方、裁方	同上、繕方	四同上	同上
音樂	二單音唱歌	二同上	一複音唱歌	同上
體操	三普通體操	同上	同上	同上

教育	計元	袋物	挿花	茶湯	按摩
	元	(一)	(一)	(一)	(一)
	元	同上	同上	同上	同上
	元	(一)	(一)	(一)	(一)
一、大要論ノ					

備考 編物袋物挿花茶湯按摩ハ課外ニ於テ志望者ニ課ス

第三章 入學及退學

第六條 生徒募集は學校長期日學年及人員を定め之を公告すべし但時宜に依り臨時入學を許すことあるべし

第七條 入學志願者は本校所定の入學願書を差出すべし

第八條 第一學年入學志願者に就きては小學校長の内申に基づき試問及身体検査に依りて之を檢定す

第九條 前條の試問は尋常小學校卒業程度に依りて之を行ふ

第十條 第二學年以上に入學を許すべき者は相當年齢に達し學力檢定に合格したるものたるべし

第十一條 入學を許可せられたる者は在學證書に戶籍謄本を添へて差出すべし

(在學證書は別に印刷しあるを以て省略す)

第十二條 保證人は親權者若くは後見人又は親族にして一家計を立て本人に關し一切の責を負ふに足るべきものたるべし

るべし

第十三條

保證人の住所學校所在地より一里以内に在らざるときは一里以内に在所を有し一家計を立つるものを以て代理保證人と定め保證人連署の上之を學校長に届出つべし

第十四條

學校長は必要と認むるときは保證人又は代理保證人を變更せしむることあるべし

第十五條

保證人若しくは代理保證人住所氏名を變更し又は改印したる時は直に學校長に届出づべし

第十六條

生徒退學せんとするときは其理由を記し保證人連署の上學校長に願出づべし

第十七條

生徒病氣其の他止むを得ざる事由に由り三ヶ月以上出席し難きときは期間を定め休學を願出づることを得但し期間は一ケ年を超ゆることを得ず

第四章 修了及卒業

第十八條

各學科の課程の修了又は卒業を認むるには平素の學業成績を考査して之を定むべし

第十九條

卒業證書及修業證書は所定の形式に依る

第五章 授業料及入學料

第二十條

一、授業料は月額金三圓とし毎月十日迄に之を納め特に其期日を指定したるときは其當日之を納むべし

但毎年八月は之を徴收せず

第二十一條

入學料は金一圓とし入學許可の際之を徴收す

第六章 賞 罰

第二十二條

品行方正學術優秀なる者は特待生として授業料の全部又は一部を免除し若くは賞品褒状を與ふ

第二十三條

學校長は左の各項に該當する者には退學を命ず

- 一、 性行不良にして改善の見込なしと認めたる者
- 二、 成業の見込なしと認めたる者
- 三、 出席常ならざる者

第二十四條

規則命令に違背し學校の風紀を害する者は其の輕重に依り戒飭停學又は退學に處す

第七章 寄宿舎及生徒取締

第二十五條

生徒は自宅より通學する者及び學校長の許可を受けたる者の外總て學校の指定する場所に寄宿せしむ

第二十六條

寄宿は自治自炊制とし舎生をして輪番に之を處理せしむ

第二十七條

生徒取締に關する規程は學校長之を定む

第八章 附 則

第二十八條

本校則施行に關する細則及び其の他必要なる内規は學校長之を定む

◎職員

受持學科	職名	姓名	原籍	就職年月
修身、國語、歴史	校長	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
化學、博物、地理、歴史、薙刀	顧問	笹川種郎	東京府	大正十三年五月
數學、物理	文藝	佐藤國二	新潟縣	大正十三年五月
英語、歴史	校長兼教諭	島田正香	長崎縣	大正十四年五月
國語、習字	教諭	小川源三	高知縣	大正十五年四月
教育、作法、家事、國語	教諭	青木三井	滋賀縣	大正十三年四月
裁縫	教諭	白鳥光子	京都府	大正七年一月
體操	教諭	大木と	千葉縣	大正十五年四月
圖畫、習字	教諭	小倉貞松	千葉縣	昭和二年四月
地理	教諭	山内春枝	千葉縣	昭和三年二月
裁縫	教諭	山内充之助	東京府	大正九年十一月
音楽	囑託教師	高野と	千葉縣	昭和三年二月
插花	同	櫻井文吉	富山縣	昭和二年六月
按摩	同	酒井泰作	千葉縣	大正十五年四月
	同	伊藤總平	千葉縣	大正十四年三月
	同	山内平治郎	千葉縣	明治四十四年四月

◎成田山女學校卒業生人名

(明治四十四年三月)

(○は結婚の印)

姓名	原籍	就職年月
藤崎好	千葉縣	大正十三年二月
伊藤よ	千葉縣	大正十三年五月
石原みや	千葉縣	大正十三年五月
幡谷もと	千葉縣	大正十三年五月
長谷川り	千葉縣	大正十三年五月
長谷川き	千葉縣	大正十三年五月
戸塚ひ	千葉縣	大正十三年五月
小川と	千葉縣	大正十三年五月
小田垣	千葉縣	大正十三年五月
小田と	千葉縣	大正十三年五月
吉田よ	千葉縣	大正十三年五月
田中あ	千葉縣	大正十三年五月
山あ	千葉縣	大正十三年五月
杉山い	千葉縣	大正十三年五月

姓名	原籍	就職年月
大塚と	千葉縣	大正十三年五月
大木り	千葉縣	大正十三年五月
山野か	千葉縣	大正十三年五月
山林き	千葉縣	大正十三年五月
若林よ	千葉縣	大正十三年五月
香取て	千葉縣	大正十三年五月
深栖喜	千葉縣	大正十三年五月
秋葉ふ	千葉縣	大正十三年五月
櫻井ハ	千葉縣	大正十三年五月
木内け	千葉縣	大正十三年五月
木内欣	千葉縣	大正十三年五月
三橋イ	千葉縣	大正十三年五月
菅澤	千葉縣	大正十三年五月
鈴木	千葉縣	大正十三年五月

◎卒業生人名現況表

(いろは順)

(○は結婚の印×死亡の印)

姓名	原籍	就職年月
藤崎好	千葉縣	大正十三年五月
伊藤よ	千葉縣	大正十三年五月
石原みや	千葉縣	大正十三年五月
幡谷もと	千葉縣	大正十三年五月
長谷川り	千葉縣	大正十三年五月
長谷川き	千葉縣	大正十三年五月
戸塚ひ	千葉縣	大正十三年五月
小川と	千葉縣	大正十三年五月
小田垣	千葉縣	大正十三年五月
小田と	千葉縣	大正十三年五月
吉田よ	千葉縣	大正十三年五月
田中あ	千葉縣	大正十三年五月
山あ	千葉縣	大正十三年五月
杉山い	千葉縣	大正十三年五月

第二回卒業生 (大正二年三月) (一一)

松戸高等女學校教諭

(丸改) 香取てい 印旛公津
 (木内改) 山野か代 全 成田
 × 木内けい 全 成田
 三橋タイ 全 中郷

池田改) 勝田ゆき 印旛中郷

池田みち 全 成田
 石原静 全 成田
 (林改) 川村くに 全 八生

(渡邊改) 林清喜 安房 湊
 (加藤改) 竹村きん 印旛中郷

(田中改) 横山菊子 全 成田
 竹村きく 全 富里

(中島改) 齋藤朝 君津青堀
 (大友改) 石井光子 宮城仙臺

(小林改) 武津キン 東京牛込
 (秋葉改) 土屋ふて 山武城東

伊藤改) 澤田ひさ 印旛八生

第三回卒業生 (大正三年三月) (一二)

飯泉しけ 印旛成田
 石原ひろ 全 成田
 (林改) 谷田部ゆき 全 成田
 (幡谷改) 師岡幸 印旛成田
 (土井改) 永塚わき 全 塾原
 加藤あい 全 成田
 (吉岡改) 鈴木てい 全 公津
 (吉岡改) 鈴木とし 全 公津
 (谷平改) 平山かね 全 久住
 (露崎改) 荒木キク子 長生五郷
 (成田改) 綿貫きよ 印旛佐倉
 (武藤改) 渡邊さだ 全 永治
 (大島改) 石橋のぶ 全 八生
 大須賀ゆう 全 安食
 (桑原改) 加藤くに 全 安食
 (山下改) 藤崎たか 全 成田
 (藤崎改) 茂木包 全 富里
 佐竹和歌子 東京下谷
 宮崎改) 土屋けい 印旛成田
 (鹽田改) 北村菊代 全 布織

小學校教員

小學校教員

小學校教員

東京和洋裁縫學校卒業
小學校教員

第四回卒業生 (大正四年三月) (二八)

(岩井改) 大木美津 印旛安食
 × 土井わか 全 公津
 × 藤く に 全 公津

(綿貫改) 青柳うめ 茨城取手
 (加藤改) 安田もと 印旛成田

神戸もと 全 成田
 × 川島フサ 全 富里

竹村しけ 全 富里
 根本菊 千葉権名

(並木改) 打木すづ 印旛遠山
 武藤きみ 茨城 文

(猪野改) 松戸その 山武 源
 (平山改) 伊藤えい 印旛成田

大竹たい 香取小御門
 (大木改) 鈴木あやめ 印旛中郷

(黒川改) 行方りき 全 成田
 (桑原改) 岩井なみ 全 安食

山野いく 全 成田
 (山田改) 土井満喜 全 安食

戸板裁縫女學校卒業

小學校教員

小學校教員

小學校教員

東京高等師範學校保育科卒業

第五回卒業生 (大正五年三月) (二六)

(山田改) 柴宮よし 全 八生
 (山田改) 齋藤わか 全 豊住
 増岡りき 埼玉藤田
 秋山うめ 印旛八生
 天野眞知 夷隅大倉

× 浅倉みつ 印旛安食
 湯村とよ 宮城仙臺

(宮内改) 篠原みや 印旛八生
 谷とく 全 公津

(磯部改) 大野イク 印旛久住
 石原ゆう 全 成田

飯倉きく 全 成田
 馬場ちよ 全 宗像

(土井改) 佐羽内とし 全 六合
 小川敬 全 志津

高橋きく 香取滑河
 × 上原こう 印旛成田

野平吉野 全 豊住
 (野平改) 横堀ゆき 全 豊住

小學校教員

小學校教員

東京裁縫女學校卒業

- (大三川改) 尾形本子 香取多古
- (大木改) 廣澤てい 印旛成田
- (奥澤改) 染谷春野 全 白井
- (山内改) 土肥徳子 全 成田
- 山本くに 全 安食
- 京増たか 全 酒々井
- (藤崎改) 相京くに 印旛遠山
- 小坂ひめ 全 酒々井
- 圓城寺てい 全 公津
- 齋藤こう 全 成田
- 湯淺うら 全 八生
- 三橋みち 全 富里
- (三橋改) 東たか 全 成田
- 平野香根 市原高瀧
- (關川改) 藤崎鳳 印旛成田
- 鈴木けい 東葛飾明

和洋裁縫女學校卒業

日本女子大學卒業

- 東京共立女子職業學校卒業
- 第六回卒業生 (大正六年三月) (二九)
- × 岩館かね 印旛遠山
- 石原やす 全 成田
- (小川改) 吉原晃 全 八生

戸板裁縫女學校卒業

- 萩原美子 全 千代田
- 渡貫はる 全 根津
- (川口改) 森田コウ 全 佐倉
- (川崎改) 齋藤よし 全 公津
- 吉岡豊子 全 木下
- 高川綾子 全 成田
- (露崎改) 上原君子 長生五郷
- (夏海改) 岩井千代 印旛遠山
- 大友らく 宮城仙臺
- (武藤校) 井口ミヤ 印旛永治
- × 大木道子 全 成田
- 大野千代 全 旭
- (國本改) × 佐久間とし 全 富里
- (山本改) 鈴木せき 全 豊住
- 山本米 全 成田
- 山崎たけ 全 阿蘇
- 瀧澤よし 全 成田
- 瀧澤よし 全 成田
- 相京ひな 全 公津
- 齋藤ヨシ 全 遠山
- 京須菊江 全 成田

戸板裁縫女學校卒業
東京女子高等師範學校保育科卒業
成田幼稚園保姆 (淺井改)

佐倉大石裁縫女學校卒業

女子醫學專門學校卒業
千駄ヶ谷鐵道病院在勤

日本女子大學卒業

- 水野しま 印旛成田
- (宮川改) 寺口きよ 新潟源
- (篠田改) 石井喜久重 茨城金江津
- 廣瀬てい 印旛成田
- 諸岡米 全 成田
- (須藤改) 五十嵐けよ 全 六合
- (大正七年三月) (二七)
- (岩井改) 石野ふぢ 印旛本塾
- (岩井改) 近藤こう 印旛大森
- (石井改) 杉野ゑい 全 豊住
- 石川てい 全 成田
- 土井きく 千葉大和田
- (土肥改) × 鈴木はな 印旛公津
- 土肥なつ 全 公津
- 神崎りん 全 遠山
- 加瀬千代 香取多古
- 大徳三枝 印旛久住
- 谷よし 全 公津
- (玉村改) 三橋千代 茨城布川
- 山口ふじ 印旛成田

小學校教員

小學校教員

- 山田よし 印旛豊住
- 藤崎いし 全 遠山
- 小林とし 全 阿蘇
- 小坂てる 全 酒々井
- (後藤改) 高橋とき 全 安食
- (遠藤改) 石井はる 全 公津
- 蒔慶子 全 酒々井
- (深山改) 押尾とく 全 六合
- (宮内改) 丸きよ 全 八生
- (宮内改) 石橋三千江 長生一松
- 檜垣千代 印旛久住
- × 關川利子 全 成田
- 諏訪原てる 全 八住
- 鈴木きよ 全 成田
- 五十嵐ゆき 東葛飾布佐
- 石原つや 印旛四野
- (石上改) 梶谷圭 海上瀧郷
- (池田改) 北村喜代 關岡城内
- 長谷川よし 埼玉小林

第八回卒業生 (大正八年三月) (三二)

小學校教員

小學校教員

(小川改) 岡部雪子 三重浦田
伊藤はつ 印幡八生

×小川喜美 東京淺草
小川きい 印幡八生

東京共立女子職業學校卒業

勝田ふみ 全 安食
吉田 勉 全 公津

女子美術學校卒業

瀧澤喜久 全 成田
高川種子 安房北原

小學校教員

(中島改) 中村はる 印幡成田
加瀬清子 長野西寺尾

上野なを 東京麻布
大久保しげ 印幡本塾

東京共立女子職業學校卒業

(大川改) 石橋さい 全 成田
(山田改) 加藤みつ 全 豊住

(山内改) 山内とわ 全 成田
(藤崎改) 小倉三代 千葉更科

和洋裁縫女學校卒業

(小川改) ×小川かく 印幡公津
山田 靜 全 八生

小學校教員

香取 操 全 船穂
川上きく 全 白井

小學校教員

谷川はな 全 酒々井
竹村きみ 全 富里

小學校教員

根本テル 全 豊住
仲山千代 全 公津

東京津田英學塾卒業
大阪府立原尾高女教諭

小學校教員

(小林改) 宇井幾久子 全 成田
山田喜代 全 八生

(三須改) 山本あう 山武日向
山内貞子 印幡成田

私立成田高等女學校一覽

東京女子高等師範學校卒業

(坂本改) 伊藤はま 茨城文間

湯淺 達 印幡八生

埼玉縣本庄高等女學校教諭(本橋改)

島田 惠 全 酒々井

女子醫學專門學校卒業

日暮てい 全 中郷

清宮いつ 全 八生

小島こう 全 本塾

原 郁 全 成田

成田高等女學校教諭

岩館やす 印幡成田

石井やす 全 酒々井

鶴岡タケ 全 遠山

伊藤喜代 印幡里

伊藤てる 全 成田

飯田敏子 茨城八原

菊地きよ 印幡富里

(土井改) 小出とみ 印幡公津

土井とし 全 公津

大木とし 全 成田

小川きよ 全 公津

第十回卒業 (大正十年三月) (二六)

小學校教員

石川 婦久 印幡成田

伊東とも 山武上堺

東京共立女子職業學校卒業(林改) 湯淺君代 印幡八生

東京裁縫女學校卒業 尾崎サト 山武松尾

小學校教員 根本てい 印幡公津

東京女子高等師範學校保育科卒業 小野寺千代子 全 成田

成田幼稚園保母(海瀨改) 高田よしえ 安房稻都

(神崎改) 遠藤あい 印幡遠山

吉岡 珙子 全 木下

(谷改) 檜垣うめ 全 公津

中山たつ 全 成田

中越加津子 全 成田

葛生かつ 全 安食

山田布知 印幡八生

小學校教員 藤崎勢い 全 八生

帝國女子專門學校卒業 中野哲子 香取高岡

(山田改) 松田さだ 印幡成田

(古田改) ×丸 湯淺千代 全 公津

女子醫學專門學校卒業

兒島 愛 茨城金江
後藤 たま 印旛安食
。 篠田 みつ 全 遠山
（遠藤改）
。 石井 ゆう 全 公津
（須藤改）
。 富井 静子 全 六合
。 鈴木 好枝 茨城布川
（鈴木改）
。 佐山 い 印旛六合

第十一回卒業生（大正十一年三月）（三八）

（石橋改）
。 伊藤 喜代 印旛成田
飯倉 ひさ 全 成田
× 秦野 とく 全 公津
。 堀 千代 東京大久保
。 堀内 三鶴 高知津呂
。 大木 みつ 印旛八生
。 加藤 くに 全 八生
。 神崎 やす 印旛遠山
× 川村 長子 全 成田
。 川島 まつ 全 酒々井
。 田中 はな 茨城龍崎
高橋 こと 印旛大森

小學校教員

成田高等女學校教諭
小學校教員

東京女子高等師範學校
專攻科卒業

東京女子職業學校在學
東京裁縫女學校卒業
長野縣篠井高女教諭

女子醫學專門學校卒業
千葉女子師範二部卒業

小學校教員

高川 興子 安房北三原
。 谷 すい 印旛公津
× 竹村 嘉代 全 富里
。 増淵 才 印旛安食
。 小倉 松 全 成田
。 黒田 くに 全 成田
。 山本 たか 全 安食
（山田改）
。 小倉 てい 全 八生
。 矢野 敬 愛媛久米
。 藤崎 シン 印旛遠山
。 藤崎 たい 全 遠山
。 藤崎 ふみ 全 遠山
。 小坂 とめ 全 酒々井
。 寺本 きみ 全 八生
。 齋藤 けい 市原八幡
× 齋藤 てい 印旛遠山
。 佐瀬 より 全 八生
（湯淺改）
。 神崎 はな 全 八生
宮崎 秀子 長生八積

東京女子美術學校卒業

（日暮改）
。 篠原 芳枝 印旛木下
。 西谷 トミ 全 中郷
。 泉 對ヒロ 千葉豊富
。 菅 壽美 匝瑳榎海
。 鈴木 とし 印旛成田
。 鈴木 錦 秋田本莊

第十二回卒業生（大正十二年三月）（三九）

保 姆
伊藤 きわ 印旛中郷
。 岩井 さく 全 大森
。 井浦 多美 香取小見川
。 石橋 なか 印旛成田
× 飯沼 つね 全 酒々井
。 石原 とみ 全 富里
。 腰川 八千代 全 八生
（林改）
。 原 えい 全 佐倉
。 細川 喜興 全 遠山
。 土井 忍い 全 公津
（土井改）
。 野平 きい 印旛公津
× 土井 よし 全 公津
岡田 はな 茨城布佐

東京共立女子職業學校卒業

小學校教員

東京共立女子職業學校卒業（林改）

小學校教員
和洋裁縫速成科卒業

小學校教員

小學校教員

小學校教員

大澤 しけの 印旛本郷
。 大木 美代 全 八街
× 小野 寺シゲ 全 成田
。 小倉 茂子 全 成田
。 太田 鹿子 全 公津
。 勝田 俊 全 八生
。 海保 けい 茨城金江
。 吉橋 きん 印旛旭
。 椿 たき 香取滑川
。 並木 菊子 印旛遠山
。 鶴澤 喜代 山武蓮沼
。 山本 くに 印旛八生
。 山本 佐多 全 和田
。 増田 温子 全 成田
。 京増 はる 全 酒々井
。 藤崎 まつ 全 安食
。 後藤 瑞子 全 八生
。 小池 よし 全 遠山
。 安達 靖子 印旛遠山
。 相京 いく 全 酒々井

小學校教員

京都同志社在學

第十三回卒業生 (大正十三年三月)(四七)

秋山ツヤ 印旛中郷
 櫻井けい 香取小御門
 × 島田輝代 印旛酒々井
 平野江榮 全 八生
 平山まさ 全 成田
 平山とつ 全 成田

石川ふけ 印旛成田
 岩田望美 全 布織
 石原節 印旛安食
 。 豊田登代 全 成田
 。 土井てい 全 公津
 及川ナカ 匝瑳 榮
 岡田けい 印旛本郷
 大木まつ 全 中郷
 大久保ちか 全 本郷
 小川貞女 全 八生
 小川ふじ 全 八生
 綿貫綾子 全 酒々井
 片岡と免 印旛成田

小學校教員

小學校教員

小學校教員

日本女子大學校家政科在學

小學校教員

吉岡誠 印旛中郷
 玉村ハナ 茨城布川
 高槻洋子 福島本郷
 高橋しのぶ 香取滑川
 瀧澤喜代 印旛成田
 中島さき 全 安食
 仲山勢い 全 公津
 野口とき 全 豊住
 山田かつ 全 成田
 山内總江 全 成田
 。 山口ひで 全 八生
 。 松田ふく 全 成田
 増田とき 香取加賀
 。 藤原せつ 全 小御門
 船橋ツネ 印旛成田
 紺谷浦枝 全 成田
 小泉繁子 全 成田
 秋山みつ 全 八生
 青野むつ 香取高岡
 相京タク 印旛公津

女子職業學校卒業

東京女子大學校在學
和洋裁縫學校卒業

齋藤あい 印旛遠山
 齋藤きよ 全 酒々井
 × 佐伯とみ 長生土睦
 湯淺ゆう 印旛八生
 湯淺つね 全 八生
 × 三橋孝子 全 成田
 。 宮内はる 全 八生
 島田清 全 酒々井
 。 平山とし 香取多古
 關川昭 印旛成田
 鈴木トシ 全 公津
 鈴木つる 茨城布川
 菅谷とし 全 白鳥

小學校教員

小學校教員

實踐女學校專攻科在學
小學校教員

第十四回卒業生 大正十四年三月)(四四)

實踐女學校專攻科在學

小學校教員

× 石井かつ 印旛富里
 岩館はる 全 成田
 飯田ちよ 茨城金江
 。 伊藤みつ 印旛八生
 石橋あき 全 中郷

(古川改)

林 子 印旛成田
 長谷川のぶ 全 成田
 大澤 敦 全 八生
 岡田喜美 埼玉與野
 小倉治子 印旛成田
 小倉まさ 全 富里
 大木ヤ井 印旛中郷
 大木ゆき 全 八生
 小川春子 全 八生
 大竹かね 全 富里
 竹尾きよ 印旛和田
 中野美津子 香取高岡
 永田順子 印旛成田
 野島律 全 豊住
 牧野とし 全 成田
 丸よし 全 公津
 京須八重 全 成田
 藤崎けい 全 遠山
 藤倉しげ 全 成田
 文屋壽 全 成田

櫻井女塾卒業

小林ハル 茨城會津
越川富美子 印旛木下

千葉高女補習科卒業
土岐裁縫女學校在學

石橋たみ 印旛成田
石橋つたい 香取滑川
石橋とよ 印旛中郷
石原せつ 印旛富里
石川せつ 全富里

和洋裁縫學校卒業

後藤てる 歌全安食
後藤ゆき 全公津
手島せつ 全遠山
秋山ふさ 全八生
相川とく 全公津

和洋裁縫女學校卒業

伊藤千代 全白井
池田頼子 山武千代田
今井春子 印旛成田
堀江智恵 全成田

小學校教員

×青柳のぶ 全公津
齋藤きよ 全公津

土岐裁縫女學校在學

戸村千代 全和田

小學校教員

小川つぎ 全八生

臨時教員養成所

小倉みち 全公津

女子高等學園在學

小野寺アイ 全成田

女子師範二部卒業小學校教員

小倉とみ 全成田

小學校教員

諸岡以喜子 全成田
諸岡ます 全成田
關口しげ 全久住
鈴木こと 全富里
齋藤いと 全木下

女子師範二部卒業小學校教員

加藤きん 全成田

第十五回卒業生 (大正十五年三月) (四五)

女子師範專攻科在學

高橋さゆり 香取滑河
高橋さだ 茨城會津

家政學院在學

榎垣 穎 印旛久住

女高師保育科卒業

山崎きく 全豊住
淺井壽 全成田

第十六回卒業生 (昭和二年三月) (四六)

石井イワ 印旛豊住

小學校教員

麻生菊枝 山武千代田
青木こう 印旛本塾

女子美術學校在學

石原あや子 全富里

茨城女子師範二部卒業

青山ま津 茨城會津

和洋裁縫女學校在學

岩澤利子 全遠山

日本女子大學校在學

佐久間かつ 印旛成田
佐伯智恵子 全成田

女子高師保育科卒業

岩瀬かつ 全成田

女子高等學院在學

木下けい 印旛成田
龍崎しつ 全遠山

女子職業學校在學

伊藤まさ 全成田

女子高等學院在學

湯淺公己 全八生
湯淺みつ 全八生

千葉高女家庭科在學

林田まさ 全成田

小學校教員

和洋裁縫女學校在學

小學校教員

小學校教員

大妻裁縫女學校在學

土岐裁縫女學校在學

中島	中野	桑原	古矢	藤倉	荻原	小倉	小倉	渡邊	渡邊	渡邊	加藤	片岡	片岡	神崎	福田	秋山	秋山	手島	寺内	堺
こう	雪子	米	春子	さだ	あい	みち	タケ	すま	よし	ゆき	淑	てる	てる	く	す	る	る	愛	八重	けい
印旛	香取	印旛	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
成田	大留	豊住	成田	成田	成田	八生	成田	成田	成田	成田	八生	香取	遠山	遠山	茨城	八生	千代田	成田	成田	成田

土岐裁縫女學校在學

女子美術學校在學

千葉高女家庭科在學

第十七回卒業生 (昭和三年三月) (四九)

渡邊裁縫學校在學

坂田	齋藤	齋藤	木内	湯淺	水野	宮田	平山	諸岡	諸岡	石川	石川	石川	伊藤	飯塚	林	土肥	鳥居	小川
リウ	よし	なみ	ふじ	とし	愛子	節	しづ	琴子	貞子	きく	ちか	文枝	ハル	まつ	花子	みさほ	薫	々
印旛	全	全	香取	印旛	全	全	香取	全	印旛	印旛	遠山	成田	遠山	成田	成田	全	全	全
富里	公津	公津	多古	八生	成田	成田	多古	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	公津	公津	公津

大阪女子藥學校在學

障蔭女學校在學

山脇高女、家政科在學

東京女子高等學院在學

小川	小倉	小倉	太田	大島	荻原	渡邊	神戶	加藤	加藤	海保	多田	大德	竹尾	長竹	野口	葛生	久保	郡司	矢村	矢村
のぶ	えい	えい	愛和	春江	とみ	つる	光子	カツ	な美	富美	光子	愛子	ます	勅子	七三	つる	菊江	和歌子	仁枝	美都
印旛	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
中郷	成田	成田	公津	八生	豊住	成田	成田	成田	遠山	茨城	公津	成田	井	成田	豊住	安食	成田	遠山	公津	公津

幼稚園保姆見習

帝國女子專門學校在學

山田	山本	山本	丸	增淵	藤江	藤崎	岡崎	青木	秋山	佐久間	木内	湯淺	湯淺	清水	島田	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
とよ	雅子	幸	千代	英子	和子	コト	つね	トク	弘	ふみ	しげ	ちい	つる	文代	治子	志津	隆子	木	木
印旛	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
八生	成田	安食	公津	成田	安食	遠山	公津	本	富里	成田	成田	八生	八生	遠山	成田	成田	木下	木下	茨城

◎經費統計概表

年 度	俸 給	備 給	手 當	賞 與	旅 費	需用費	營繕費	雜 費	準備費	合 計
四十四年度決算	二六三、八四〇	一〇八、〇〇〇	七三、〇〇〇	二二、六九〇	四、六〇〇	六二五、八二〇	二八三、六八一	二七、一六〇		四四七、七九一
四十五年度決算	二八五、七五〇	一〇八、〇〇〇	六二、〇〇〇	二九、六〇〇	一〇〇、八〇〇	八八二、〇〇〇	八〇、八二二	二八三、八八五		四八二、五七六
大正二年度決算	四〇五、一六〇	一〇八、〇〇〇	三六、〇〇〇	五八、二九〇	六八、三〇〇	九四四、七五五	九一、四三五	四三、五二〇		七九五、五二〇
大正三年度決算	四三四、二一〇	一三三、一〇〇	三六、〇〇〇	二五、四〇〇	九三、〇〇〇	九七、七五〇	五〇一、八六九	四三〇、五二〇		六七〇、一八〇
大正四年度決算	四五〇、〇〇〇	一三三、〇〇〇	三六、〇〇〇	三〇、〇六〇	一〇〇、一五〇	一三〇、六六〇	四三二、八二二	七五、〇五〇		七五二、六九二
大正五年度決算	四七八、九〇〇	一三三、〇〇〇	三六、〇〇〇	二七、四九〇	一四、一一〇	八三、八三七	二四一、五〇〇	三三、五〇〇		六六二、三三七
大正六年度決算	四八四、六〇〇	一四六、〇〇〇	三六、〇〇〇	九三、九二〇	二二、八六〇	七四、〇〇〇	一六一、七二〇	三三、七〇〇		七四八、〇〇六
大正七年度決算	五一五、七五〇	一四六、〇〇〇	三六、〇〇〇	五六、六九〇	九、四三〇	六八、一五〇	三二、一七〇	五五、九四八		七五八、一四三
大正八年度決算	八五三、六〇〇	三〇一、〇〇〇	三六、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	二〇、四九〇	一七六、四〇〇	五七、二〇六	一〇九、五四〇		一二三三、五六六
大正九年度決算	一〇一七、六七〇	三〇一、〇〇〇	三六、〇〇〇	一七五、六二〇	二九、八五〇	一〇七、六〇〇	五二、七五五	一四三、九六四		一五二八、六二九
大正十年度決算	九六三、四〇〇	三〇一、〇〇〇	三六、〇〇〇	一三九、四四〇	二四、三六〇	一六二、四九九	五九、一六七	一三三、五一〇		一五三〇、三六六
大正十一年度決算	九六九、四一〇	四六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一九二、二二〇	四九、一七〇	一八三、七五〇	八七、九九五	一八五、六三五		一六七七、一六〇
大正十二年度決算	九七六、〇〇〇	四六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一〇六、六六〇	一七、〇〇〇	三三七、七六三	六九、一八五	二〇九、七七五		一五八五、三八三
大正十三年度決算	一七三、三三〇	四六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一六七、五〇〇	五、〇八〇	二九四、〇五五	四六、八三五	二〇八、一九五		二四一〇、九四五
大正十四年度決算	一一四、〇〇〇	四六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	二〇四、五〇〇	七、七三〇	三三四、〇五三	二四、七五〇	二四七、六〇六		三三二七、二一九
昭和元年度決算	一三〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	三三、三三〇	七、九〇〇	三三〇、七八〇	二六、〇七二	三三九、二二〇		三三六三、一六〇
大正十五年度決算	一三〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	三三、三三〇	七、九〇〇	三三〇、七八〇	二六、〇七二	三三九、二二〇		三三六三、一六〇
昭和二年度決算	一三六、〇〇〇	四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	三三、三三〇	七、九七〇	一八七、六六〇	六二、六三〇	三三七、六二〇		三四六八、八八〇

成田幼稚園一覽

園 歌	六三
設置廢止及設備の狀況	六四
職 員	六四
保育の概況	六四
經 費	六五
入退園及年度末現員調	六五
保育修了幼兒數	六七
規 則	六七
保護者心得	六九

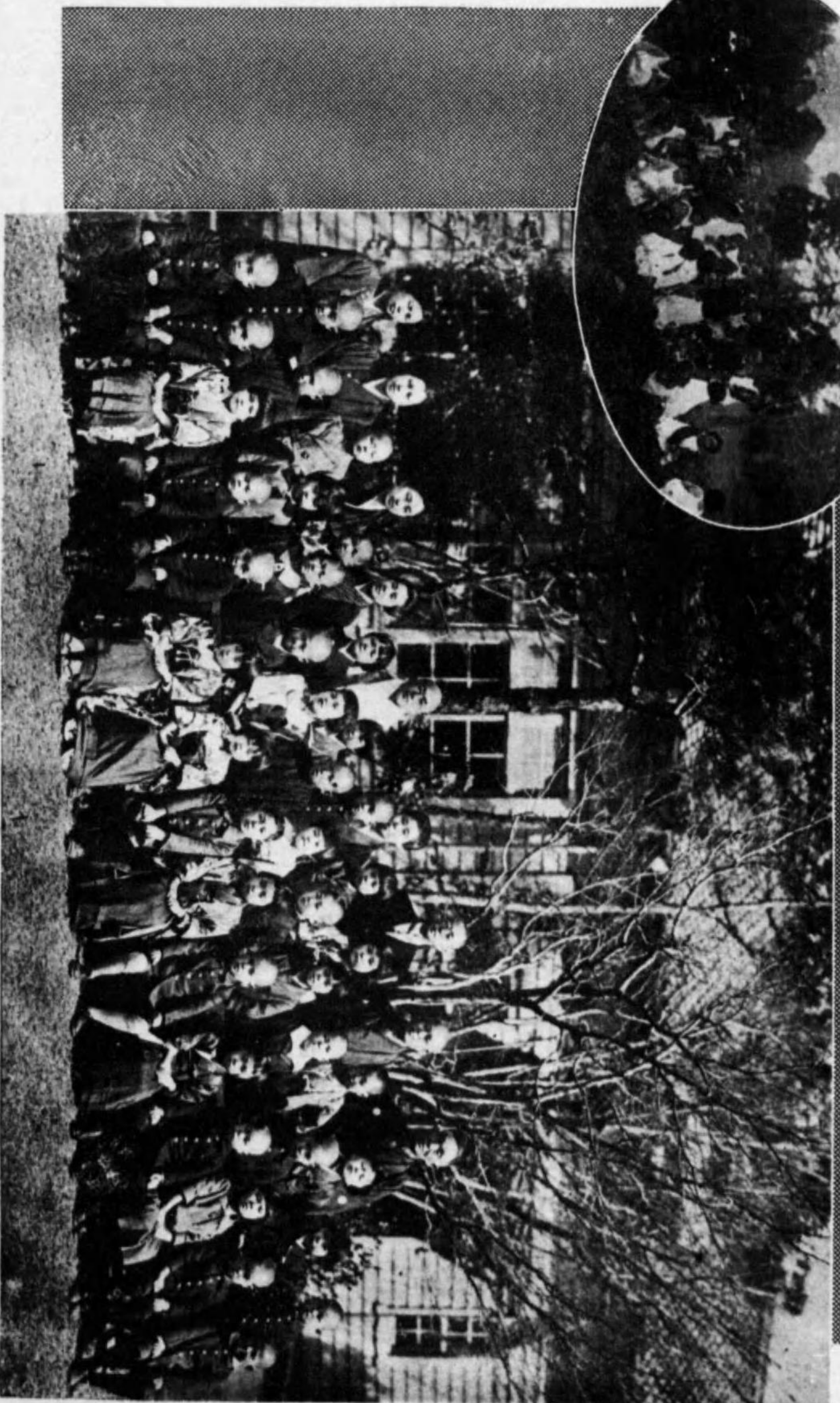
◎經費統計概表

年 度	俸 給	備 給	手 當	賞 與	旅 費	需用費	營繕費	雜 費	準備費	合 計
四十四年度決算	二六三、八四〇	一〇八、〇〇〇	七三、〇〇〇	二二、六九〇	四、六〇〇	六三、八二〇	二八、六八一	二七、一六〇		四四七、七九一
四十五年度決算	二八五、七五〇	一〇八、〇〇〇	六二、〇〇〇	二九、六〇〇	一〇、八〇〇	八二、〇〇〇	八〇、八二二	二八、八八五		四八二、五七六
大正二年度決算	四〇〇、一九〇	一〇八、〇〇〇	六六、〇〇〇	八二、二九〇	六八、三三〇	九四、七七五	九一、四二五	四三、五二〇		七二九、五二〇
大正三年度決算	四三三、二一〇	一〇八、〇〇〇	三六、〇〇〇	二五、四〇〇	九三、〇〇〇	九三、七二五	五〇、八六五	四九、〇一〇		六七〇、一八〇
大正四年度決算	四六〇、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	三六、〇〇〇	三三、〇〇〇	一〇、一五〇	一〇六、六六五	四九、八一三	七四、〇四四		七五二、六九五
大正五年度決算	四七八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	三六、〇〇〇	二七、四〇〇	一四、一〇〇	八三、八三七	二四、二〇〇	三七、五〇〇		六六二、三三〇
大正六年度決算	四八四、六八〇	一〇六、〇〇〇	三六、〇〇〇	九三、九三〇	三三、八六〇	七二、四三〇	一六、七三〇	三三、七〇〇		七四八、〇〇〇
大正七年度決算	五一八、七五〇	一〇六、〇〇〇	三六、〇〇〇	五六、六九〇	九、四三〇	六八、一五〇	三三、一七〇	五二、九四八		七五七、一四〇
大正八年度決算	八五三、六七〇	一〇一、〇〇〇	三六、〇〇〇	四〇、〇〇〇	二〇、四九〇	一七六、四六〇	五七、三〇六	一〇八、五四〇		一二九三、五六六
大正九年度決算	一〇一七、六七〇	四〇八、〇〇〇	三六、〇〇〇	一七、五六〇	二八、五五〇	一〇七、〇四〇	五一、七七五	一四三、九六四		一五二八、六二九
大正十年度決算	九六三、四四〇	四〇〇、〇〇〇	三六、〇〇〇	三九、四三〇	二四、三六〇	一六九、四三九	五九、一六七	一三四、五一〇		一五九四、三六六
大正十一年度決算	九六九、四一〇	四〇六、〇〇〇	三六、〇〇〇	一九、二二〇	四三、一七〇	一八三、七五〇	八七、九九五	一八七、六三五		一六七七、一六〇
大正十二年度決算	九七六、〇〇〇	四五六、〇〇〇	三六、〇〇〇	一〇六、六六〇	一、七〇〇	二二七、七六三	六九、一八五	二〇九、七七五		一五八五、三三三
大正十三年度決算	二七三、三三〇	四五六、〇〇〇	三六、〇〇〇	一三三、五〇〇	五四、〇八〇	二九四、〇五五	四六、八三三	二〇八、一九五		二四〇七、九四五
大正十四年度決算	一一〇、六〇〇	四五六、〇〇〇	三六、〇〇〇	三〇、四八〇	七〇七、一三〇	三五〇、五四三	二七、四七五	二四七、六〇六		二二七三、二一九
昭和元年 大正十五年 年度決算	一三〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	三六、〇〇〇	三三、四四〇	七九、〇〇〇	三五七、八五〇	二六、〇七五	三四八、三四〇		二五六一、一六〇
昭和二年 年度決算	一三六、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	三六、〇〇〇	三三、〇〇〇	七九、六九〇	一八七、六六〇	六二、六三〇	三三七、六三〇		二三四八、八八〇

成田幼稚園一覽

園 歌	六三
設置廢止及設備の狀況	六四
職 員	六四
保育の概況	六四
經 費	六五
入退園及年度末現員調	六五
保育修了幼兒數	六七
規 則	六七
保護者心得	六九

り堀生花落の童兒



者了修育保回三十二第及員職

園歌

大和田 建樹氏作歌
小山 作之助氏作曲

御寺の山をあけ暮に

見わたす成田の幼稚園

園に生ひたつ撫子の

花にめくみの露しけし

我等も日々を集りて

雲雀となりて謠はまし

その、恵の嬉しさを

御代の恵のたのしさを



ミテラノ ヤ マヲ アケクレ ニ
われらも ひ びに あつまり て



ミワタス ナリタノ ヨーチェン
ひばりと なーりて うたはまし



ソ ノニ オヒタツ ナデシコ ノ
そ のの めぐみの うれしさを



ハ ナニ メグミノ ツユシゲ シ
み よの めぐみの たのしさを

私立成田幼稚園一覽

(昭和三年四月現在)

◎設置廢止及設備の狀況

明治三十八年日露戦役の記念として同年五月二十八日町立成田小學校内に假園舎を置き保育を開始し同三十九年線の森に包まれた向ふ臺と稱する三千百八拾九坪の廣い高燥の地を選び同年六月新築落成を告げ小學校園舎より現在の園舎に移る昭和三年三月第二十三回の卒業生三十七名を小學校に送り開園後園舎及附屬建物は皆平家建とし保育室三、園長室、遊嬉室應接室、静養室、玩具室、準備室、職員室等の拾室小使室附屬建物職員住宅二棟合計二百五十四坪幼児の遊園として一人約三十坪の遊園を有し二千八百餘坪とす
二千八百餘坪の遊園は全部芝生とし砂場四ヶ所三ヶ所の小山花壇藤棚等を設け幼児の外遊に備ふ
園舎の設計は斯道に名ある服部文部省技手之に當らる
園主兼園長は成田山貫主荒木僧止にして理事石川甚兵衛關川博道淺井儀助の三理事之を補佐し淺井儀助専務理事兼會計主任を兼ね關川博道園醫を兼ね
職員は六名にして保育は保母之に當り主任保母指導監督す

◎職員

職名	姓名	原籍	就職年月日
主任保母	山口政子	徳島縣	大正三年十月十四日
保母	若命喜美	神奈川縣	大正十年三月一日
保母	瀧澤よし	千葉縣	大正七年十一月一日
保母	高田よしあ	千葉縣	大正十年五月一日
保母	那須幸子	千葉縣	大正十五年十月一日
助手	山本雅子	千葉縣	昭和三年四月一日

◎保育の概況

幼児は滿三年より入學まで三年保育とす入園の際は平易な選抜法に依り二年以上在園するものに限り入園を許す
昭和三年四月現在幼児數男四三女五四計九七年少の組は十八名を一組し他を三組に編成す
保育時間は季節に依り長きは五時間以内短きは二時間とす
保育課目としては唱歌、遊嬉、觀察、談話、手技とす
玩具は特に六坪の玩具室を設け幼児の觀察資料とし二千八百餘坪の庭園は樹木繁茂し美しき雜草は密生し四季に移りゆく自然の庭は保育上觀察に談話に手技に將又唱歌にも遊嬉にも應用せられ幼児自から種子蒔いて培養した落花生さつまいも三月豆などの二葉より收穫までの變化の觀察も一入効果を收め空氣清く

恵に豊かなる自然の園生は本園保育上最も應用の範圍極めて多
 い
 年中行事

一月八日 新年始業式
 三月三日 桃の節句
 四月七日 入園式
 五月五日 菖蒲節句
 六月一日 創立記念日
 二月十一日 紀元節
 三月二十日 保育修了式
 四月二十九日 天長節
 本園の新築費及經費は左の如し
 保育料は一人月額一圓とし二人以上半減とす保育料以外は凡て
 新勝寺に於て負擔支出す

敷地買入及新築費、落成式費

一金參千五百八圓八十五錢 (自三十八年六月至四十年三月)
 一金壹千八百八圓十七錢 (四十年度)
 一金壹千九百四十四圓四十錢 (四十一年度)
 一金壹千五百二十七圓三錢 (四十二年度)
 一金壹千七百二十五圓四十三錢 (四十三年度)
 一金壹千九百三十五圓七十錢 (四十四年度)
 一金壹千九百二圓九十五錢 (大正元年度)
 一金貳千一百四十四圓十五錢 (大正二年度)
 一金貳千三百四十一圓十五錢 (大正三年度)

年	度		入園	卒業	退園	死亡	現年度末員
	女	男					
明治三十九年度	三〇	二二	二二	二二	七	一	二四
明治四十年度	二六	二六	二六	二〇	四	〇	二四
明治四十一年度	二六	二四	二四	一五	七	〇	二六
明治四十二年度	三一	三一	三一	二〇	一	〇	二五
明治四十三年度	二二	二九	二二	一七	七	〇	三〇
明治四十四年度	四一	四九	四一	二二	九	〇	二六
大正元年度	二五	二五	二五	一九	二	〇	三九
大正二年度	二〇	二五	二〇	一九	四	〇	二七
大正三年度	三〇	二六	二六	二九	六	〇	二六
大正四年度	二六	二六	二六	二二	四	〇	二四
大正五年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二六
大正六年度	二八	二五	二八	二一	〇	四	三六
大正七年度	二二	二二	二二	二〇	四	一	三九
大正八年度	二一	二一	二一	二一	四	〇	三六
大正九年度	一九	一九	一九	一七	〇	一	三三
大正十年度	三一	二六	三一	二二	六	〇	三五
大正十一年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	三二
大正十二年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	三〇
大正十三年度	二二	二二	二二	一八	一	〇	二八
大正十四年度	二四	二四	二四	二〇	二	〇	二六
大正十五年度	二五	二五	二五	二一	三	〇	二四
大正十六年度	二八	二五	二八	二二	四	〇	二六
大正十七年度	二二	二二	二二	二〇	四	一	二四
大正十八年度	二一	二一	二一	一九	四	〇	二二
大正十九年度	一九	一九	一九	一七	四	〇	二〇
大正二十年度	三一	二六	三一	二二	六	〇	二八
大正二十一年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二六
大正二十二年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二四
大正二十三年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二六
大正二十四年度	二八	二五	二八	二一	〇	四	三五
大正二十五年度	二二	二二	二二	二〇	四	一	三九
大正二十六年度	二一	二一	二一	二一	四	〇	三六
大正二十七年度	一九	一九	一九	一七	〇	一	三三
大正二十八年度	三一	二六	三一	二二	六	〇	三〇
大正二十九年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二八
大正三十年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正三十一年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正三十二年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正三十三年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正三十四年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二六
大正三十五年度	二八	二五	二八	二一	〇	四	三五
大正三十六年度	二二	二二	二二	二〇	四	一	三九
大正三十七年度	二一	二一	二一	二一	四	〇	三六
大正三十八年度	一九	一九	一九	一七	〇	一	三三
大正三十九年度	三一	二六	三一	二二	六	〇	三〇
大正四十年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二八
大正四十一年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正四十二年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正四十三年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正四十四年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正四十五年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二六
大正四十六年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正四十七年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正四十八年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正四十九年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正五十年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正五十一年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正五十二年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正五十三年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正五十四年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正五十五年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正五十六年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正五十七年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正五十八年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正五十九年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正六十年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正六十一年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正六十二年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正六十三年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正六十四年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正六十五年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正六十六年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正六十七年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正六十八年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正六十九年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正七十年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正七十一年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正七十二年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正七十三年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正七十四年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正七十五年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正七十六年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正七十七年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正七十八年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正七十九年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正八十年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正八十一年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正八十二年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正八十三年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正八十四年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正八十五年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正八十六年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正八十七年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正八十八年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正八十九年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正九十年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正九十一年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正九十二年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正九十四年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正九十五年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正九十六年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正九十七年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正九十八年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正九十九年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正一十年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正十一年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正十二年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正十三年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正十四年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正十五年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正十六年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正十七年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正十八年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正十九年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正二十年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正二十一年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正二十二年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正二十三年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正二十四年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正二十五年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正二十六年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正二十七年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正二十八年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正二十九年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正三十年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正三十一年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正三十二年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正三十三年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正三十四年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正三十五年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正三十六年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正三十七年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正三十八年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正三十九年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正四十年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正四十一年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正四十二年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正四十三年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正四十四年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正四十五年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正四十六年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正四十七年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正四十八年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正四十九年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正五十年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正五十一年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正五十二年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正五十三年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正五十四年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正五十五年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正五十六年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正五十七年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正五十八年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正五十九年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正六十年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正六十一年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正六十二年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正六十三年度	二六	二六	二六	二〇	九	〇	二六
大正六十四年度	二四	二四	二四	一五	七	〇	二四
大正六十五年度	二五	二五	二五	一九	七	〇	二五
大正六十六年度	二六	二六	二六	二〇	九		

◎私立成田幼稚園幼兒保護者心得

一 家庭と幼稚園の連絡に關する事

幼兒の保育に關しては幼稚園と家庭と相待ちて協力するにあらざれば効果を得ること能はざるは云ふまでもなき事なるべしされば家庭と幼稚園とは常に氣脈を通じ内外相應じて保育の効を全くせざるべからず今彼此の連絡に關して當園の冀望する所を擧げんに概ね左の如し

一 家庭より當園の事に付疑義あるか或は幼兒の事に關して擔任保母に問合せ又は協議せられたき事あらば何事にても遠慮なく口頭又は書面にて申出でられたし

二 父母兄弟並に直接に幼兒の保育に關係ある人は時々來園して當園の實況を視察し之を家庭の保育に參考せられんこと當園の最も冀望する所也又毎年春秋二回特に保育懇話會を開き保護者諸君の來會を請ふを例とせり是は一は實地保育の模様を諸君に示し又一は諸君より家庭の狀況を聞き幼兒の保育に關し相互に懇話せんが爲なり日時は其都度通知すべければ成べく來會ありたし

一 幼兒付添人に關する事

當園に於ては幼兒付添人を要せず
但往復途中の送迎は隨意たるべし

一 幼兒の遊戲に關する事

遊戲は實に幼兒の仕事にして心身の發達一に之によるものなれば最も自由快活に之を爲さしむること必要なれども野鄙亂暴に渉るものは之を制せざるべからざるは勿論玩具等に付きても亦能く其良否を甄別せられたし又幼兒の記憶に任せ讀書等を授けらるゝ向もまゝあるよしなれども是等は幼兒の發育に害あるも益なかるべければ注意せられたし

一 幼兒服裝に關する事

幼兒の服裝は成るべく質素にして遊戲運動等に便利なる者を用ひ従つて地質は綿布麻布の類とし仕立方を筒袖とせられたし

一 幼兒の携帶品に關する事

幼兒在園中に用ふべき器具等は總て當園にて貸與すべきが故に手拭鼻紙等必要な物品の外に幼兒に携帶せしめざる様致したし

帽子辨當傘の携帶品には一々氏名を記し置かれたし

一 幼兒の往復に關する事

幼兒の往復は充分に保護せらるべきは勿論なれども風雨其他疾病遠路特別の事情ある時の外は成るべく徒歩せしめられたし

一 幼兒の缺席並に家庭の疾病等に關する事

幼兒の缺席一週を越ゆるときは口頭或は書面にて詳に其事由を届出でらるべし凡て多人數の集る所は充分注意を爲すにあらざれば或は悪疫傳染の媒をなす恐あるを以て幼兒の家族に傳染病者ある時は直に其病名を記して届出でらるべし

但茲に傳染病と稱するは痘瘡及假痘、猩紅熱、腸窒扶斯、

發疹窒扶斯、虎列刺、赤痢、ジフテリア、ベスト等を云ふ

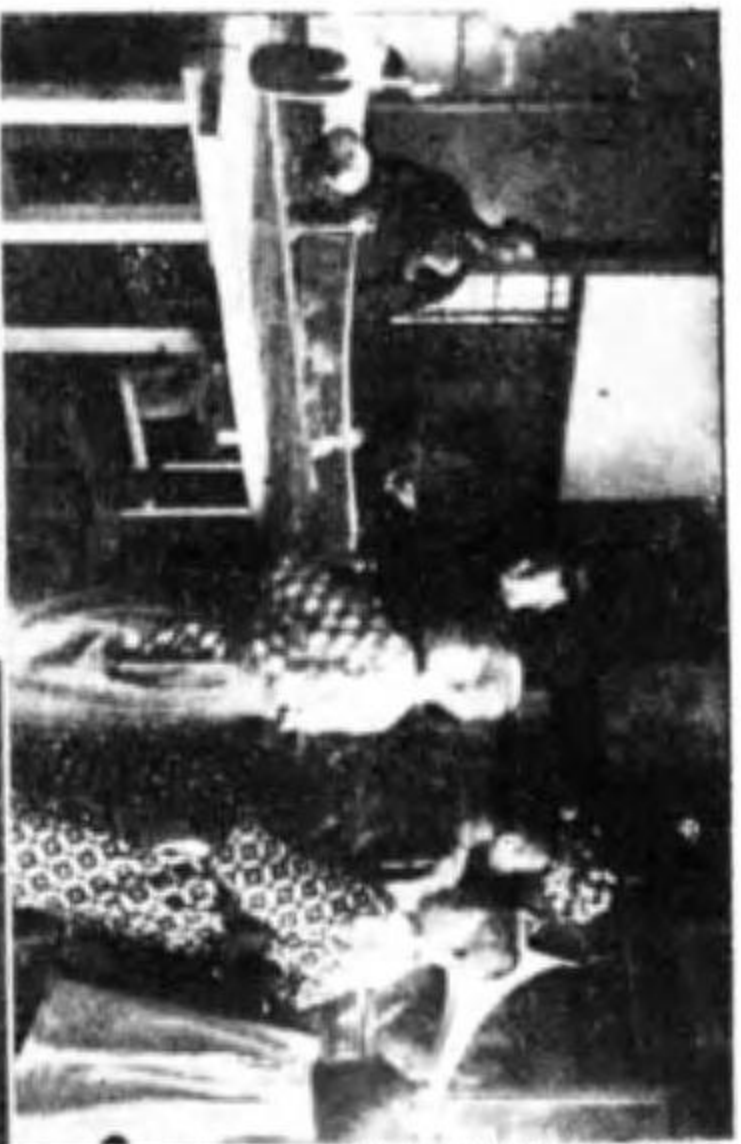
一 保護者の異動に關する事

保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたるときは直に届出でらるべし

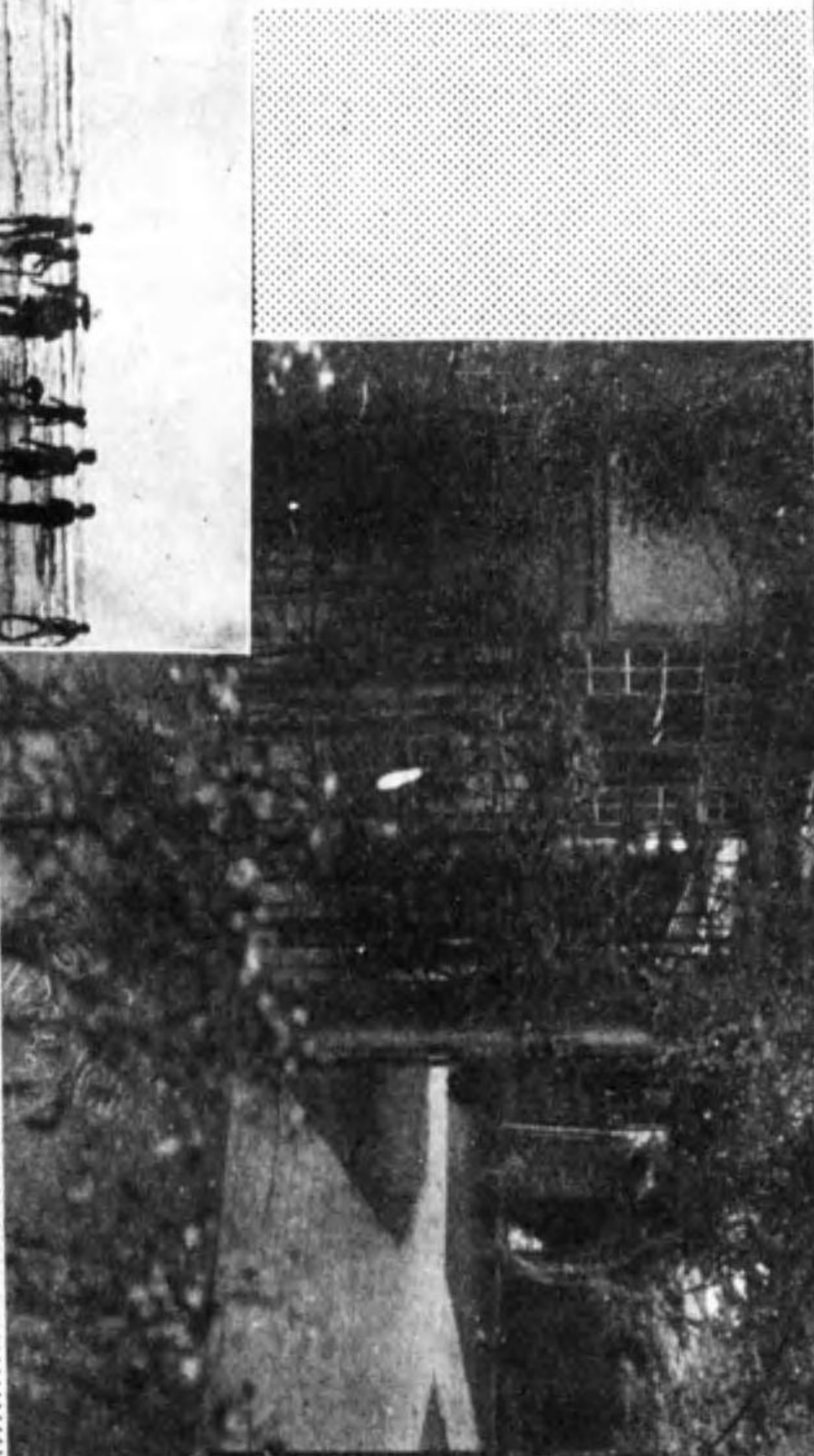
今日一日の務

- 一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
 - 二、今日一日父母教師の教を守り能く命に従ふ事
 - 三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
 - 四、今日一日能く自制克己し我儘なことや悪いと思ふことをせぬ事
 - 五、今日一日常に正直を旨として決して虚偽を言はぬ事
 - 六、今日一日能く勉強し能く仕事を働く事
 - 七、今日一日禮儀を守り無作法の言行をせぬ事
 - 八、今日一日人より受けたる恩を忘れぬ事
 - 九、今日一日腹を立てぬ事
 - 十、今日一日仕事に倦まない事
 - 十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くる事
 - 十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
 - 十三、今日一日人の悪口を言はぬ事
 - 十四、今日一日不平なく愉快に日を暮す事
 - 十五、今日一日出来る丈多く善行を積む事
- 右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし

室 樂 娛



店探検の日記



活生海臨の濱里九十九



門正園學田成



狩 井

今日一日の務

- 一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
 - 二、今日一日父母教師の教を守り能く命に従ふ事
 - 三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
 - 四、今日一日能く自制克己し我儘なことや悪いと思ふことをせぬ事
 - 五、今日一日常に正直を旨として決して虚偽を言はぬ事
 - 六、今日一日能く勉學し能く仕事を働く事
 - 七、今日一日禮儀を守り無作法の言行をせぬ事
 - 八、今日一日人より受けたる恩を忘れぬ事
 - 九、今日一日腹を立てぬ事
 - 十、今日一日仕事に倦まない事
 - 十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くる事
 - 十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
 - 十三、今日一日人の悪口を言はぬ事
 - 十四、今日一日不平なく愉快に日を暮す事
 - 十五、今日一日出来る丈多く善行を積む事
- 右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし

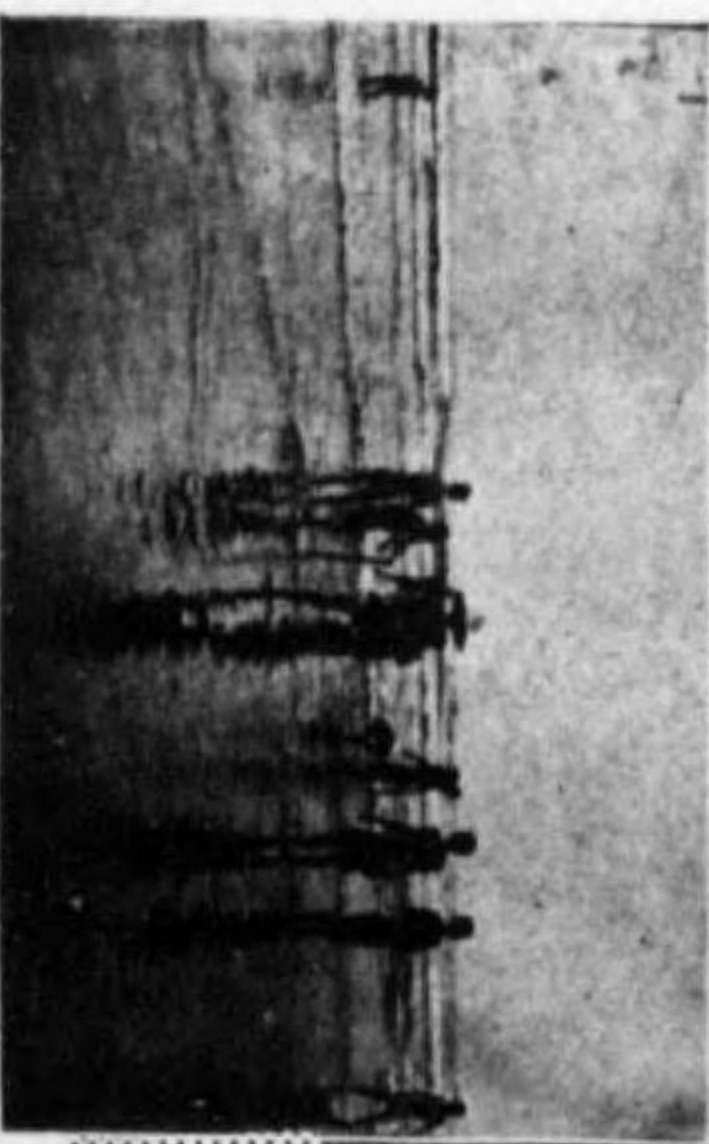
室樂娯



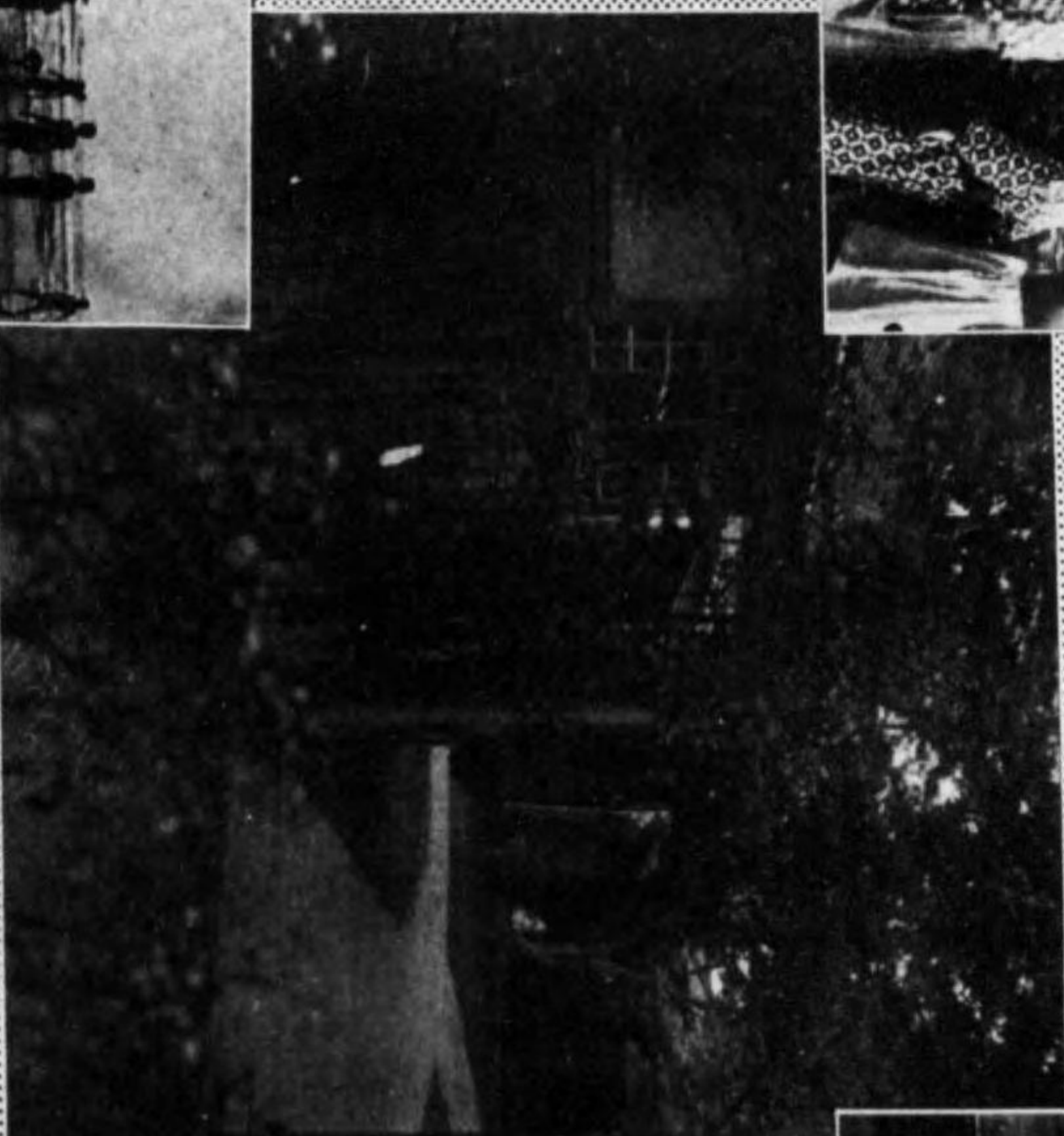
店癡癡の日記



活生海臨の濱里九十九



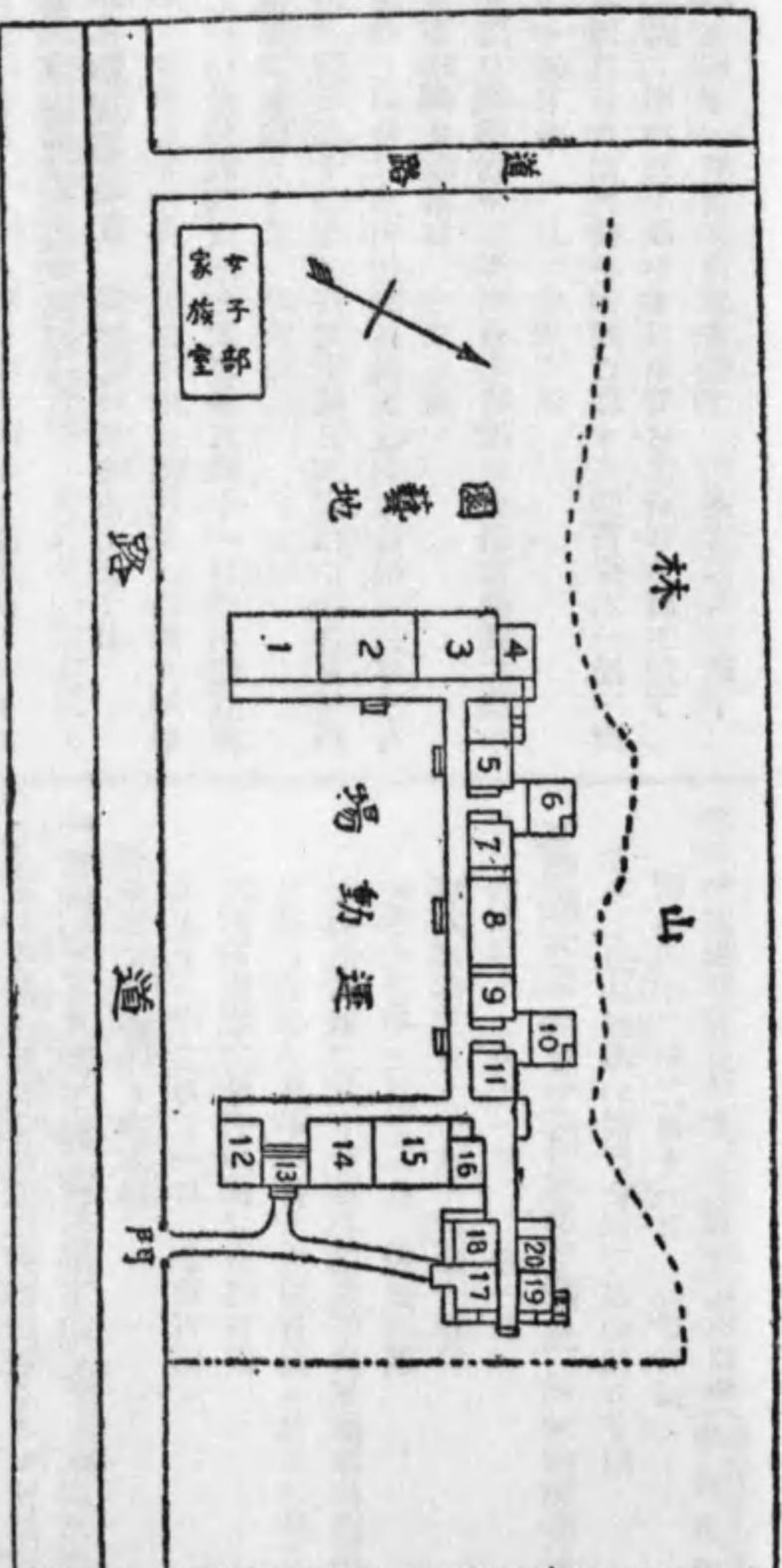
門正園學田成



狩井



私立成田學園全圖



面積千二百二十五坪	1	講堂
	2	圖書室
	3	教室
	4	生徒室
	5	生徒室
	6	教師室
	7	生徒室
	8	手工場
	9	生徒室
	10	教師室
	11	生徒室
	12	事務室
	13	昇降口
	14	食堂
	15	炊事場
	16	洗面場
	17	主任室
	18	同家族室
	19	病室
	20	新入生徒室
	21	物置
總建坪二百坪		

私立成田學園一覽

(昭和三年三月三十一日現在)

◎沿革要項

- 一 創立 明治十九年十一月二十八日千葉感化院と稱し千葉縣下各宗寺院共同事業として千葉町に創設
- 一 組織の變更 明治二十一年四月以降成田山新勝寺一手に本園を經營維持することに變更
- 一 舊千葉感化院建築竣工 明治二十四年五月三十日
- 一 園長更迭 明治二十七年五月二十七日舊院長三池照鳳師辭職前院長石川照勤師就職大正十三年一月三十一日石川院長遷化せられ現園長就職
- 一 移轉改稱 明治四十一年三月二十五日現在地に院舎を新築して之に移轉し同時に成田山感化院と改稱更に昭和三年三月二十五日成田學園と改稱
- 一 御膳本下附 明治四十三年九月七日教育勸語膳本並に戊申詔書膳本各一通下附
- 一 皇族御來園 明治四十四年十月十七日山階宮芳鷹王殿下久邇宮朝融王殿下 華頂宮博忠王殿下 久邇宮邦久王殿下

- 山階宮藤鷹王殿下本園へ御成り被遊尙同月二十二日更に山階宮妃殿下には御姫宮安子女王殿下を御伴はらせられ本園へ御成り遊され生徒一同へ御菓子料御下賜の光榮を蒙れり本園よりは生徒製作に係る竹籠の内に三里塚名産の初茸を入れたるものを献上したるに直に御嘉納遊さるゝ旨恩命に浴したり
- 一 宮内省より御下賜金及御下賜品 本園事業御獎勵の思召を以て左の通り御下賜
 - 大正十一年二月十一日 金參百圓
 - 大正十二年二月十一日 金四百圓
 - 大正十三年二月十一日 金四百圓
 - 大正十四年二月十一日 皇太子殿下海外御巡遊日誌一部
 - 大正十五年二月十一日 金壹百圓
 - 昭和二年二月十一日 金一封
 - 昭和三年二月十一日 金一封
- 一 内務大臣より下附金及下附品 本園事業上從來功績ありとし且つ獎勵の趣旨を以て左の通り下附
 - 明治四十二年二月十一日 金壹百圓
 - 大正四年二月十一日 花瓶壹對(市岡素雲作 銅製松上御模様)

◎建物

聖の一家屋を見るべし、本園即是れなり

明治四十一年三月二十五日の竣工に係り敷地建坪並に建築費用左の如し

- 一 敷地面積 一千二百二十五坪
 - 一 建坪 二百坪
 - 一 建築費 一萬八千九百九十九圓
- 但し別に女子部家族室を有するも此中に算入せず敷地建物明細圖は別頁に掲ぐ

◎職員

- | | |
|---------|---------------|
| 一 園主兼園長 | 成田山新勝寺住職 荒木照定 |
| 一 主任兼教諭 | 正八位大友惟誠 |
| 一 會計主任 | 淺井照次 |
| 一 學科教師 | 寺西茂樹 |
| 一 實科教師 | 目下欠員 |
| 一 教師兼保母 | 大友静 |
| 一 保母見習 | 波川あき |
| 一 篤志園醫 | 關川博道 |

◎位置

千葉縣印旛郡成田町成田四百二番地の一(電話成田百三番)にして成田山境内に在り前面成田町幸町より新勝寺へ往復する道路に沿ひ成田停車場よりは約九町成田山不動尊よりは山上奥の院大日如來の伽藍を右に見左方へ約一丁にして來るを得東隣出世稻荷への參詣者は左方に古木鬱蒼幽靜の間に白

一篤志齒科園醫 久保田章
一篤志整骨園醫 小倉桂
職員中園内常住のもの左の如し

一主任兼教諭 大友惟誠
一學科教師 寺西茂樹
一教師兼保母 大友靜
一保母見習 波川あき

職員一同は園長の指導監督を受くるは勿論能く園長の精神と感化院職員たるの自覺とにより職務に従ふの外現在としては別に職員に對する成文の制令なし唯協同一致して圓滿に且つ規律ある家庭を作るを目的とし而かも此範圍に於て自由に活動を許し安りに牽制を加へざる組織なり

凡そ斯種事業に於て最も困難を感じる所のものは職員其人を得るにあり就中醫的方面に於ては何れも苦心しつゝあるの實情なるに當園は殆んど各科とも而かも篤志を以てせらるゝ高德の士を有す何たる幸福ぞや

關川博道氏は本園の當地に移轉以來引續き其職に在り其經營にかゝる如春堂病院醫員を擧げて常に園生の保健に留意せられ殊に疾病治療に際しては熱心親切に之に當らる更に久保田齒科醫院長久保田章氏は口腔科を小倉整骨醫院小倉氏兄弟は整骨外科を擔任し下さる事となれりされば入園し來る兒童は精神狀態

薄弱なると共に身体亦強健ならざるもの多きにも係らず日を經るに從て健康状態良好となり稀に疾病負傷あるも後害を遺せし者なきは本園の最も欣幸とし最も誇りとする所にして前記諸士の高情に深く謝意を表し居る所以なり

◎昭和二年度主要事項

一、園生入退園の状況
前年度繰越園生 十六名 本年度入園生 十名
退園生 九名 現在生 十七名

稱號	府縣名	家庭ノ職業	生育	性	行	退園年月日	事由	退園後ノ成績	現在職業
用行東	京	夜店商	叔父母	虛	揚	昭和二年五月二日	善	由	園
爲有東	京	大工	實父母	盜	盜	昭和二年五月二日	善	由	園
篤親千	葉	日履	實父母	盜	盜	昭和二年五月二日	善	由	園
仁任千	葉	農	實父母	盜	盜	昭和二年五月二日	善	由	園
直感東	京	土木	實父母	盜	盜	昭和二年五月二日	善	由	園
致孝東	京	無職(家)	實父母	盜	盜	昭和二年五月二日	善	由	園
文行東	京	作(家)	實父母	盜	盜	昭和二年五月二日	善	由	園
立禮東	京	大工	實父母	盜	盜	昭和二年五月二日	善	由	園
守道東	京	吳服商	實父母	盜	盜	昭和二年五月二日	善	由	園

昭和二年度ニ於ケル退園生 九名

内

現在良成績ノ者 七名

成績不良ニテ復園シタル者二名

一、現在生狀況一覽

略稱	府縣名	生育	家庭ノ職業	生育	入園時	入園時	現在ノ	現在ノ	主原因
愛媛	實父母	植木職	下	十六歲	五十九歲	三	年	都會	不良ノ原因
東	實父母	植木職	上	十二歲	五十四歲	一	年	都會	不良ノ原因
滿洲	實父母	會社員	中	十五歲	一十六歲	二	年	都會	不良ノ原因
東	實父母	會社員	中	十三歲	一十四歲	二	年	都會	不良ノ原因
上海	實父母	會社員	中	十五歲	一十六歲	二	年	都會	不良ノ原因
東	實父母	會社員	中	十五歲	一十六歲	二	年	都會	不良ノ原因
東	實父母	會社員	中	十五歲	一十六歲	二	年	都會	不良ノ原因
島	實父母	勤メ人	中	十五歲	一十六歲	三	年	都會	不良ノ原因
東	實父母	印刷職	下	八歲	三十一歲	六	年	都會	不良ノ原因
佐賀	實父母	會社員	中	十一歲	五十三歲	六	年	都會	不良ノ原因
東	實父母	製糖職	下	十四歲	二十六歲	四	年	都會	不良ノ原因
東	實父母	大工	下	十七歲	五十七歲	五	年	都會	不良ノ原因
東	實父母	料理屋	中	十三歲	四十四歲	一	年	都會	不良ノ原因
長	實父母	植木職	下	十一歲	四十二歲	五	年	都會	不良ノ原因
東	實父母	植木職	下	十一歲	四十二歲	五	年	都會	不良ノ原因

一、健康状態 本年度に於ける園生の健康状態は左記疾病表の示すが如く決して良好といふを得ざるも幸に篤志園醫諸士の熱心なる治療により何れも全癒し其後良好に進みつゝあり尙先般身体検査用具の寄贈を受けて以來毎月二回(十日廿五日)簡單なる身体検査をなし其結果を表示して園生の自發的健康増進を計り居れり

稱號	病名	治療日	絶四	皮膚病	自	至
遠邨	胃病	自四月八日	有知	皮膚病	自五月十二日	至五月廿九日
成樂	耳疾	自四月十三日	循誘	結膜炎	自五月十七日	至五月廿九日
爲有	マリス	自三月十七日	立禮	耳疾	自六月十七日	至六月廿九日
以能	骨折	自四月十五日	威恭	皮膚病	自六月十八日	至六月廿九日
用行	寒胃	自四月廿八日	立禮	皮膚病	自六月廿九日	至七月廿九日

稱號	病名	治療日	絶四齒痛	自一月廿四日
循誘	喘息	自十月七日	文禮	數一回
卓爾	助神經痛	自十一月廿三日	循誘	
絶四齒痛	齒痛	自一月廿四日	改貴	自一月廿六日
威恭	眼病	自十二月廿三日	寒胃	自一月廿七日
文行	寒胃	自十二月廿三日	立禮	自二月廿二日
成樂	齒痛	自一月廿四日	成樂	自二月廿二日
			耳疾	自三月十二日
			以上	自三月十七日

一、御下賜金及獎勵金等拜受

- 一、宮内省より御下賜金貳百圓
- 一、内務省より獎勵金壹百圓

一、本縣知事より獎勵金壹百五十圓

右之外篤志家各位より本年度寄附金合計八拾圓貳拾貳錢(復興債券五圓券貳枚も含む)並に身體検査用具一式の寄附あり

一、臨海生活 本夏も亦例年の如く山武郡緑海村木戸濱海厳寺小林祐然師一家の御厚意により七月二十三日より八月十四日まで同所に臨海生活をなし得て頗る有益なりき而して本年は謝恩労働によりて贈られたる金圓に園長よりの補助を仰ぎ三球式ラヂオを設置せり

一、移轉二十週年記念式舉行 三月廿五日は本園の當地に移轉

せるの日なるを以て當日は毎年記念式を舉行し園長成田山主より夫々園生に賞品の授與あり式後は種々なる御馳走餘興等ありて園生の最も楽しみとするの日なるが本年は恰も移轉滿二十年に相當するを以て特に盛大に之を行ひたり左記は當日來賓に示したる刷物の一部移轉以來滿二十年間在園生概況なり

在園者總數百七名 現在生十七名 退園生九十名 改善者八十三名(内最早大丈夫と思ふ者七十名 心配中の者八名 死亡者五名) 不成績者七名(内全く失敗したる者三名 失敗後成績よく獨立生計の者二名 見込甚だ少き者二名) 以上

◎園内生活

本園の生活は普通一般に於ける温き家庭生活と毫も異なる所なし尤も普通教育と異り或る一定の時間を限り教育するにあらずして普通教育の時間以外家庭教育として兒童一般の躰をなすと共に信仰の觀念を生ぜしむるを以て實に本園生活の精神と爲すが故に此根本の精神に基き總ての施設及全體の方法を實現し居れり其生徒待遇の方法に至りては慈悲仁愛の情を以て之に對するは勿論一面には亦整然たる規律生活をなさしめ亂雜放肆に流れざる様最も注意せり然れ共本園家庭内の大小悉く豫て定めたる成文によつて行動せしめ監督すると云ふが如き方法にあらず

常に便宜を主とし温き家風自然の慣例等により之を訓練し力めて愉快なる生活をなさしむるを以て主眼とせり約言すれば本園の生活は信仰ある規律正しき家庭生活といふを得べし

日課及其説明を舉ぐれば左の如し

午前五時 起床二十分間の自彊術を終りて直に掃除

午前七時 朝拜式

- 一、皇室の萬歳を奉祝す
- 二、大廟遙拜
- 三、成田山不動尊禮拜
- 四、各自先祖敬拜

午前八時 朝食

自午前九時至正午 學科

正午 晝食

自午後一時至四時 實科

午後五時 夕食

自午後六時至同七時三十分 自習

自午後七時三十分至同八時 自彊術

午後八時 就寢

以上の如く定むると雖も時季により時々變更するは勿論便宜上臨時變更することあり

起床

朝起は新勝寺の曉鐘に警醒せられ蹶起せざるを得ざる習慣を作れり但本園のみならず成田町一般に此良習を存するが如し

自彊術

自彊術なる一種の體操は健康増進上甚良好なるを聞き職員先之が實地研究を試むる事數月然後大正九年十二月一日より從來の徒手體操に更へ朝夕二回之を行ふ事として今日に及べり確に効果を認む

清潔 清潔は本園の最も努むる所也毎朝掃除の外日に數回之をなし時々大掃除及各室の清潔整頓を檢査す

冷水摩擦 冷水摩擦は毎朝洗面の時職員生徒一緒に之を行ふ水浴は自由に任せ置けり

衣類 普通の衣類を用ゆ會ては制服ありしも今は之を定めず但毎朝禮拜の時及授業の際は袴を着用せしむ

朝拜式 毎朝講堂に於て之を行ひ兒童に敬虔の心を養成せんが爲め職員先特に敬虔的態度を持し最も嚴肅を旨とし之を行ふ

本園修身教育の大本として教育勅語戊申詔書並に國民精神作興に關する詔書の聖旨を奉戴する事勿論にして之が實踐躬行の實を擧ぐるは宜しく信仰の力に依りて之を喚起せざる可らざるを信ず本園の特色として成田山不動尊を信仰せしむる所以即是なり

訓話

一般に對する訓話は毎朝先祖敬拜の際及就寢前不動尊禮拜の時之をなせ共平易簡單にし之が爲め多くの時間を費さず何となれば職員は生徒と起臥を同うし行住座臥の間之が師た

り父兄たるの心を持し實踐躬行所謂行を以て訓ふるを旨とすればなりされど個人に對しては機會を捕へ之に投じて其兒童に適切に徹底的に訓話をなす

食事 常に兒童の營養状態に留意し滋養に富める物を選び居るを以て中流家庭に劣る事なし而して職員生徒皆一堂に集りて食を共にす單に食事のみならず本院の生活は總てに於て「共に」といふ事に最も留意し學ぶも働くも遊ぶも常に職員生徒其行動を共にし美しき圓滿なる家庭を作る事に努力し居れり

學科 概ね小學校令に據る教科目により午前中三時間乃至四時間(但雨天又は冬期は午後に及ぶ事あり)の授業をなす但特に重きを讀方書方綴方算術珠算等の實用學科に置き尋常科を卒業せし後猶ほ向上の見込ある兒童にして且品行最早差支なしと認めらるゝ時は中學へ通學せしむる事あり然らざる者には園内に於て高等科及補習科教育を授く又特に進歩の見込あるものには午前の學科とは別に夜間特殊の學科を授く例へば其兒童の將來に於ける職業を見込み論語英語實業講習録等を教ゆる是なり

實科 農業を主とし外に簡易なる手工を課す但冬期は手工のみなり耕地は目下三段歩を有し追々擴張の見込なり園内に於ける實科に對しては生産的職業的技能を與へ實會社に出で直に夫に依て自活し得るものを選ばざる可らずと論ずる者あり本園

覽に供す

一、自由園藝 一定の土地花壇を貸與し蔬菜草花の栽培、箱庭作り等自由に園藝の樂を味はしむ

一、散歩、遠足及旅行 毎月一日十五日二十八日及日曜日の午後不動尊に參拜をなさしめ同時に散歩せしむ又附近神社佛閣の參拜水泳船遊魚釣蕨狩茸狩栗拾或は單なる山遊び等にて數々山野を跋渉し郊外に遠足し娛樂に兼て體力の養成をはかり或は臨時に汽車電車等によりて遠方への修學旅行をなす

一、三大節及本園記念日 當日は祝賀式後種々なる餘興(琵琶浪花節福引の外各生自身の餘興)をなして一日を祝はしむるを以て兒童は頗る樂となし居れり

一、角力 園内に土俵を設け夏期は殊に盛にとらしむ尙毎年九月に於て成田素人大角力あり生徒も出場せしむるを習とす

一、誕生祝 園長を始め職員生徒の誕生日には其夜職員生徒一堂に團樂し茶話會を行ふ特に生徒の誕生日には該兒童に一日の休暇を與へ早朝先不動尊に參詣其立身出世を祈らしめ本園よりは祝意を表して本人の好める文具品を贈り又特に御馳走を供す

一、五月節句 講堂に幟を飾り柏餅にて茶話會を開く

一、降誕會及義士祭 毎年四月八日十二月十四日に於て祭祀を行いたる後園生の相談になる趣向によりて餘興をなす

固より考量したる事なるも三四の業務を設備したりとて到底全生徒の個性嗜好に悉く適合せしむる事至難にして強て職業を狭き範圍に押込む嫌あり殊に感化院に適する授業師たる人物を得る事困難にして施設繁多なる割合に好果を收められざる遺憾あり依て本院は教育終局の目的を主眼とし身体の鍛鍊精神の訓練特に勤勞性の養成を目的とし單に農業手工の二課を設くるのみ

尤も年齢其の他の關係よりして在園中職業を與ふるの必要ある者に對しては當町内の家を撰み之に委託して本園より通勤其職業を見習はしむることあり

娛樂 兒童の性情を圓滿に發達せしめ愉快の中に教化の目的を遂げんとし娛樂には相當の意を用ふ

一、庭球フットボール及少年野球 娛樂に供する外體力の養成にも資せんと之等を設けたるに一同は喜びて之を遊び晴天の日は殆んど其遊び時間を之に費し居れり

一、圓球盤 ビンポン、カラム雨天の日には之にて遊ぶ

一、蓄音機 ラヂオ 祝祭日及日曜日の夜間又は談話會其他の會の際に之をなさしむラヂオはその子供の時間を生徒の時間となしをれり

一、生徒圖書室 此所に有益なるお伽噺雜誌(目下希望、のぞみ、泉の花、赤い鳥及びひかり)寫眞、繪畫等を置き兒童の閱

一、鸚鵡、鶏、山羊を飼育す

右の外生徒自が時節により流行によりてなす遊戯例へば輪廻し獨樂歌留多双六陣取鬼事將棊五目(其他種々)等は大抵自由に任かし徒に拘束を加へざるのみならず多くの場合職員之に加はるを常とす

賞罰 總て普通の家庭生活と状態を同うせしむる希望なるが故に賞罰の如きも固より格別の定なし毎年三月二十五日は本園の記念日にして當日は多くの賞與を與ふるを例とするも平日は格別なる善行ある場合の外賞與を實行せず

生徒の席順は一日より月末に至る一ヶ月各生徒の操行成績を調査し右の結果により(日々の成績表に依るの外更に職員の見及各生の投票を附加す)翌月一日席順を改むるの例なり

雜件 一、祭日 生徒中若し父母死したる者ある時は勿論其他最も近き先祖の命日に於て特に祭壇を設け香花供物を献

じ一日の休暇を與へ祖先に敬拜の意を表せしめ終日謹慎せしむ

一、稱號 生徒在園中は特殊の稱號を用ひ本名は嚴に之を秘して呼ばしめず例へば志道サン爲徳さん好學サンと名稱するが如し生徒よりして園長は御前様主任は先生主任妻女は奥サン他の職員は誰だれ先生と其姓を頭に於て先生と呼べり生徒に稱號を用ふるは其依頼者に於て自己の住所氏名及其子供の氏名とは公然世上に發表せらるゝを好まざるの希望あるを知ると共に本

一、備考

入園の手續は前記の如く何等面倒なく極めて簡單なり又前記の書類と雖も依頼人の希望によりては本園に於て代書するも差支なし
 入園の際は書籍 文具 衣類 夜具等新調に及ばず現に所有するものを持参の事
 保證人は戸主にして身元確實なるものを撰定せられたし而して可成親戚中より撰ぶ方よし
 新に入園生ある時は先づ入園前の非行に對し懇篤訓戒を加へたる後本園生活の要項を知らしめ最早不動明王の恵により全く生れ更りたる人となり能く今日一日の務を守り善良に進むべきを諭し講堂に於て命名式を行ひ本園生活の人とならしむ

◎退園

生徒の改良を認め退園を許す迄には種々の階段を附せり第一不動尊を信仰する態度第二園外に使に出し時々金錢を携帯せしめ毫も不都合なきとき及日常の操行右半年以上乃至一年間同様に持續するときは以て改良生と認め退園せしむ若し不良の原因其の家庭にあるときは可成直に家庭に歸さざるを以て適當とし父母の同意を得て本園より直に本人の性行に適應する職業見習の家へ紹介し就業せしむることになし居れり此場合に於ても其家庭及周圍に十分の注意を拂ひ撰擇をなすは勿論なり

本園の最も心勞するは實に此の退園後の成績効果なり何となれば入園中如何に改善の成績を占め得たりと確信する生徒ありとするも退園後の境遇若しくは動機により動もすれば逆戻りをなし其効果を破壊せらるゝ恐あればなり故に本園に於ては退園後の成績効果に對し周到なる注意をなすと共に油斷なく左記の保護視察をなせり
 第一本園職員の視察 第二本園と書面の往復
 就中書面の往復は本園の勉めて勵行する所にして事體甚だ平凡なるも最も有力なる効果あり尙事情の許す限り退園者とは親戚様の關係を持續し行く事に努力し居れり

◎教育成績

明治十九年本園創業以來昭和三年三月末に至る入園生百七十八人

改善退園 百二十五人 事故退園 二十五人
 逃走 二人 不詳 四人
 不成績 五人 現在生 十七人
 備考 事故退園とある大部分は明治三十二年本園前園長洋行不在中當時坪井前主任病死の爲め一時生徒を假退園せしめたる事あり此退園生徒を指したるものなり

自明治三十四年一二十七年間生徒狀況一覽
 至昭和三年

(昭和三年三月末日調)

一、成績

改善者	一〇〇	不成績	五
不詳	五	現在生	一七
逃走	二	計	一二九

二、入園時教育程度と年齢

年齢	九歲	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	計
程度	1	4	1	3	2	1	1	1	18
不學	1	4	1	3	2	1	1	1	18
尋一		2	2	3	3	2	1		9
尋二		2	1	3	3	2			14
尋三		2	2	3	3	1			14
尋四		1	2	3	4	1			14
尋五			2	4	3	1			14
尋六				4	3	1			14
尋一				1	3	3	2	7	18
高				3	3	2	2	7	18
一				3	3	2	2	7	18
計				12	13	18	21	14	14

三、入園時保護者と年齢

以上	計
9	9
11	11
7	7
14	14
23	23
20	20
16	16
29	29
10	10
129	129

四、保護者の職業

年齢	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	計
保護者	1	1	2	5	10	7	8	12	46
實父母	1	1	2	3	10	7	8	12	46
實母	1	1	2	3	10	7	8	12	46
實父	1	1	2	3	10	7	8	12	46
繼父母									
實母									
實父									
養父母									
祖母									
其他									
家族									
保護者									
計	9	11	7	15	21	20	18	28	129

五、改善退園者現況

農業者	二
古物商人	一
官職吏人	一
會社職員	一
飲食業者	一
飲馬車夫	一
計	二二二二二
被服業	七
山守	一
妻相	一
下宿	一
產下	一
教養	一
漁夫	一
計	一一一一一
無職業者	三
金貸業	二
植木業者	一
醫者	一
不詳	一
計	一一一一一
計	一一九

六、改善退園者入院時の年齢と在院期間

年齢	期間	人数
九歳	1	1
十歳	3	3
十一歳	2	2
十二歳	3	3
十三歳	5	5
十四歳	2	2
十五歳	3	3
十六歳	7	7
計	26	26

農業者	二〇
商業	七
會社職員	八
大工	四
豆屋	四
中製	三
印刷	二
電氣	二
家庭に在る者	一
計	一〇二
市電従業員	一
船屋	一
提燈	一
活字	一
海軍	一
製菓	一
機械	一
塗物	一
給仕	一
靴屋	一
計	一〇
植木	一
左官	一
織工	一
析屋	一
電氣	一
履屋	一
硝子	一
洋金	一
不死	一
計	一〇
ヤ	一
官	一
工	一
屋	一
職	一
職	一
屋	一
計	一〇

◎經費

計	五年以上	五年未満	四年未満	三年未満	二年未満
5	1	1	1	2	
9			1	3	2
8		3	2	1	1
11	3	2	3		
17		1	1	5	6
14			1	5	8
14			2	1	8
15			1	2	7
100	4	7	12	19	32

本園には厳密なる豫算なしと云ふ事實に近し固より大體の豫算を定め置き右を標準として支出をなし厳に濫費を防ぐ事は勿論なりと雖も實際に必要に重きを置き必要なる以上は實費を使用するに躊躇せず況んや錢厘に拘泥するが如きをや從て亦豫算内なりとて必要な費途を無理に消費するが如きことなきは無論なり毎月定日本園經費の金額を新勝寺會計主幹より領收し之を支出するの慣例なるが會計上園長及主幹より未曾て一言の注意質問を受けたることなし全く深き信頼を與へて濫りに細小の監督を加ふるが如きはあらざるなり此結果は自然局に當る者に對し自制心を與へ求めずして總ての節約行はれ其効果は慥に豫算を限定する以上において更に頗る便利を極め居れり左に記載

合計七萬壹千九百八十七圓八十八錢

◎本園基本金の蓄積

するは本園移轉後の決算なり

明治四十一年度	金千六百十圓九十錢
明治四十二年度	金千九百五十九圓四十八錢
明治四十三年度	金二千八百八十五圓四錢
明治四十四年度	金二千三百二十一圓八錢
大正元年度	金二千六百七十五圓六十七錢
大正二年度	金二千三百四十五圓六十三錢
大正三年度	金二千三百二十二圓七十四錢
大正四年度	金二千八百三十一圓五十七錢
大正五年度	金二千七百八十六圓五十九錢
大正六年度	金三千〇二十五圓八十八錢
大正七年度	金二千六百〇八圓三十四錢
大正八年度	金三千六百四十四圓三十七錢
大正九年度	金四千三百九十九圓十三錢
大正十年度	金三千九百三十九圓一錢
大正十一年度	金四千六百八十七圓八十七錢
大正十二年度	金四千七百二十一圓四十八錢
大正十三年度	金五千五百四十七圓二十七錢
大正十四年度	金六千九百二圓三十八錢
昭和元年度	金五千九百九十一圓二十錢
昭和二年度	金五千五百〇五圓二十五錢

◎感謝錄

本年度に於て各篤志家より本園に寄附せられたるもの左の如く
茲に記して衷心感謝の意を表す(但し各団体より寄贈せらるゝ
雑誌等は之を略せり)

- 一金 參圓也
 - 一金 拾圓也
 - 一金 拾圓也
 - 一金 五圓也
 - 一金 拾圓也
 - 一金 貳拾圓也
 - 一金 參圓也
 - 復興債券(五圓券)貳枚
 - 身體検査用具一式
 - 一金貳圓(生徒菓子料)
 - 御菓子澤山數回
 - 御菓子澤山
 - 水菓子澤山
 - 御菓子澤山
 - 御菓子澤山
 - 理髮(毎月一回以上)
-
- 平野やす子殿(成田)
 - 川名部 好之助殿(成田)
 - 高野千代松殿(成田)
 - 大堀 顯也殿(成田)
 - 石原 岩 治殿(成田)
 - 久保田 潔殿(成田)
 - 齋藤しん子殿(成田)
 - 大島勸之助殿(成田)
 - 少年保護協會
 - 東京支部 殿(東京)
 - 石井りう子殿(成田)
 - 若松 分 店殿(成田)
 - 石川 甚兵衛殿(成田)
 - 關川 博 道殿(成田)
 - 久保田 潔殿(成田)
 - 藤本三 郎殿(成田)
 - 平澤 免殿(成田)
 - 以上

成田圖書館一覽

沿革略	八九
本館主事の更迭	九〇
建築	九一
經費	九二
職員	九二
藏書	九二
閱覽人員及貸付圖書	九三
圖書帶出一覽	九三
閱覽狀況一覽表	九四
規則	九五
館外帶出規則	九六
圖書寄贈者芳名	九七
雜誌新聞寄贈者芳名	九八

◎感謝錄

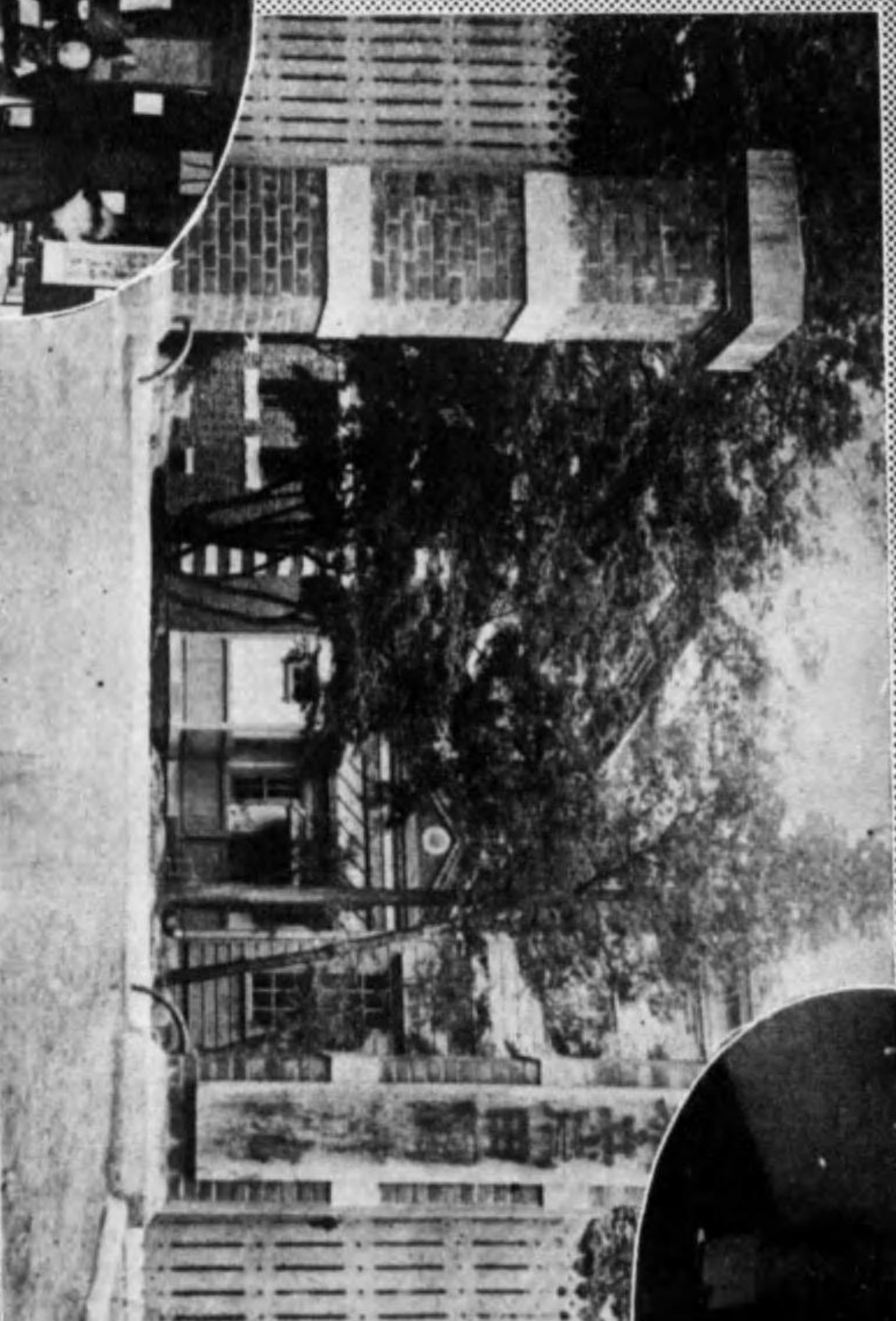
本年度に於て各篤志家より本園に寄附せられたるもの左の如く
茲に記して衷心感謝の意を表す(但し各団体より寄贈せらるゝ
雑誌等は之を略せり)

- | | |
|--------------|--------------|
| 一金 參圓也 | 平野やす子殿(成田) |
| 一金 拾圓也 | 川名部 好之助殿(成田) |
| 一金 拾圓也 | 高野千代松殿(成田) |
| 一金 五圓也 | 大堀 顯也殿(成田) |
| 一金 拾圓也 | 石原 岩 治殿(成田) |
| 一金 貳拾圓也 | 久保田 潔殿(成田) |
| 一金 參圓也 | 齋藤しん子殿(成田) |
| 一復興債券(五圓券)貳枚 | 大島勸之助殿(成田) |
| 一身體検査用具一式 | 少年保護協會 |
| 一金貳圓(生徒菓子料) | 東京支 部殿(東京) |
| 一御菓子澤山數回 | 石井りょう子殿(成田) |
| 一御菓子澤山 | 若松 分 店殿(成田) |
| 一水菓子澤山 | 石川甚兵衛殿(成田) |
| 一御菓子澤山 | 關川 博 道殿(成田) |
| 一御菓子澤山 | 久保田 潔殿(成田) |
| 一理髮(毎月一回以上) | 藤本 三 郎殿(成田) |
| | 平 澤 晃殿(成田) |
| | 以 上 |

成田圖書館一覽

沿革略	八九
本館主事の更迭	九〇
建築	九一
經費	九一
職員	九二
蔵書	九二
閲覧人員及貸付圖書	九三
圖書帶出一覽	九三
閲覧狀況一覽表	九四
規則	九五
館外帶出規則	九六
圖書寄贈者芳名	九七
雜誌新聞寄贈者芳名	九八

會覽展畫洋氏田富



館書圖田成



場々會覽展料史土郷

私立成田圖書館一覽

◎沿革略

創立 明治三十四年一月十一日

開館 同 三十五年二月一日

本館は所謂成田山五事業の一で、先代石川山主の最も興味を有せられ、又現荒木山主は曾て親しく本館の事務に執掌せられたことあり、洵に因縁深き事業である。創立以來二十八年の歴史と、藏書十萬餘冊を有する點に於ては、稍や誇るに足るものあれども、何分建築物の舊式不便且つ狹隘なると、所在地の關係等にて利用者の尠なきとを遺憾とする。就中書庫は最早尺寸の空架なく本館も近く、改築の必要に逼られて居る。

創立の際は高津親義を主任として、不取敢新勝寺所藏の佛書和漢書、雜書、約七千餘冊と、石川山主所藏の新刊書、約七千餘冊、合計壹萬五千冊を移して開館した。

由來成田の地は、不動明王の靈場として、往古より賽客輻輳肩摩轂擊、所謂熱鬧の境で、讀書靜思の適處にあらざる如くなれども、萬葉學の權威者たりし木村正辭博士と、和漢兼通の篤學者寺内章明翁とは、共に最近成田町の産める學者であり。又隣村飯岡「久住村」には、歌人として當時京師に門戸を張りた

る香川景樹翁と、東西の兩大家と稱せられた神山魚貫翁あり其他附近に並木栗水先生あり、清宮秀堅翁あり、更に佐倉、佐原方面に至りては、屈指に違なき程の學者が居る。

我成田圖書館は、下總平野に於ける將來の學界に、如何なる刺激を與へ、如何なる効果を齎すかは、之を他日に卜する外はない。が、少くも二十八年の努力が、地方文化に及ぼせし影響は、決して尠少のものではあるまいと信ずる。

本年報の冠頭に、荒木山主僧正の新更會組織の宣言は、洵に機宜に應じたる喫緊事業で、苟も現時の社會相に留意せらるゝ青年志士は、翕然として共鳴賛同せらるゝであらう。而して斯の如き事業は、少くも圖書館は之に響應して、相當の努力と便宜を呈供すべきである。否寧ろ此運動の側面的勢力となりて其目的達成に奮進すべき當然の義務を有すると思ふ。果して然らば本館の任務は更に加重せらるゝと同時に、其國家社會に及ぼす効果も、夫れ丈擴大せらるゝ譯だ。蓋し圖書館の教育事業なることは勿論であるが、他の學校教育とは其趣を異にし、社會の所有界級を對象とするものなれば、そこに別種の立場があり、又別様の責任がある。唯讀書子の來館を待ち、請求圖書を貸出すと云ふ丈ならば、普通事務的勞働にて事足り、必ずしも

面倒はない。然も圖書館本來の目的は、館自身がその地方の標目となり、高尚なる讀書趣味を養成し、由りて以て人心を緩和し、所謂淨化運動の先驅者でなければならぬ。

◎本館主事の更迭

創立以來本館主事として、滿二十六年勤續せる高津親義は、七十歳の老齡に達せるを以て、豫て退職請願中なりしが、昨年末日を以て館主の承認を得、更に本館顧問として、其老後を靜養することとなつた。後任撰定に就ては、館主に於て將來の發展上、相當考慮を要する問題なりしが、成田中學校長小林力彌氏が、都合に依りて突然辭任することとなり、本館も亦久しく缺員のまゝなるを許さず、不取敢五月十四日を以て、小林氏が後任主事として就職せられた。

本館は是れまでは餘り積極的に活動せず、一見甚だ消極的姑息主義の如くであつたが、本館の眞面目は決してそれで満足するものでない。只堅實に一步づゝ踏み固むる、即ち根幹培養主義を執りたるにて、今後は大に實際活動に移るべき時期に達した。隨て前主事の如き老齡の舊人にては、其在職が一日を緩うすれば、一日丈本館の活動を阻止し、併せて社會もそれ丈便宜を缺き、設立者の本旨にも違ふ譯である。依て創立以來滿二十六年の勤續者であれども、本人自身もその意味を以て切に退職

今や本館も新たな主事を迎ひて、二十餘年の固定的惰性を破り、新血液を注入して、新活動の時機に到達したることを、茲に報告し得るを慶ぶ。(三柿園生)

◎建物及敷地

本館	木造	延百十五坪餘
書庫	煉瓦造	延九十坪
附屬建物	木造、煉瓦造	延百十四坪餘
敷地		千二十八坪

本館境地は、不動明王御本堂の東隣、石礎を下りたる廣場にして、西北は所謂奥山公園の丘陵に圍まれ、東は高等女學校に隣し、南方市街に莅み、成田町に於ける最好適地たるを誇りとする。之れに反し本館の建造物は、素と圖書館として設計したるものでなく、廢物利用が既に二十六年に及びたるにて、頗る不便なるを免れず。

書庫は建築當時に在りては、相當注意を拂ひたるものなれども、進歩せる今日より觀れば、多少の不便もあり、不經濟もある。然も其書庫は、既に十萬餘冊を收容せるを以て、滿喫飽喫庫腹將に綻びんとするの状態である。故に第二書庫の建造は、急務中の急務に迫り。况や日々間斷なく流入せらるゝ、購入寄贈の書冊は、其處置に困却して居る。

を希望し、館主に於ても之を諒として其の情願を許容せられた。前述の次第であるから、前主事も責任は解除せられたが、人物の能不能は別問題として、半生を捧げた本館とは、情に於て到底離るゝことは不能ぬ。依て館主に於かれても其衷情を憫み更めて顧問として關係を維ぐべく特典を與えられた。

今後は別問題として、扱て從來の圖書館従事者は、社會的にも、物質的にも餘り恵まれては居らぬ。而して總ての學問に就て、相當の理解と知識とを要し。且つ勤務時間の如きは、普通學校教師と比較して、約二倍以上なることは、世人の多くは氣附かぬことである。唯今日の處では資格問題が餘り面倒でないから、何人でも間に合ふ位に考ふるものが多いが、夫れは大なる謬見で、嚴密なる意味から云へば、殘念ながら我國現在の學者では、大圖書館々長の資格を完全に具有せるものは、恐くは一人もないと云ふことを言明して憚らぬ。夫れは何故かと云へば、圖書館は全世界の縮圖で、開闢以來人生に反影せられたる全智識、夫れが文献に現はれたるを、網羅蒐集して其系統を訂し、或は類別し、或は歴史的考査を爲し、以て學者の研究資料に供し、以て總ての界級の人々に、智識と道徳と、利益と趣味とを與えんと欲するものである。然も夫れが急速力を以て日進月歩しつゝあるから、圖書館員たるも亦難いかなと云はねばならぬ。

館員住宅を構内に設けたるは、他館に類例少き所であるが、圖書館の如き夜間勤務ありて、殊に住宅不便の地方に在りては、痛切に其必要を認めたるに依れり。

◎經費

○昭和二年度決算額	
(一) 職員給、雜給	六、一六一、八五
(二) 需用費其他	一、五四八、一〇
(三) 圖書費(新聞、雜誌、製本費等)	四、四八三、五二
(四) 營繕費	一、二六五、三一
計	一三、四五八、七八
○昭和三年度豫算額	
(一) 職員給、雜給	七、〇七四、〇〇
(二) 需用費其他	二、〇三〇、〇〇
(三) 圖書費	四、五〇〇、〇〇
(四) 營修費	二、三五〇、〇〇
(五) 豫備費	一、〇〇〇、〇〇
計	一六、九五四、〇〇

本館經費も逐年累進、閉館當時を回顧すれば、約十倍に近きものとなれり。蓋し何れの圖書館に於ても、亦他の教育事業に於ても、免れ能はぬ趨勢なるべし。本館は元來豫算なかりしが、

數年前より一定の標準を立て、事業を進むることゝなれり。
輒近圖書館界の脅威は、書價割引の全廢と、酷似叢書の洪水
である。敢て賢明なる當事業者の一考を煩す。

◎職員

Table listing staff members and their positions: 館主兼館長 荒木照定, 顧問 高津親義, 主事 小林彌生, 司書 成田善亮, 司書 高田吉亮, 司書 小川益藏, 事務員 石橋廣藏, 助手 海瀨健示, 同手 武田文哉, 同手 大木登

一覽首頭に報道せるが如く、創立以來長く各位の御親交を辱
ふせる、主事高津親義は、老齡の故を以て退職し、尙顧問とし
て本館との關係を持続することゝなり。成田中學校長たりし小
林力彌其後を襲ひ、主事として館務を擔當することゝなれる
外、他に何等異動なし。但し事務員海瀨健示は、去四月新學期
より、圖書館員講習所へ入學し、目下折角勉強中。
小林新主事は、東洋大學出身者で、嘗て數回歐米を歴遊せら

◎閱覽人員及貸付圖書

Table showing library statistics from 1905 to 1938. Columns include Year (年), Opening Days (開館日數), Reading Personnel (閱覽人員), and Lending Books (貸付圖書). Rows are listed for each year from 明治三十八年 to 昭和二年, plus a total (合計).

◎藏書

Table showing book collection statistics: 昭和貳年度増加書 壹千五百九十六冊, 和漢書 十八冊, 洋書 壹千六百十四冊, 計 壹千六百十四冊, 昭和參年三月末日現在圖書數 九萬壹千四百九十一冊, 和漢書 四萬九百一十一冊, 洋書 九萬六千四百二冊, 合計 九萬六千四百二冊

れたる外國通。從來兎角手遅れ勝ちなりし、洋書の整理は、其
手に由りて近く整頓せらるゝであらう。
○昭貳年度増加書 壹千五百九十六冊
和漢書 十八冊
洋書 壹千六百十四冊
計 壹千六百十四冊
○昭和參年三月末日現在圖書數 九萬壹千四百九十一冊
和漢書 四萬九百一十一冊
洋書 九萬六千四百二冊
合計 九萬六千四百二冊
回顧すれば、本館創立以來二十七年を超へ、開館後既に滿二
十六年を過ぎたり。人生なれば元氣尤も旺盛なるべき壯年時代
である。然るに藏書漸やく十萬冊、諸般の設備も亦全からず、
省みて自ら寂然たらざるを得ぬ。而し乍ら無限の性命を有する
圖書館としては、二十六年は猶孩兒に齊しく。本館が一人前の
偉丈夫として圖書館界に濶歩するの期は、尙數年若しくは數十
年の後なるべし。本館圖書費の如きは頗る寛大であるが、一面
現在の求覽者の要望を滿たし、他面良書保存も亦圖書館の重大
任務なることを考慮せざるべからず。而して此兩面は一致を缺
く場合甚だ多く圖書の撰擇も亦至難である。

◎圖書帶出一覽

Table showing book circulation statistics from 1905 to 1938. Columns include Year (年), Circulation (帶出), and Return (返却). Rows are listed for each year from 明治三十八年 to 昭和二年, plus a total (合計).

昭和二年 度 閱覽狀況一覽表

植別	月別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	合計	百分
開館日數		二五	三〇	二七	二五	三〇	二七	二九	二五	二六	二四	二五	二六	三〇九	
宗 教		三六八	四三三	三七〇	四七〇	二九八	二九八	二五八	三三三	一六一	三二〇	一六九	一九	三九九	一三・二
哲學・教育		三〇三	四二二	七四四	三八七	五二六	三七八	四六七	五二六	三三三	九七八	四二六	五七五	六二五	八・六
文學・語學		二六七六	二六〇二	二八二九	三二九四	四〇九	二五〇六	二二六八	二二九二	二二七八	二五三六	一八七一	二二〇六	三三〇七	四六・一
歷史・傳記		八三三	六五三	六四七	六三三	九八〇	六四七	七三三	六七七	八〇〇	四九一	五七五	七三〇	八八八	一一・八
地誌・紀行		七二二	四一〇	三九二	三三三	三七一	三〇一	三三四	四七〇	三八二	四一六	二六〇	四元	四八二	六・七
社會・統計		四七七	三八七	四二二	三三〇	三九〇	四八八	三〇〇	三三九	四四六	三八一	三〇〇	四七二	五三三	七・六
醫學・理學		四〇一	四七六	四六〇	四六〇	六七〇	三三四	三〇〇	三三九	四四六	四七二	四九三	四七二	五八二	八・四
工業・軍事		四七六	三六二	一九八	三四	四三	三三	一九六	三八七	三三四	二二八	二五九	四九六	三九四	五・六
諸藝・叢書		四七六	三六二	一九八	三四	四三	三三	一九六	三八七	三三四	二二八	二五九	四九六	三九四	五・六
隨筆		四七六	三六二	一九八	三四	四三	三三	一九六	三八七	三三四	二二八	二五九	四九六	三九四	五・六
合計		六五四	五九六二	六〇六四	六二七五	七七八	五九二	五三三	五三七	五三六	五七九	四五四	六六七	七〇三九	一〇〇・〇
一日平均		二〇・一	一六・四	二四・五	二四・六	二五・六	二〇・四	一八・三	一八・三	一七・〇	一八・一	一四・〇	二二・六	二二・六	
閱覽人員	館内	一六一九	一五八二	一四〇一	一五七二	二〇〇九	一五五	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	一六〇九	
	館外	二〇七六	一九六七	二二二	二〇〇九	二二二八	二二二八	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	
合計		三六九五	三五四九	四〇二三	三七八一	四三三七	四三三七	四三三七	四三三七	四三三七	四三三七	四三三七	四三三七	四三三七	
一日平均		一四七・八	一四七・三	一四七・六	一四七・二	一四七・五	一四七・五	一四七・二	一四七・二	一四七・二	一四七・二	一四七・二	一四七・二	一四七・二	

◎私立成田圖書館規則

- 第一條 本館ハ主トシテ一般圖書、雜誌等ヲ蒐集シテ廣ク公衆ノ閱覽ニ供シ社會ノ智徳啓發ニ裨益スルヲ以テ目的トス
- 第二條 何人ニテモ滿十二歳以上ノ者ハ本館ニ來リテ圖書ノ借覽ヲナスコトヲ得
- 第三條 本館ハ左ノ時限ヲ以テ開閉ス
開館時限 閉館時限
- 第四條 本館ノ定期休日ハ左ノ如シ但臨時休館ハ其時々揭示ス
歳首 自一月一日 館内掃除 毎月末日
至同 七日
紀念日 二月十一日 天長節 四月廿九日
六月九日 明治節 十一月三日
九月十日 中 歲末 自十二月廿八日
至同 三十一日
凡十日内外 歲末 自十二月廿八日
至同 三十一日
- 第五條 本館圖書閱覽ハ總テ無料トス
- 第六條 圖書閱覽希望者ハ圖書閉覽證(求需ノ書名冊數番號及住所職業氏名月日ヲ記入シ出納所ヘ提出シテ書冊ヲ借受クベシ)

- 第七條 貸附圖書ノ員數ハ求覽人ニ對シ一時ニ和裝書ハ二種十二冊洋裝書ハ二種二冊ヲ限リトシ和洋併借ノ時ハ各其半數ニ過アルヲ得ズ但語學ニ關スル辭書ノ併借ハ此ノ制限外トス
- 第八條 借受ノ圖書ハ閱覽室外ヘ携帯スルコトヲ得ズ
- 第九條 過失ト故意トニ關セズ借受ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚損毀傷シタル時ハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ辨償セシム但汚損ノ狀況ニ依リ本文ヲ斟酌スルコトアルベシ又其行爲ノ次第ニ依リ一ヶ月乃至一年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ
- 第十條 本館ノ規則ニ違背シ又ハ本館臨時ノ揭示ニ從ハズ不法ノ行爲アル者ハ其情狀ニ依リ一ヶ月乃至一ケ年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ
- 第十一條 閱覽席チ一般、婦人、兒童ノ三區ニ別チアレバ猥リニ他席チ侵スベカラズ
- 第十二條 閱覽所内ニ於テハ一切音讀、談話、喫煙ヲ禁ズ
- 第十三條 何人ニテモ圖書ヲ寄贈セラル、トキハ其目錄員數及住所氏名ヲ詳記シ寄贈圖書ニ添テ送付セラレタシ但寄贈圖書運搬費用ヲ自辨シ難キ向ハ時宜ニ依リ本館ヨリ之ヲ支辨ス
- 第十四條 凡ソ公衆ノ閱覽ニ供シ若シクハ保管ヲ請フノ目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セント欲スル者ハ其事由目錄員數ヲ詳記シ必ズ本館ヘ照會シ承諾ヲ得タル後其圖書ヲ送致サルベシ
- 委託ノ圖書ハ館藏ト同一ノ取扱ヲナスベシ
- 委託ノ圖書ハ厚ク保護スト雖モ不幸火難盜難其他天災ニ罹リテ損失敗亡チ來スコトアリトモ本館ハ其責ニ任セズ
- 第十五條 館外圖書貸出特許規則ハ別ニ之ヲ定ム 以上

成田圖書館圖書貸出規則

- 第一條 本館圖書帶出ノ希望者ハ左記ノ手續ヲナスベシ
- 一 圖書帶出願書ヲ差出スベシ
- 二 圖書帶出願書ハ保證人ヲ要ス
- 三 圖書帶出願書ノ保證人ハ一應本館ノ承諾ヲ經タル者ニ限ル
- 四 保證金五圓ヲ預納スベシ
- 五 成田中學校、成田高等女學校、成田幼稚園、成田學園教職員ハ同主任若クハ理事ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
- 六 新勝寺徒弟及詰合員ニ限リ同寺執事ノ證明ニ依リ成田尋常高等小學校職員ニ限リ同校長保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
- 七 五、六項ノ場合ニハ四項ノ保證金ヲ要セズ
- 第二條 本館ハ前條ノ手續ヲ了シタル上ニテ帶出簿ヲ交附ス
- 第三條 貸出圖書數ハ一回ニ付和裝書ハ二種十冊以內洋裝ハ二種二冊以內トス和洋併借ノ時ハ各半數以內トス
- 第四條 貸出期間ハ一週間以上三週間以內ノ範圍ニ於テ本館ノ見込ヲ以テ其時々之ヲ定ム
- 第五條 期限ニ至リ尙續借セントスルモノハ一旦返納シ更ニ借受ノ手續ヲナスベシ
- 但他ニ同書ノ借覽ヲ請フモノアル時ハ續借ヲ謝絶スルコトアルベシ
- 第六條 特許借受ノ圖書ト雖モ本館ニ於テ要用アル時ハ臨時返戻セシムルコトアルベシ
- 第七條 帶出權ヲ得タル者ニシテ他所ヘ轉居スルカ其他事故アリテ本

- 館圖書ノ借覽ヲ要セザル時ハ其旨届出ツベシ
- 第八條 保證人死亡其他ノ事故ニ依リ資格ヲ失ヒタル時ハ更ニ保證人ヲ定メ定式ノ證書ヲ差出スベシ
- 第九條 左記事項ニ該當スル圖書ハ帶出ヲ許サズ
 - 一 大部ノ圖書
 - 二 各學科ノ事彙、字書、類書、書目、新聞
 - 三 館内閱覽人ノ請求多キ圖書
 - 四 貴重高價ナル圖書
 - 五 新刊圖書ハ二ヶ月乃至三ヶ月後定期刊行書ハ裝釘ノ上ニアラザレバ貸出セズ
- 第十條 借覽期限ヲ經過シ本館ノ注意ヲ受クル二回ニ及ビ尙返戻セザル時ハ本館ハ圖書帶出ノ効力ヲ取消シ其事情ニ依リ再ビ之ヲ付與セザルベシ此場合ニ於テハ保證金ヲ以テ帶出圖書ノ代金及其費用ニ充テ尙不足ヲ生ズル時ハ保證人ニ辨償セシムベシ
- 第十一條 借受圖書ヲ紛失シ若クハ汚損シタル時ハ本人及保證人ハ辨償ノ責ニ任ズ
- 第十二條 圖書帶出ハ開館期間中ニ限ルモノトス
- 第十三條 圖書帶出ヲ中止セントスル時ハ直ニ保證金ヲ還附スベシ以上

昭和二年 圖書寄贈者芳名

赤尾和	三	海瀨勝藏	一	高尾山藥王院	一
淺井儀助	九	外務省	一	高木利太	一
安達一郎	四	科學畫報社	一	高橋健吉	一
安達次郎	四	學習院圖書課	一	智山派宗務所	一
石井絹治郎	一	片倉製絲紡績會社	一	千葉縣知事官房	二
石井唯助	一	神奈川縣警察部	一	千葉縣廳	八
石橋廣七郎	四	神奈川縣廳	二	千葉縣郵便局	一
石原吉太郎	五	榑田共濟會	一	朝鮮總督府	四
上田恭輔	一	簡易保險局	二	貯金總局	一
上原綠葉	一	北田彦三郎	二	月館豪績	一
宇井廣至	二	木村莊太郎	三	土屋龍之助	二
潮田健二	二	協調會	二	帝國地方行政學會	二
大久保常平	一	京都帝國大學圖書館	一	鐵道省運輸局	三
大竹又次郎	一	京都圖書會	一	寺田林太郎	四
大谷大學圖書館	一	桐島像一	一	東亞研究會	二
大橋圖書會	一	啓明會事務所	一	東京高等工業學校	一
小倉義光	一	行道會支部	一	東京市社會局	三
尾崎知光	一	神戶高等工業學校	一	東京帝國博物館	一
灰崎知光	一	神戶市立圖書館	二	東京天文臺	一

東北帝國大學	野田町圖書會	北海道帝國大學圖書館	矢野恒太
東洋文庫	野田町役場	前橋市立圖書館	山中文庫
富田敦純	八天書房	眞砂社	山梨縣山林會
富山市立圖書館	林三省	松田照應	山梨縣廳
內閣統計局	阪東宣雄	松平乘剛	吉植庄一郎
中村作次郎	日立製作所	間宮商店	吉田書店
行木誠	日比谷圖書館	滿鐵鮮滿案內所	依田美狹古
奈良女子高等師範學校	平田伯傳記編纂事務所	滿鐵東京支社	米本照全
奈良圖書館	布織小學校	水島芳靜	林業試驗場
日米協會	福岡縣立圖書館	最上慶隆	露西亞通信社東京支社
日露協會	藤山工業圖書館	山口圖書館	
日本興業銀行	古市公威		
日本勸業銀行			

昭和二年度 雜誌新聞寄贈者芳名 (毎號寄贈者のみを掲ぐ)

相田重義	修養世界	國家學會雜誌	石川富士雄
シネ、テアルト	神變	昭和日日新聞	富山房讀書界
荒木照定	第一義	新愛知	伊藤汎
アサヒ、グラフ	中外日報	體性	大正公論
大阪朝日新聞	安房郡水産會	內觀	潮田健司
家庭の友	水産の安房	日本及日本人	土上
國民精神	石川甚兵衛	三田評論	運輸時報社
社會問題研究	外交時報	三越	運輸時報

英學生新聞社	商科新報	淨化會	細菌學雜誌
英語青年社	日本口腔衛生	淨化	兒科雜誌
英語青年	日本之齒界	新興社	社會醫學雜誌
大阪出版社	研究社	清觀	千葉醫學會雜誌
英文大阪每日學習號	甲子社書房	新興	東京醫事新誌
大阪商船株式會社	佛教	新勝寺	日本消化機病學會雜誌
海	高野山時報社	新佛敎社	皮膚科及泌尿器科雜誌
大竹又次郎	高野山時報	愛と力	大成會
事業と廣告	高野山大學密敎研究會	杉山晴耕園	大成會々報
新聞及新聞記者	密敎研究	露	臺灣總督府鐵道部
義勇財團海防義會	語原研究後援會	須田寬治	統計月報
海防	語原研究	週問朝日	高田芳枝
加藤文一	時事新報成田專賣所	生活社	婦人俱樂部
科學畫報	時事新報	凡人の力	千葉縣教育會
無線と實驗	而眞會	青年日本社	千葉縣教育
鎌田共濟會	密宗學報	正民新報社	千葉縣消防新聞社
鎌田共濟會雜誌	史談會	正民新報	消防新聞
河村泰太郎	史談會速記録	淺草寺	千葉縣圖書館協會
禪宗	清水書店	淺草寺時報	千葉縣圖書館協會報
久保田章	法律經濟時潮	關川博通	千葉縣農會
齒科醫報	十善會	結核	愛土
齒科學報	十善寶窟		千葉縣聯合青年團
			千葉縣青年處女

千葉庶民新報社
 千葉庶民新報
 千葉毎日新聞社
 千葉毎日新聞
 千葉民友新聞社
 千葉民友新聞
 智山公論社
 智山公論
 智山派宗務所
 智山派宗報
 帝國圖書館
 帝國圖書館報
 鐵道省運輸局
 主要貨物情報
 鐵道新報社
 鐵道新報
 東京金物新報社
 東京金物新報
 東京市政調査會
 圖書室月報
 東京市養育院
 東京市養育院月報
 東京堂

東京堂月報
 同人社
 同人
 東洋協會
 東洋
 特許局
 特許公報
 内閣統計局
 統計時報
 奈良縣立圖書館
 奈良縣立圖書館月報
 成田高等女學校
 校友會雜誌
 成田中學校
 校友會雜誌
 日新時報社
 日新時報
 日本弘道會
 弘道
 日本赤十字社
 博愛
 日本圖書館協會
 圖書館雜誌

忍頂寺務
 清元研究
 傳説
 醫學、其他
 野田町圖書館
 砂丘
 野田讀書會報
 野村教育研究所
 教育パンフレット
 ぼんだね社
 醉
 日比谷圖書館
 市立圖書館と其事業
 藤崎公道
 實驗治療
 治療及處方
 治療藥報
 日新治療
 日本婦人科學會雜誌
 ミュンヘンネルメザチニツ
 シエチツヘンシユリフ
 臨床醫學
 佛教聯合會

正教新聞
 古川與一郎
 ホケット
 奉公會
 奉公
 法律新聞社
 法律新聞
 菩提樹社
 我
 法華會
 法華
 前橋市立圖書館
 前橋市立圖書館報
 松田芳郎
 隣人の友
 松戸高等女學校
 松戸高等女學校々友會雜誌
 丸善株式會社
 學燈
 新刊月報
 マルセンス、
 アナウンスメンツ
 滿鐵社員會

協和
 茗溪會
 教育
 無水庵
 日本思想
 森江書店
 三寶
 諸岡 薰
 アサヒ、スポーツ
 諸曲界發行所
 諸曲界
 六大新報社
 六大新報
 早稻田大學
 早稻田學報

昭和參年八月廿八日印刷
昭和參年八月三十日發行

(非賣品)

編輯
行人兼

淺井 照次

千葉縣印旛郡成田町百九十三番地

印刷人

森 久一

印刷所

ぎんざ社印刷部

東京市深川區冬木町十番地

發行所

成田山新勝寺

終